2014

60th Anniversary

北海道乗馬連盟
六十年史

Photo by (c) Tomo.Yun (http://www.yunphoto.net)

北海道乗馬連盟

60th
Anniversary

発刊のことば

北海道乗馬連盟
会　長　吉　田　勝　巳

昭和28年に創立された北海道乗馬連盟は、60周年を迎えることができました。今日の基盤を築かれた先輩方に感謝と敬意を表すとともに、関係各位に心より厚く御礼申し上げます。

さて、北海道乗馬連盟が60周年を迎えた2013年は、日本国内にも大きなニュースが流れ、皆様もご存知のとおり2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定しました。

乗馬連盟60年の歴史の中では、千葉幹夫氏、布施勝氏、白井岳氏の３氏が北海道出身者としてオリンピックに出場しておりますが、2020年の東京オリンピック・パラリンピックにおいても、北海道から輩出された選手が出場し活躍することを、心から期待しております。

また、乗馬連盟主催５大大会の出場参加人数も年を重ねるごとに増加の傾向にあり、今後も充実した競技会運営や多くの方々に喜んでいただける乗馬連盟を会員の皆様とともに目指したいと思います。

2014年９月には北海道で初めて、全日本障害馬術大会PartⅡを開催する運びとなりました。関係各位のご協力を賜りまして、今後の北海道を担う若い力がこの舞台から飛躍することを心より期待しております。

最後になりましたが、記念誌の発刊にあたり多忙な中、資料集めや編集にご尽力いただいた方々に厚く御礼申し上げるとともに、今後の連盟の発展を先輩諸兄の業績に積み重ねていきたいものと念願し、発刊のご挨拶とさせていただきます。

北海道乗馬連盟
創立60周年記念式典・祝賀会

平成25年11月８日（金）
東京ドームホテル札幌

式　　典

開会あいさつ

会長・副会長

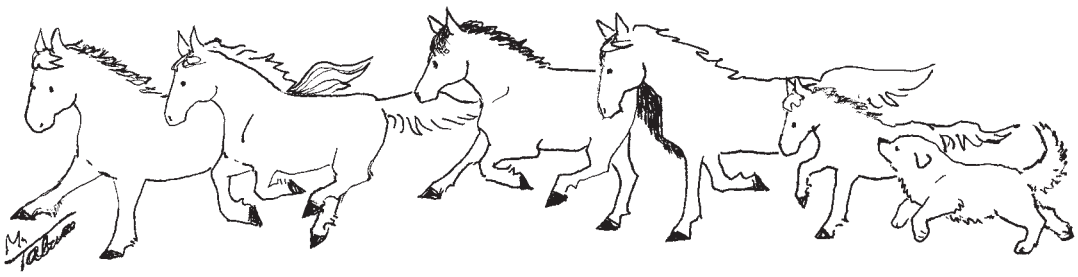
竹田　恒和　日馬連副会長・JOC会長

小野　忠　道馬連顧問

北海道乗馬連盟創立60周年祝賀会

日馬連　嘉納　寛治　副会長

道体協　堀　達也　会長



北海道乗馬連盟創立60周年祝賀会

北海道乗馬連盟創立60周年祝賀会

北海道乗馬連盟創立60周年祝賀会

北海道乗馬連盟創立60周年祝賀会

ノーザンホースフェスティバル2013
北海道乗馬連盟創立60周年記念大会
第38回 北海道馬術大会

平成25年８月８日（木）～11日（日）

観覧席の大きな看板

元オリンピック選手　布施　勝氏と子供たち

北海道発の総合馬術ワンスタークラス

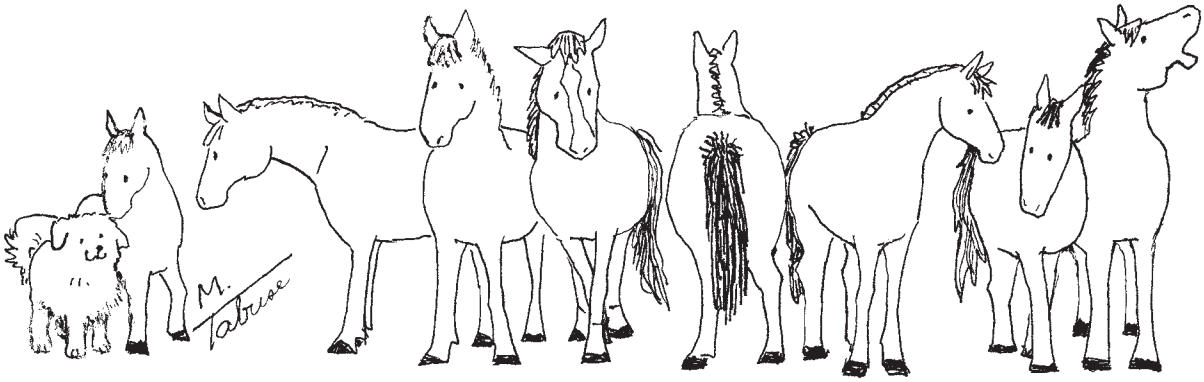
レジェンドカップ往年の名選手たち

吉田会長15年ぶりの現役復帰

レジェンドカップ優勝の吉田会長と市川副会長

記念大会レセプションパーティー

Barry Roycroft氏（総合コーチ）



20年の歩み

（平成６年～平成25年）

道馬連主催五大会

岩坪　徹、高橋　留次郎

カドリール（モモセライディングファーム）

ノーザンホースフェスティバル2012

サポートスラローム

市民大会・クリニック

H7　市民大会（ほくせい乗馬クラブ）

クリニック（ほくせい乗馬クラブ）

H14　中野　善弘氏

クリニック（フロンテア乗馬クラブ）

照井　慎一氏

半澤杯大会

モモセダービー

H22　半澤杯大会　箱番競争

H25　北海道地区審判・準コーチ講習会

北日本学生馬術大会

H14　原町市（現南相馬市）馬事公苑

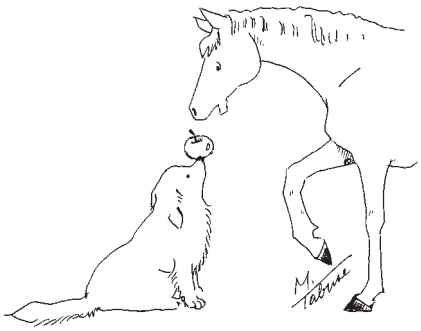
競技場入口

障害練習馬場

審判宿舎　抱月荘

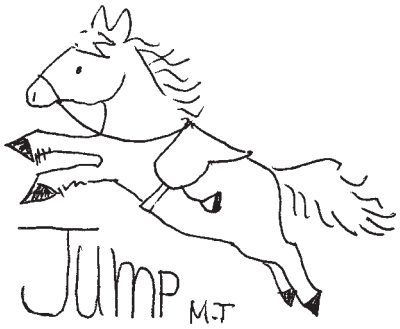
厩舎風景

野外コース



野外コース

ノーザンホースパーク



H25　帯広畜産大

H25　総合余力審査　帯広畜産大

H25　酪農学園大

H25　酪農学園大

H25　全日本学生馬術大会　北大　東京OB会歓迎会

第40回　全日本高等学校馬術競技大会（平成18年7月22日　ノーザンホースパーク）

国　　体

H16　埼玉国体　少年トップスコア　佐藤　信乃介

H19　秋田国体　少年標準障害優勝　半田　佑介　監督 宮竹　智明

H20　大分国体　北海道選手団

H21　新潟国体　中垣　彩也加

H21　新潟国体　百瀬　利宏

H23　山口国体　トップスコア　白石　由紀子

H24　岐阜国体　総合表彰式

H25　東京国体　北海道選手団　千会長と一緒に

エンデュランス馬術競技

H13　全日本エンデュランス スタート

H20　全日本 ベドウィン号
（写真提供：十勝毎日新聞社）

H21　全日本エンデュランス
（写真提供：十勝毎日新聞社）

H22　全日本エンデュランス
（写真提供：十勝毎日新聞社）

H22　全日本エンデュランス
（写真提供：十勝毎日新聞社）

H22　全日本エンデュランス　VETチェック
（写真提供：十勝毎日新聞社）

北海道乗馬連盟創立60周年を祝って

公益社団法人日本馬術連盟
会長　千　　玄室

北海道乗馬連盟創立60周年、誠におめでとうございます。北海道乗馬連盟は、平素より私ども公益社団法人日本馬術連盟の事業運営になにかとご協力、ご支援をいただき、あらためて御礼申し上げます。特に昭和52年には第15回日韓親善馬術大会の開催を北海道体育協会と共に主管していただき誠にありがとうございました。さらに平成26年は全日本障害馬術大会パートⅡの開催にご協力いただけるとのことで重ねて感謝いたし、御礼申し上げます。

さて、北海道乗馬連盟は昭和28年10月の創立と聞き及んでおります。私ども日本馬術連盟はその７年前の昭和21年９月の創立でありまして、馬術の発展を目的とした二つの団体が、共に昭和20年代に生まれ発展してきたことを思うと感慨深いものがあります。

北海道は、昭和29年と平成元年の２回にわたり国民体育大会を大成功裡に開催され、特に平成元年の浦河はまなす国体に際して建設された競技場は、現在も浦河町乗馬公園として乗馬の普及推進のためにご活用されていると聞いており、大変うれしく思っております。この浦河国体開催を契機に道内での馬術競技参加者が増え、北海道乗馬連盟の加盟団体数は20年前の35団体から、現在は52団体と大幅に増加しているとのことで、北海道の馬術の発展は喜ばしい限りです。

さらに、北海道からは今まで馬術のオリンピック選手が何人も輩出されております。また、北海道は我が国有数の馬産地で、競走馬の生産はもとより多様な用途の乗用馬が毎年数多く生産されております。2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されますので、世界を舞台に活躍してくれる人馬が北海道から出てくれることを期待しています。

結びにあたり、この60年間の北海道乗馬連盟の発展にご尽力された会員の皆様ならびに関係者各位に対しまして深甚なる敬意と感謝を申しますとともに、今後とも両連盟が更なる飛躍を遂げますようご祈念申し、私の挨拶といたします。

北海道乗馬連盟創立60周年をお祝いして

北海道知事　高　橋　はるみ

北海道乗馬連盟が創立60周年を迎えられますことを心からお祝い申し上げます。

貴連盟におかれては昭和28年の創立以来、本道における馬術競技や乗馬の普及・促進に努められ、本道のスポーツや文化の発展に大きな貢献を果たしてこられました。永きにわたり情熱を注いでこられた歴代役員をはじめ、会員の皆様のご尽力に深く敬意を表します。

馬文化が広がる道内では、人馬一体となって、より正確に、より優雅に騎乗する技術を競い合う競技として、性別や年齢の違いを超えて楽しむことができる馬術競技や馬とのふれあいを通じた心の癒しと心身のリフレッシュを求めるホースセラピーやホーストレッキングなど、多くの方々が馬に親しんでいます。

馬術競技をはじめとするスポーツは、心身を鍛えるとともに、人と人との出会いや感動の共有を通じ、人生に喜びを与え、明るく健全な社会づくりに大きな役割を果たしています。

道としても、少子高齢化が急速に進展する中、生涯を通して心身ともに豊かなスポーツライフを築くために、スポーツ環境の充実に努めてまいりますので、皆様におかれましても、この節目を契機としまして、より一層のご協力をいただきますようお願いいたします。

皆様におかれましては、馬産地北海道から馬術競技や乗馬の魅力をより多くの方々に伝えていただきますとともに、輝かしい60年の歴史を礎として、今後とも北海道における馬文化のさらなる発展にご尽力いただきますようお願い申し上げます。

終わりに、北海道乗馬連盟のますますのご発展と会員の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げ、お祝いのことばといたします。

北海道乗馬連盟創立60年史祝辞

公益財団法人北海道体育協会
会長　堀　　達　也

北海道乗馬連盟が創立60周年を迎えられ、記念史が発刊されますことを心よりお祝い申し上げます。

皆様ご承知の通り昨年は、日本のスポーツ界にとって忘れることのできない画期的な年になりました。９月８日、日本時間早朝５時にも関わらず多くの日本国民は、オリンピック東京開催決定の瞬間の沸き立つ感動、そして未来への夢と希望を味わうことができました。まさに、スポーツの持つ無限の力に酔いしれた至福の時と言っても過言ではないと思います。スポーツ界に身を置く者の一人として、このオリンピックの東京開催を契機に、日本における全てのスポーツがより一層、充実・発展していくのは間違いのないことであると確信したところであります。

このような日本国中が歓喜に包まれた年に、貴連盟は創立60周年を迎えられたのであります。私は、このよき年に奇遇にも60周年を迎えられたことは、今後の北海道乗馬連盟の明るい未来を明示しているように思えてなりません。

私から申し上げるまでもございませんが、馬術競技とは、馬と人とが一体となり行う大変繊細なスポーツです。馬との信頼関係に成り立つその研ぎ澄まされた感覚と演技の正確さは、見る者の心を奪う美しい競技であり、オリンピック種目の中では唯一、男性と女性が同じステージで戦う種目でもあります。

貴連盟は、昭和28年の創立以来、60年にわたり本道の乗馬界を総括され、千葉幹夫選手や、布施勝選手、白井岳選手をはじめとする、多くの道産子トップアスリートを輩出されてきました。また現在は、加盟52団体、413名の個人会員を統括されるなど、組織と人材の育成にご尽力されてこられました。まさに貴連盟の60年に及ぶ地道な活動と本道スポーツ界の牽引者としての大きな役割を担ってきた実績は、歴代の会長さんをはじめとする多くの方々のご苦労とご努力の賜物であり、改めて貴連盟に関わってこられた全ての関係各位に感謝とお礼を申し上げる次第です。

本会といたしましては、本道のスポーツ振興の一層の充実・発展を図るためには、貴連盟とのより緊密な連携が不可欠であると心新たに再確認したところであり、今後とも本会に対する、より一層のご支援ご協力賜りますようよろしくお願いいたします。

結びになりますが、貴連盟におかれましては、この60周年を契機とし、これからも道民の

期待とニーズに応えていただきますよう、ご期待申し上げますとともに、北海道乗馬連盟が一層の充実・発展されますようご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

目 次

CONTENTS

発刊のことば

北海道乗馬連盟会長　吉田　勝巳

北海道乗馬連盟創立60周年記念式典・祝賀会
北海道乗馬連盟創立60周年記念大会
20年の歩み

ご　祝　辞

北海道乗馬連盟創立60周年を祝って
公益社団法人日本馬術連盟会長　千　玄室
北海道乗馬連盟創立60周年をお祝いして
北海道知事　高橋はるみ
北海道乗馬連盟創立60年史祝辞
公益財団法人北海道体育協会会長　堀　達也

北海道乗馬連盟60周年に寄せて

北海道との縁
国際審判員　村上　捷治 …… 1
北海道馬術界と私
乗馬クラブクレイン　服部緑地乗馬センター
岩坪　徹 …… 2
回想
フロンテア乗馬クラブ会長　谷口　健一 …… 4
道大会の帯広開催と道馬連運営
帯広畜産大学OB会会長　中曽根　宏 …… 5
ノーザンホースパークでの競技会開催
ノーザンホースパーク　広瀬　春行 …… 7
北海道の馬術大会とヨーロッパ研修、オリンピック
白井牧場不二ファーム　白井　岳 …… 8
エンデュランス世界選手権（ドバイ）に参加して
マイステーブル　安永　大介 …… 10
テキーラ号と私
乗馬クラブテキーラ　高野　文彰 …… 12

CONTENTS

オリンピックに出場して
日本中央競馬会　布施　勝 …… 13
どさんこの世界挑戦報告
どさんこトレッキング代表　本田　正則 …… 15
ほくせいの女性ライダーとして
一般社団法人札幌乗馬倶楽部　村上　陽子 …… 17

座　談　会

創立の頃をふり返って（昭和世代が語る）…… 21
これからの道馬連（平成世代が語る）…… 31

北海道乗馬連盟の歴史

概　観 …… 38
学　生　馬　術 …… 39
高　校　馬　術 …… 42
エンデュランス馬術競技 …… 43
北海道乗馬連盟史年表 …… 46

資　料

国民体育大会馬術競技成績一覧 …… 64
北海道乗馬連盟表彰受賞人馬一覧 …… 80
公益社団法人日本馬術連盟表彰受賞人馬一覧 …… 85
公益財団法人北海道体育協会表彰受賞者一覧 …… 87
南部忠平奨励賞受賞者一覧 …… 87
北海道新聞スポーツ賞受賞者一覧 …… 87
北海道乗馬地図 …… 88
北海道乗馬連盟加盟団体（会員）名簿 …… 90
北海道乗馬連盟組織図 …… 92
平成25年度北海道乗馬連盟役員名簿 …… 93
日本馬術連盟北海道地区審判員名簿 …… 94
北海道乗馬連盟会則 …… 96
編　集　後　記 ……103

カット：田伏　美穂

付録ＣＤ

1．北海道乗馬連盟創立60周年記念式典
2．道馬連主催五大会競技記録

北 海 道 と の 縁

国際審判員　村　上　捷　治

私が初めて北海道に縁を感じたのは、昭和29年～32年の間に大映映画からの依頼で父が5頭の乗馬を東京から貨車で北海道に運んだことがきっかけでした。「敵中横断300里」という題名で、主演は菅原謙次・八潮悠子さんで、雪のシーンのロケで北海道に行ったのですが、雪が降らなくて困ったと…毎晩ススキノで遊んでました。当時JRA札幌の故大木正巳さん、馬乗りの歯医者さんの庄内貞夫さんにお世話になっていたそうです。協力していたのは、北大の学生だった千葉幹夫さんと樋口正明さん等々でした。

私が学生を卒業してから、北星乗馬クラブ/村上隆保氏から依頼されて当乗馬クラブは勿論、岩見沢・旭川・帯広・浦河など、また帯広畜産大学・北海道大学・酪農学園大学などの巡回指導で大いに楽しみました。

特に思い出深いことは、浦河国体のために少年少女を対象として参加選手を30名集めたことです。JRA日高育成牧場の乗馬を10頭お借りしたのですが、騎乗時間がひとり20分程しかなかったので、浦河高校の竹之内博康先生と共に充実した練習プランを考えるのに一苦労しました。宿舎はピスカリ館で毎晩夕食とミーティングで、馬術の他にも子供たちの悩みなどをトークしながら和を図りました。これによりそれこそ絆が作られ、合宿終了後もまたみんなで会いたい気持ちで一杯でした。そして参加者の多くはJRAに就職したそうです。

次に個人的な話です。帯広畜産大の故氏間慎夫氏の所有馬で、障害馬に育てようとするフェニックス号と馬場馬術馬に育てようとするシャングリラ号の調教を私が依頼されました。そのわけは、母校の馬術部に氏間氏がシャングリラ号を寄付しようとしたところ、断られたとのことでしたので、「何がなんでもセントジョージができるような馬にしてくれ」とのことでした。私も彼の感情がわかるので、「そういうことならやりましょう！」と引き受けました。次に調教過程の話です。フェニックス号は若馬ですが体格が良く、我儘なところがあって人間を軽く見ている感がありました。この精神的なことを治すには調馬索で雪の中を格闘するしかありませんでしたが、その後は口向きもよくなりハミ受けもよくなり精神的にも人間に対して従順になりました。障害調教はコンビネーションの障害を中心に行った結果バスキュールが良好になり、落下が少なくなり、全日本でも勝てる感じになってきました。そして内国産で10頭のジャンプオフの中で武笠昭夫君が見事に満点で優勝しました。故氏間氏が涙を流して喜んだ姿を思い出します。シャングリラ号については調教も進みセントジョージに出場できる程になりました。私が騎乗して馬事公苑ユドラ号記念馬術大会に出場しました。サラブレッド特有の特徴で演技中にテンションが上がりましたが、何とか無事に演技を終了し57%を取ることができ、これまた氏間氏と共に鼻高々でした。そしてこの2頭の調教は、広瀬春行氏の協力なしには成し得ませんでした。

平成元年より吉田勝巳社長のご依頼のもとノーザンホースパークのお手伝いをしていますが、この2頭がノーザンに入厩したのはやはり縁があったのでしょう。

北海道馬術界と私

乗馬クラブクレイン　服部緑地乗馬センター
岩　坪　　徹

貴連盟におかれましては、実に60周年を迎えられます由、心からお祝いを申し上げます。思い起こしますと先の大戦の敗戦による終結直後の混乱の未だ収まらぬ時期より今日に至る迄、営々としてその業務の維持・発展に努めて来られました当事者の方々に対し、改めて尊敬の思いを深くいたします次第です。

戦後未だ間もない第何回目かの国民体育大会馬術競技会の折と記憶しておりますが、各地からご参加の若い方々にお集まり頂き、これからの日本馬術界を我々の努力で盛り上げて行こうではないかといった事を話し合いました。この時、北海道からご参加の故鎌田正人様にお目にかかりました。これが私にとりましては北海道の馬術家、北海道馬術界の方々との最初のご縁を得た機会でもあった次第です。

その後、私は学校を出て新米サラリーマンになってからも馬にだけは乗り続けておりましたが、就職後約10年を経た昭和38年春、当時の上司から北海道営業所（所在地は札幌市内）勤務を打診されました。当時、関西勤務のサラリーマンにとって、大阪市内から北海道へ移転・赴任するというのはかなりの大事であり、簡単に「ハイ、そうですか」と承知できるものではありませんでした。しかし私としては、最大の驥北の地、北海道に対しては、当然ながら関心とともに、漠然とした憧憬をも抱いておりました。そこで、この転勤の話を聞くと、直ちに鎌田様にお電話し、札幌市及びその近郊で、日常騎乗できる環境がありや否やにつきお伺いいたしました。それに対する鎌田様のご意見は、札幌市北部の競馬場内に乗馬クラブがあり、会員の方々が騎乗しておられるから、そちらに入会させて頂けば、乗馬を続けることができるのではないか、といった内容のご回答でした。それを伺った私は、何しろ生来の単細胞人間のこととて、「これは有難い、そのような組織さえあるのなら、何がなんでもそのクラブへ入会させて頂き、毎日騎乗・馬術研修を続けずにはおかないぞ」と固く心に誓い、同時に札幌勤務の打診を受けた上司に対しては、「何時でも喜んで（？）赴任します」旨を答えた次第です。

昭和38年の３月末、私は幼児２人を含む家族4人で北へ向かう旅路につきました。丁度その年は「北陸豪雪」とかの呼称だったと思いますが、文字通りの豪雪で大阪から北陸廻り青森行きの直行列車が運休となり、先ず東海道線で東行して東京で一泊。翌朝、東京から東北本線で青森に向かいました。その日の夜遅く青森着、そのまま連絡船に乗り換え、生まれて初めて津軽海峡を渡りました。翌早朝、甲板へ出ると流石に寒風は肌を刺し、見上げる函館山は全山が白銀色に輝いていました。２日前、静岡県を通った時は、椿の花が咲いていたのと思い合わせ、「いよいよ来たな」の感を強くしたことを今も鮮明に記憶しております。

正午前には札幌駅着。今後の勤務先たる札幌営業所へ出頭して挨拶を済ませ、当日の午後は旅館で休養となりましたので、昼食を済ませると早速道順を教わって札幌競馬場へ行き、

乗馬クラブ関係者の方々にお目にかかり、入会したい旨をお願いしました。幸い関係者の中のお一人は、私が関西地区で騎乗を続けていたことをご承知だったこともあり、早々に入会をご承認頂き、その上「丁度一週間前に千歳の牧場から来たばかりの半血の新馬（父はサラブレッド）がいるからそれを調教してよい」とのことで、私は思いもかけぬ幸運に躍り上がりたい心地がしたものです。これも北海道馬術界の方々のおおらかなご厚情の賜物と今思い出しましても胸の熱くなる思いがいたします。

それからは、関西在住の時と同様、早朝に起きて競馬場に直行し、一鞍騎乗してから何喰わぬ顔（？）で出勤、の毎日を繰り返していました。

ご承知の通り、乗馬クラブの所在地（競馬場）が当時の北大馬術部の馬場と近かったものですから、勢い同大学馬術部の方々とお会いする機会が多くなり、日曜・休日には飛越練習・競技コースの馴致等に馬場・施設を頻繁に使用させて頂いたものです。又一方、当時から私自身、「これぞ我が生涯の目標」と心に決めておりました自然馬術方式（イタリアで発生した関係で別名・イタリア馬術方式）の研修に取り組むと共に、その特徴について、その優越性について信ずるところをお話ししましたところ、私にとりましては稍意外であり又実に嬉しいことに同大学馬術部の一部の方々は、これに非常に興味・関心を示され、熱心にその学習に取り組まれました。私としましては、なるほどこれが話に聞くクラーク博士以来の北大のフロンティア・スピリットなのか、と強く感銘を受けた次第です。その数年後、同大学馬術部の選手諸君が、毎年のように学生馬術界に於いて、赫々たる成果を発揮されましたのは、当時の部員諸兄が心に抱いておられました強烈な理想への憧憬がその素因ではなかったかと強く感動いたしました次第です。また私からお伝えしましたイタリア馬術方式の特性が、それを支える一因となったのではなかったか、と心から嬉しく且つ頼もしく思いました次第です。

ここ迄書き続けてふと気付いたのですが、貴連盟ご担当の方からご指示いただきました原稿枚数を既に何割か超過してしまいました。このまま思い浮かぶままに書き続けますと、ご指定の枚数の何倍になるやら計り知れぬこととなってしまいます。これでは何とも申し開きが立ちませんので、理由の如何を問わずこのわけの判らぬ雑文は、これにて打切りとさせて頂きたく存じます。ご無礼の段、平にお許し願いたく、伏してお願い申し上げます次第です。ただ、上記の時期より今日に至ります迄の経過のみ附記致しますと、どういうご縁なのでしょうか、約50数年後の1998年７月、再び北海道に居住し、またしても毎日馬の生活を続け、いつのまにかそれから11年が過ぎました2009年の秋、私の不注意による落馬事故（頭・腰部の打撲、入院16日間）等が原因の身体的理由により、この時もまた、心ならずも北海道を去り、大阪に舞い戻った次第です。

私にとりましては、人生の何割かを、それも夢のような幸福感に包まれて過ごしました北海道は、文字通り私にとって「第二の故郷」そのものです。今後私の人生が果たして何年続くかは、「神のみぞ知る」ところでしょうが、私にとりましては北海道こそは、終生忘れ得ぬ想い出の地であり、またこの様な想い出を与えて下さいました馬術界の方々、北海道乗馬

連盟の方々に、心からのお礼を申し上げます次第です。今後とも貴連盟のご発展を心よりお祈り申し上げます。

回　　想

フロンテア乗馬クラブ
会長　谷口健一

1954年（昭和29年）の夏、札幌で国体が開催され、円山グラウンドに天皇陛下を迎えた開会式に、日の丸の小旗を手に参列したことを憶えている。石狩の中学校１年生であった私には天皇陛下に拝謁するのは初めてであったし、同じ会場で観た「遊佐幸平」の供覧馬術は、私が遊佐幸平を目のあたりにした最初で最後である。どちらも子供心にも強烈な感動が記憶に残っている。

この国体の開催を契機に「乗馬連盟」はじめ、いくつかの競技団体が設立されたものと思われる。あれから、60年も過ぎたのかと感慨深い。そもそも日本の馬術は、戦前は陸軍の騎兵、戦後は学生馬術が中心に継がれてきた。私が子供（小学生）のころ見た馬術は、北大の農場内を駈ける学生と、当時、進駐軍のキャンプ（真駒内）から我家へ遊びに来る米兵が馬小屋からひき出した半血種にまたがり駈けまわっていたのを見ていたくらいである。（当時我家には繋駕競馬に使う半血種が数頭居た）

その後10年、東京オリンピックを経て昭和40年代に入り、国内各地に「乗馬クラブ」が出来はじめると、関東、関西の大都市圏を中心に乗馬をはじめる人が徐々に増え、日本馬術連盟の傘下、各都道府県馬連は競技団体としての活動が盛んになってきた。

昭和40年代に入り札幌での冬季オリンピック開催が決まり、「いよいよ札幌も国際都市の仲間入りだ…」の気運がたかまる中で当時所属していた青年会議所などのすすめもあり、昭和46年７月、フロンテア乗馬クラブをオープンした。ものの、周囲からは、「道楽息子の道楽！」の揶揄どおりのものであった。そのころ東京で戦後まもなくアバロン乗馬学校を開設し、やはり運営に苦労をしていた武宮正旺氏に出逢い、「今度、乗馬クラブの全国組織をつくるので君も手伝え」のひとことが以後38年間この組織にかかわることとなった。

この組織を利用して「フロンテア」も安定経営にもってゆきたい…そんな「打算」もあったのである。

昭和47年設立した「全国乗馬倶楽部連合会」のコンセプトは日本に於ける「乗馬の普及」であった。乗馬クラブの経営者たちが協力して、乗馬人口を増やすことが夫々の経営を安定化し、競技人口も増やすことになる。

「普及」をするためには、人づくり、馬づくり、施設の整備、この３要件が肝要であり、この組織の３大事業でもあった。この趣旨に理解をし賛同してくれた「日本中央競馬会」は設立以来、毎年、数億円規模の助成金を交付してくれた。平成24年現在、全国で279（内北海道22）の乗馬クラブは正にこの組織のもとで生まれ育ったと言っても過言ではない。

そんな訳で過去40年、多くの理解と協力を得て「乗馬普及」というテーマは順調に推移してきたと思っている。だが40年もたてば世の中の構造や人々のものの考えも変化して当然である。

今日、迎えた高齢化社会、恒常化した経済不況、未曾有の天災に乗馬クラブのみならずレジャー産業界は大きな変革を求められている。しかしどんな時代であっても人々は価値ある余暇（リフレッシュ）を求めてやまない。

北海道乗馬連盟の主たる事業は「馬術競技」の遂行である。加盟乗馬クラブは競技力の向上もさることながら「価値ある余暇」を提供する場所でなければならない。

30年以上も昔のことだが、鷲田氏と八木氏との３人で美園の居酒屋での席で彼らに問うたことがある。「他の府県は一様に＜馬術連盟＞と称するのになぜ北海道は＜乗馬連盟＞の名称にこだわるのか？」と。彼らいわく「北海道は馬術のレベルではなく乗馬連盟の方がなじむ」という話を聞き、彼らの「思い」も「普及」なのだと解し、大いに感銘したことを思いだす。

60周年を迎えた北海道乗馬連盟、その加盟乗馬クラブは更に、人、馬、施設の拡充を期し、一層の乗馬普及に努めることが北海道（日本）の馬術の振興につながるものと念じている。

道大会の帯広開催と道馬連運営

帯広畜産大学ＯＢ会
会　長　中曽根　　宏

「道馬連運営の頃」についての寄稿依頼があったけれど、50数年以前のことで記憶も薄くなっているので、不正確で単なる思い出話になるがご容赦願います。

小生、畜大馬術部入部が昭和33年４月。道馬連ができて５年目の頃で、畜大が国体予選に出場し始めた年である。当時の道大会は、北大馬場、大通り公園の７丁目（？）広場とかであったが、大通りは大変な会場で、パンパンの地盤で転んだらいかにも怪我をしそうで怖いもんだった。

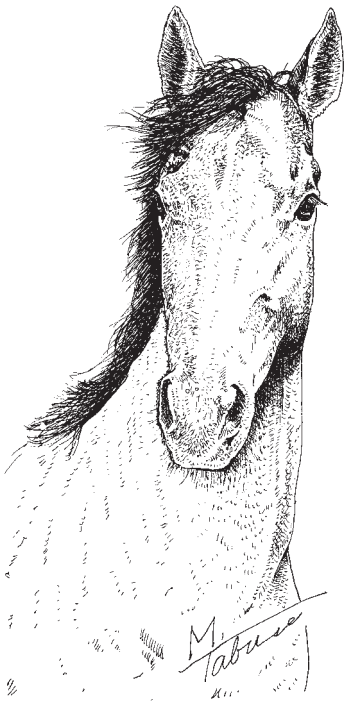
昭和36年、鷲田と二人で道大会を帯広で行うべく道馬連の役員会に申し込んだところ、簡単に認められると思いきや、当時の道馬連の偉いさんだった競馬場の大木さん、庄内さんあたりが頑としてうんと言わない。いわく「学生だけで道大会の運営ができるわけがない」、「試合ができるようなところがあるのか」、「障碍はあるのか」、云々。こっちは「やらせもしないでできるかどうかわかるもんか」、「少なくとも大通りよりはいい場所がある」とか言ってがんばって、北大の応援があって２時間かかってやっとOK。実際は馬場が80ｍ×130ｍのが新設され、鷲田が工事現場から調達した足場丸太で北海道で初めて審判席を２ｍ上げたところに置いて、障碍もほとんど自分たちで新たに作って準備完了。障碍もＨ120～140、Ｗ250で並べておいたら、杉山審判長に「部内試合と違うんだ。お客が来るんだろうが」と叱られて下げられたのが唯一失敗。大好評で次の年も帯広開催になり、やっと道馬連で帯広が

認知されたのが昭和36年であった。

昭和49年頃、鷲田が「道馬連の運営がおかしく会計処理も不透明。あれでは学生がかわいそうだ。道馬連の改革をやるから協力してくれ」と言ってきた。「よしきた」ということで高橋賢一会長、半澤理事長の承諾を得て、事務局からは八木・伊藤に協力してもらい、彼を専務理事にしてスーパーヤマワの２階に若い馬力のあるOBが集まってワイワイやりながらほとんど自分達の手でいろんなことをやった。運営、会計処理もガラス張りにして、誰にもわかるようにしたし、道馬連の各試合も馬場を造ることから始めて、手伝ってくれる学生達に報酬をきちんと払うようになったりで、あっという間に見違えるような道馬連になったと思っている。

昭和64年北海道での国体が決まって、「さあこれからだ」という時に事故で鷲田を失ったのは痛恨の極みであったが、なんとか彼の思いのためにも国体を成功させようとがんばり無事終了させたあたりまでが、皆まとまって道馬連に関わったのかなと思っている。

先日新宿から小田急線に乗ることがあって懐かしくて経堂の駅に降りてみたが、もちろん駅前はずいぶん変わっていたが、駅裏の馬事公苑に向かう道は思い出どおり細かく曲がっていてまわりは低い家並みが続いていた。50年前東京国体と全日本に出る馬を３頭は乗り２頭は並馬で馬事公苑まで運んだ。朝8時ごろの出勤時間、せまい道にたくさんの人が歩いてくるなか、貨車から１週間振りに降りてバタバタしている馬をなんとか走らせないよう逃がさないよう人々をかきわけるように行くのは、まだ２年目であった小生にはすごい緊張だった。今ではあんな危ないことは絶対できないだろうけど。



ノーザンホースパークでの競技会開催

ノーザンホースパーク
広　瀬　春　行

北海道乗馬連盟主催の大会は、ノーザンホースパークで開催されるまでは、道内各地の乗馬施設を利用して大会開催を行なっていました。帯広地区は帯広畜産大学、旭川地区は旭川競馬場、岩見沢地区は岩見沢競馬場、札幌地区は北海道大学、ほくせい乗馬クラブ、日高地区は日高ケンタッキーファーム、浦河乗馬公園などで持ち回りでの大会開催で、また各地区で運営本部をつくって、寄付集めを行なっていました。競馬場では厩舎があるので、仮設厩舎の必要はなかったのですが、各地区からくる馬を収容する仮設厩舎は業者に依頼して建ててもらう必要があるわけで、大会運営経費の大部分を占めていました。道馬連の財政も厳しいものがあり、広告、寄付集めが大変な労力になっていました。

ノーザンホースパークで平成３年９月20～22日に第27回東日本馬術大会を開催することになり、仮設厩舎の設置が必要になり100馬房の仮設厩舎が設置されました。準備馬場も70×60mの当時はウッドチップを敷き詰めた馬場で、学生さんが「ウッドチップより審判棟どうぞ」と無線をかけるのはその名残です。

当時の八木専務理事と話をして、大学馬術部のアルバイトを活用し乗馬連盟が直接大会運営を行ない、学生は大会出場と競技運営を手伝って、その報酬を馬術部の収入にできるという一石二鳥の案を考えて、ホースパークでの大会開催が定着しました。フレンドリー競技はホースパークが主催で、施設利用料の名目でエントリー代をいただいていましたが（その代金は賞品として出場者にお返ししていましたが)、担当大学への援助としてすべて大学馬術部の助けになっています。ですから、北大、酪農大の馬術部のみなさんは、八木さんに感謝感謝、道馬連も大学馬術部に感謝感謝であります。

大会開催数も春、国体予選、公認大会の３から５に増えて５月から月１回の９月までの開催になりました。北日本学生馬術大会も、原町と交互に開催され、野外走行のコースを設置して、馴致も大会のたびに行ない、畜大OBの私としては、がんばれ畜大と思っていますが、畜大の馬がまさか野外で拒否するなんて夢にも思わなくて、北大の出戸君が総合馬術で個人優勝したときはさすがに落ち込みました。３・11の東日本大震災の影響で、福島県の原町競技場がしばらく使用できないので、何年かはホースパークでの北日本学生の開催になりそうです。

平成26年９月には全日本障害パートⅡを開催する予定です。現在その準備を障害本部と詰めているところです。競技場から外に出るダービー競技のコースを本馬場と第１厩舎の間の林の中にバンケット、水濠をつくれたらと考案中です。国体出場馬の馴致、大学馬術部のためのダービー競技種目をつくったりできそうです。

「こんなに恵まれた環境は世界一です」。吉田勝巳会長の理解がなければできないことですので、有難く使わせてもらい、良い成績を上げましょう。

北海道の馬術大会とヨーロッパ研修、オリンピック

白井牧場不二ファーム
白　井　　岳

私が初めて競技会に出場したのは、旭川での競技会だったと記憶しています。当時はまだ秋口に入りかけの時期でしたが、朝方は非常に寒く、乗馬仲間と寒さを口にしながら朝の餌やりをした記憶がかすかに残っています。もう30年も前のことです。当時から父、白井民平の指導のもと、近くの牧場の子供達と一緒に乗馬練習に励んでいました。父は非常に子供の指導に熱を入れていて、数人の生徒の中から日本有数の馬術選手を輩出したいと考えていたんだと思います。皆年齢が上がるとともに勉強やその他の事情などで乗馬からは離れていきましたが、皆で練習する日々や遠足気分で行っていた競技会は非常に楽しいものでした。

入賞を繰り返し、始めてきて競技会に別の楽しみを覚えてきた時期に、吉田勝巳氏のノーザンホースパークが競技会会場の中心になっていきましたが、北海道の馬術レベルも上がっていきました。現在の中央競馬がそうですが、技術ある外国人が当時の北海道で一緒に競技会に出ることは、自然と周りのレベルも上がっていく役割をしてくれていました。東日本馬術大会、ヤマハの競技会も行われましたが、日本トップレベルの試合は見ている人達にも非常に刺激的だったのではないでしょうか。

私は父の勧めもあり、高校途中でフランスに馬術留学をする決心をしました。騎乗技術はもちろん、練習環境、試合環境、馬術文化に日本との違いを感じました。精神的に未熟だったのと語学の問題で最初は色々な困難もありましたが、本当に貴重な経験をさせていただきました。

まず今一番感じるのは、騎乗技術においては体で物事を覚えるのと同時に、頭でも馬を理解しなくてはいけないということです。海外では、考えられない天才がいましたが、感覚だけではなく馬術を理論的に語ることが出来ていました。そして、経験を積むことによって得られる技術と、それを皆でディスカッションして自分のものにしていく応用力、そして人を認めることができる謙虚さが上に行けば行くほどありました。

また、それらの人たちに一致して言えたのは、馬の躾がよくできていたことです。騎乗技術だけでなく、普段の馬の接し方はただ可愛がるだけではなく、必要な場面ではしっかりと怒ることができて、主従関係をはっきりとさせていていることです。経験がないとその場面での対応の仕方に誤りが出ますが、その辺りの馬の扱いに知識と文化の差を感じました。

ヨーロッパのライダーから学んだ技術、調教面で受けた影響、教訓を以下に記します。

私がフランスで一番影響を受けたのは、その馬によって乗り方を変えるということです。簡単そうでこれはなかなかできません。誰が見ても基本的な技術があるライダーの為の参考として、以下に書きます。

・軽い馬にはツーポイントの姿勢を維持しながら(フラットワークの時点から)馬の邪魔をしない乗り方。少し重く感じる馬にはきちんとしたシートを維持しての乗り方。
・当たり前ですが、馬を推進するための正しいポジション。
・見た目の印象が軽そうな馬でもちゃんとしたシートをとっての騎乗、またはその反対もあります。全ては経験と発想がとても豊かであること。
・フラットワークをきちんとできること。（大障害馬でもセントジョージ近くまでの運動をできる馬もいました）
・細かすぎるぐらいハミにこだわること。
・体調面での管理の仕方。（馬という生き物をよく知っていること）

競技会への練習方法

・苦手なコースの徹底した練習。たとえばダブルやトリプル、水系のリバプール。
・試合前は若馬はよく飛越練習を家でするが、ある程度経験のある馬は余程のことがないかぎり、試合を使いながら馬のコンディションを上げていき目標としている大きな試合に挑む。（これはヨーロッパと日本の試合面の環境が違うので、同じ方法をとるのは難しいかも）

競技会に対する姿勢

・試合とは日々自分で練習をしていることの結果を確認するところであるということ。
・練習で出来ることが試合ではなかなかできない。ということは、練習でできないことは、試合では絶対にできないという考えかたで日々努力することが大切、と私の先生が言っていたことが、一番頭に残っています。

運良くオリンピックにまで行くことができましたが、やはり父が目標としていたものに連れていけたのは嬉しかったですし、北海道乗馬連盟から応援しに来てくれていた人達が日の丸を持ちながら声援を送ってくれていたことは、本当に力強かったです。本当はもう少し上の結果を出したかったのですが、オリンピックはそれほど甘いものではなく、その時点での自分の技術的にはあんなものだったと思います。しかし、騎乗していたヴィコンテは、本当に素晴らしい馬で、ああいう馬にもう一度出会えたらまたオリンピックに挑戦したいという気持ちになるかもしれませんね。現在はこれまで培ってきた経験を競走馬の育成、調教に生かしていくことを目標に仕事をしていますが、非常に充実しています。

とても恵まれた環境の中で私は馬術をさせてもらっていましたが、今思うと本当にお金もかかったと思います。現在私も子供をもつ身となりましたが、はたして自分の子が望んだ時に同じことをしてあげられるかはわかりません。ですが、これからはお世話になった北海道の馬術、その普及とお世話になっている馬達に少しでも恩返しをしていければと考えています。そして、未来のオリンピック選手や競走馬の世界で活躍していくホースマンを育てていきたいと思います。

エンデュランス世界選手権（ドバイ）に参加して

マイステーブル
安　永　大　介

私とエンデュランスとの出会いは、1995年に遡ります。アジアにおけるエンデュランス普及の足がかりとして、国際馬術連盟が十勝で開催した講習会に参加。当時の日本では考えられなかった160kmを走行する長距離騎乗、それもタイムを競うだけでなく、常に馬の健康状態を把握する能力が求められる"人馬一体"の競技であることに興味を持ったのです。

翌年６月には、エンデュランスの普及に尽力された故・新庄武彦氏とともに、オーストラリア最大の大会トム・キルティを視察。私のエンデュランスの師匠とも言うべきボブ・サンプル氏との出会いから、トム・キルティへの参戦を決意しました。渡豪したのは、オーストラリアのシーズンインである２月。サンプル氏の指導の下、トレーニングライドから始まる資格取りの後、97年６月ニューサウスウェールズで開催されたトム・キルティの軽量級に出場。シャラード・レクシア号（アングロアラブ／牝／11歳）に騎乗し、12時間８分で優勝することができました。

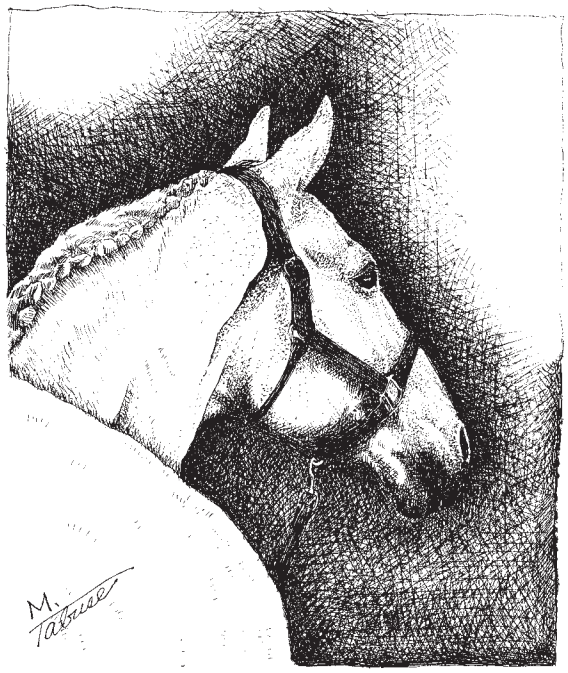
帰国後は、「日本でもエンデュランスを普及・発展させたい」という思いから大会等にも積極的に参加。妹の美登里も、サンプル氏の元でエンデュランスを学びました。そんな時「12月にＵＡＥのドバイで世界選手権が開催され、チーム参加の場合は招待制がとられる」という朗報が飛び込んできたのです。ただし、チームを編成するには最低４人の有資格者が必要。前述の新庄氏や故・楠山薫二郎氏、故・林田敬介氏など多くの方々のご尽力のおかげで、私と美登里、加藤淳氏、片山忍氏の４名が選手として、また楠山氏が監督として参加することになりました。

当時は、日本国内に出場資格のある馬がいなかったため、出場馬はすべて海外からの借馬。私たち兄妹はオーストラリアのピーター・トフト氏から馬を借りることにし、私がナツ号（アラブ／牝／８歳）、美登里がタラルーン・クレオ・ロイヤル号（アングロアラブ／牝／10歳）に騎乗することに。騎乗馬の輸送からトレーニング、日々のケアに至るまで、全面的にバックアップしてくれたのは、オーストラリアから日本チームに参加してくれたサンプル氏と馬主兼トレーナーであるピーター＆ペニー・トフト夫妻。北海道からも、久保田学氏がチーム獣医として、片山彰氏、小玉修平氏、三好春氏がクルーとして、私たちをサポートしてくれました。

ドバイでの世界選手権は、見る物すべてが驚きの連続でした。160kmの行程はすべて砂漠で、場所によって砂の深い所もあれば、アスファルトのようにパンパンに踏み固められた所もある。昼夜の温度差は激しく、日中は30度を超える暑さ。ライダーと馬はもちろんクルーによるケアも重要な要素でした。しかし、何より私たち兄妹を悩ませたもの、それは最低負担重量の75kg。私は15kg前後、美登里にいたっては25kgほどのデッドウェイトを鞍に仕込んでのレースでした。

そんな不安の中、いよいよ世界選手権が始まりました。162組の人馬が一斉にスタート。「君たちの乗っている馬は、世界最高クラスの馬たちだ」というトフト氏の言葉を胸に、2頭並んで走行しました。ただ一生懸命走っていた私たちが、あることに気づいたのは4レグの途中のこと。前回の王者であるアメリカのバレリー・カーナビー氏を抜き、トップに立っていたのです。しかし、砂漠のライドはそう簡単ではありませんでした。若さと経験不足から、知らず知らずのうちにオーバーペースになっていたのでしょう。クルーポイントに来るはずの車両がスタックし、人馬の水分補給がうまくいかなかったことも影響しました。結局、美登里の乗ったタラルーン・クレオ・ロイヤル号は4レグ後の獣医検査で失権。ナツ号のリカバリーにも時間を要し、最終5レグは3番目でスタート。そのまま巻き返すことができず、トップのカーナビー氏と約5分差の3位でレースを終えたのです。騎乗時間は9時間5分9秒でした。

日本チームとしての初出場、そして3位入賞と98年の世界選手権は、私にとって忘れえぬ大会となりました。レースの怖さを学ぶと同時に、世界はそれほど遠くないという手応えも感じたのです。すでに私は、エンデュランスライダーとしての活動は休止していますが、若いライダーには、機会があればぜひ海外に出てみてほしいと思っています。世界から日本を、そして北海道を見ることで、次世代につながる馬文化を育ててほしい。そう願っています。



テキーラ号と私

乗馬クラブテキーラ
高　野　文　彰

私が北海道大学馬術部に在籍していた昭和37年から41年までの４年間は、北海道乗馬連盟は歯科医の庄内さん、札幌市役所の岡田さん、北大の半澤先生等の馬術界の重鎮が中心で会を運営されていた。現役の選手陣としては札幌競馬場の高橋さん、札鉄の田中さん等が凄みの有る迫力満点の飛越を見せてくれた。後に岩坪さんがこれに加わり自然馬術の新風を送り込んでくれた。現役の学生選手は、畜大に鷲田さん、川久保さん、久保田さん、北大は市川現副会長、故人となられた八木正己さん等、現在の道馬連の基盤をつくられた方々が活躍されていたひとつの黄金時代のように記憶している。私は当時北大でエースであった北飄号に騎乗していたが国体出場を逃し、同期の久保田さんが全日本で優勝された勇姿を賞賛しながら吹っ切れない思いを胸に卒業した。この思いは長い間青春の忘れ物として、鉛のように心の片隅でくすぶっていた。

卒業して40年が経った。バブル期の東京に違和感を覚え、もっと自然と近い所でランドスケープのデザインをしたいという思いで東京を離れ、十勝の音更町で旧小学校を拠点に事務所を移転し、1990年から北海道での生活が始まった。北海道に戻りしばらくすると、また馬に乗りたい思いがよみがえってきた。十勝柏友会で川久保さん、久保田さんが朝練をしながら、がんばっておられるのは知っていたが、今さら学生時代のような生活に戻る勇気はなく、ウエスタンの乗馬クラブで自然の中を闊歩していた。でも、これはすぐに飽きてしまった。こんな時、友人から「高野さん、馬あげると言う人がいるけどもらうかい？」との電話、犬や猫なら聞いたことがあるがさすがに北海道、早速見に行った。悲しい事に、長年、馬術から離れていたので良い馬かどうかわからない。しかし私がもらわないと肉になるという話を聞き、これも縁と思い手に入れることにした。

そこで、改めて十勝柏友会の門を叩き川久保さんにお願いし、私とテキーラの新生活がスタートした。柏友会は馬の名前にはお酒に関連した名が多く、アブサン、シェリー、XO、ジョニクロ、等がいた。よく試合に行くと、場内アナウンスのたびによっぽどお酒が好きなクラブね～とのひそひそ話が聞こえた。テキーラ号と私は喜んでその仲間入りを果たした。

馬を手に入れてもまさか今更、45歳を過ぎて、また競技会へ出るとは思わず、ウイークエンドライダーで十分と考えていた。ところが、十勝地区大会で障害に出場する機会があった。おそるおそるスタートを切って一個ずつ目の前にくる障害を飛んでいると、ひとつ飛ぶごとに青春の１ページがよみがえり、ゴールした時にはすっかり気分は現役時代に戻っていた。

テキーラは、ダービー馬ハギノカムイオーの子供で祖母に純血のアラブの血を有する小柄な馬であった。競馬はあまり成績が上がらず、つらい思いをしたのか気性は激しく、馬房の前を歩くと向って来るようなこともあった。全身火の玉のようなエネルギーで何度も落とされた思い出がある。なんと言っても乗り手は長年障害飛越から遠ざかっており、飛ぶのが怖

い。とにかく小さな障害を丹念に飛び続けたことが幸いして障害馬としての基礎をつくっていった。デビューして間もない頃、静内での大会で２間歩はいる連続障害を１間歩で飛んで非凡な能力を示し、当時馬場にいた白井民平さんが目を丸くしておられた。次第に競技会のレベルが上がり130クラスの競技にも出場するようになり、オープン参加ではあったが並みいる外国産馬を相手に、ただ１頭無過失で帰り幻の優勝を果たしたこともある。当時少年だった現在の北海道のエースの１人である楠木さんは、今でもその飛越をおぼえてくれていた。また、道馬連をリードしていた普段は辛口の八木正己さんがニヤリと笑みを浮かべて自分のことのように喜んでくれた。テキーラは、神奈川（馬淵選手少年トップスコア２位）、熊本、富山（藤田選手婦人ダービー６位）と３回の国体に出場した。当時、国体の出場馬は数千万円クラスの外国産馬が半数を占めている中、小柄な競走馬上がりのテキーラが活躍するのを見るのは気持ちがよかった。

学生時代の不完全燃焼感が１頭の小柄な引退した競走馬との出会いによって火をつけられ、現在２頭を自宅で繋養して毎朝、現役時代の同期の小栗キャプテンと共に練習に励んでいる。現在68歳の私の人生は北海道乗馬連盟を舞台に１頭の馬との出会いによってとても豊かになった。「あいつとはウマが合う」ということわざがある。まさしく「テキーラと私はウマが合った」。

オリンピックに出場して

日本中央競馬会
布　施　　勝

この度、北海道乗馬連盟が創立60周年を迎えられましたことに対し、心からお慶び申し上げるとともに、60年という長い歴史の中でご尽力頂いた関係者の方々に北海道出身者として改めて感謝いたします。

私が「馬の世界」に身を置き、ゆくゆくオリンピックを夢見ることになったきっかけは、幼少の頃から身近に馬がいたことや、母が選手であったことなど様々な要素はありますが、やはり1番のきっかけは、北星乗馬クラブ時代にお世話になった初代理事長村上隆保先生の影響です。私は、大学進学のため18歳で北海道を離れましたが、先生には馬術の楽しさ・難しさを厳しく、そして愛情を持って教えて頂きました。当時は先生の「人づくり」にかける情熱から北海道の試合だけに留まらず、本州で行われる全日本クラスの大きな試合にも積極的に参加させて頂いたり、有名な馬術家を招聘したクリニックなど、北海道にいながら常に最先端の馬術を体験させて頂いたことが私のベースとなっています。沢山の全日本クラスの

生徒を輩出した村上先生は、北海道の馬術のレベルを上げたパイオニアであったと私は思っています。

オリンピックに関しては、当初は夢や憧れの存在でしたが、現実味を帯びてきたのは日本中央競馬会に入会して３年目の時でした。総合馬術の高度な技術習得のため本場イギリスで訓練できるチャンスが私にまわってきたのでした。渡英先では日本総合チームがお世話になっていたトレーナーの下でトレーニングを積むことになりました。

渡英して最初の４ヶ月は基礎訓練が中心で、週５日間は馬場馬術の訓練で騎座の強化や扶助操作の習得等、地味な訓練を徹底的にやらされました。この基本に沿った基礎訓練が、後々国際大会を戦っていく中で非常に役立つものになったのでした。基礎訓練期間を終え実戦訓練として１Dayホーストライアル（以下、HT）という1日で馬場・障害・クロスカントリーを行う試合に出場することになりましたが、最初は野外障害のボリュームに戸惑いました。日本とは比べ物にならない全てが規格外の大きさでした。また、このHTは日本では考えられない試合数で毎週10ヶ所以上イギリスの各地で行われています。私も３頭の馬達と人馬のコンビネーション強化のために毎週出場し経験を積みました。HTで調整し国際大会に出場するという流れがイギリスでは一般的な流れで、常にあちこちで競技会が開催されているので、人も馬も競技会で育っていくという実に恵まれた環境で日本とは比較になりません。

私は運よく２度オリンピックに出場することができましたが、最初のアトランタは渡英して約１年半で出場したため、充分な経験も少なく、まして馬も自分と一緒に経験を積んでいった若馬あり、人馬ともにビッグチャレンジでした。とにかく完走だけを目標に騎乗することで精一杯でしたが、タイムは遅いものの障害減点０で完走することができ、最初のオリンピックで戦後最高の団体６位入賞することができました。

アトランタ終了後は、４年後のシドニーオリンピック出場まで、世界選手権と日本人で初めて世界一難度の高い競技会と言われたバドミントンCCI☆☆☆☆に出場しました。この２つの大きな大会を経験したことでアトランタの時にはなかった、大きな経験と技術を得ることができ、自信を持って競技に挑むことができるようになりました。

シドニーオリンピックは、他の３人の選手も私同様、前回から４年間、本場ヨーロッパで経験を積み戦ってきたため、スタッフを含め全員が本気で銅メダルを目指しました。そのレベル近くまできていたからです。しかし、２日目の耐久審査でクロスカントリーに行く前のスティープルチェースで２人馬が跛行のた

め失権となってしまいました。固い高速馬場に肢を痛めてしまったことが原因でした。馬体管理の難しさを痛感させられた瞬間でした。私を含め、もう１人馬は完走しましたが、結局日本はチームを組むことができず失権となってしまいました。非常に残念な結果ではありましたが、世界のトップライダーと攻めの姿勢の中で互角に戦えたことは私の大きな財産であり、今後も馬の世界で生きていくための自信となりました。

オリンピック出場に至るまで、私は改めて良き指導者の方々に恵まれ、多くの方々に支えられてきたとつくづく痛感しております。

今後は微力ながら、北海道の馬術や馬産業の発展にお役に立てればと思っております。

結びに、創立60周年を契機としまして、北海道乗馬連盟のより一層のご発展と関係皆様のご活躍とご健勝をご祈願申し上げましてお祝いの言葉といたします。

どさんこの世界挑戦報告

どさんこトレッキング
代　表　本　田　正　則

まず、北海道乗馬連盟の創立60年を、心からお祝い申し上げます。私と道馬連との関わりは、2002年に、エンデュランス競技を始めたことによります。乗馬クラブを始めたばかりの私は、津別で開催されたエンデュランス競技会にエントリーしたことが、道馬連の存在を知るきっかけでした。その後、当クラブは、完走することを目的に、数多くのエンデュランス競技会にエントリーし、2006年からは道馬連のご協力を得ながら北大雪大会を開催することになりました。

この間、道馬連の役員でもあり、日馬連のエンデュランス本部長を歴任された久保田先生からは、エンデュランスの基本から馬の管理まで数多くの事を教わりました。その後も、八木氏、山崎氏、三井氏などの日馬連役員、数多くの審判員、獣医師の皆様に、多くの事を教わり、お世話になってきました。そのおかげで、2010年９月アメリカ・ケンタッキー州で開催された、世界選手権WEG2010に、愛馬ティムで出場できたことは、道馬連の皆さまのおかげだと感謝してもしつくせない出来事でした。

以下、2010年アメリカ・ケンタッキー世界選手権の報告です。

みなさまの応援により、ティムと私、グルーム２名とでアメリカ・ケンタッキー州でのWEG2010に行ってきました。今回の世界選手権は４年に一度、国際馬術連盟が認める馬術８種目を行う馬のオリンピックで、参加58ヶ国、632選手、752頭が集まり、観客数は全米50州及び世界55カ国から50万人以上、ボランティア5,000人以上の規模です。その大きな大会に出場できたのは、ご支援をいただいた120名に及ぶ方々のおかげです、心より感謝いたします、ありがとうございました。

大会には世界中から馬が集まりました。レイニング競技はアメリカ産のクォーター種、馬場競技はドイツ産やオランダ産、総合や障害競技もヨーロッパ産の馬が中心で、どれも見事

なスポーツホースです。その中でエンデュランス競技は108頭が出走した中の107頭がアラブ種もしくはアラブ系で、唯一ティムだけが風変りなポニーです。珍しさもあって、会う人会う人から「What kind of horse?」「Cute!」などと声をかけられ、「ジャパニーズポニー」「ドサンコ」「ホンダ」は人気者でした。

しかし、そのティムを待っていたのはケンタッキー地方の異常気象です。大会前に１週間ほど続いた35度の猛暑は、臨時に設営されたテント厩舎を照りつけ、平然としているアラブ種達のそばで暑さに弱いティムの呼吸は120回／分を超え、これでは競技になりません。まずは毛刈りをしてからトレーニングしてみましたが、呼吸は落ち着きません。そこで、食事制限と毎日４時間のトレーニングを続けて、やっと呼吸が落ち着き始めました。レース前日の歩様検査では、ティムの側対歩にびっくりしたか獣医団からやり直しをさせられましたが合格。これでめでたくスタートすることができます。その後の開会式では、あこがれの馬場や総合の選手たちと一緒に日本選手団として入場行進し、お祭りムードを味わい、今回の世界選手権出場までの苦労を思い出してウルッとしてしまいました。

さて、いよいよレース当日。気温は最高気温が25度と涼しく、快晴。朝７時半、世界中から集まった馬108頭が一斉にスタートしました。スタート地点は観客が沿道を埋めて、黒山の人だかりです。GPSの不具合で１分ほど遅れたティム＆ホンダは割れんばかりの拍手の中をスタートしました。会場周辺は10～30mの起伏の丘が続く牧草地で、平坦な場所はほとんどなく、厳しいコースです。その中を、トップ集団は時速20kmで駆け抜けていきます。ティム＆ホンダを含むチームジャパンの５頭は、今大会で最低速度に規定された時速13kmを超える15kmのスピードで行くも、最後尾です。

ティムは天候も味方してくれて、順調に各区間をクリアしていきました。160kmを６区間に分けて行われた４区間目からは、時速13km以下の馬は失格となります。ティムはそのカットオフも無難にクリアし、５区間走行後の馬体検査も通過。いよいよ最終６区間目（残り18km）に向かう前の検査で、跛行失権となってしまいましたが、ティムの検査を見守っていた観衆からブーイングが起こるほどの人気でした。結果的には142km地点での失格となりましたが、私としてはやるべきことはやったので悔いはなく、世界に日本のドサンコを知らしめることが出来た満足感でいっぱいです。私どもTEAM DOSANKOはこれからも、世界に向けてドサンコの魅力をアピールし続けますので、今後ともご支援ご指導のほどよろしくお願いいたします。

競技結果　108頭出走55頭完走

日本チーム５人馬の成績

完走１頭　55位

５レグ失格　２頭

４レグ失格　１頭

１レグ失格　１頭

以上、2010年、アメリカ・ケンタッキーでの世界選手権の報告とさせて頂きます。

その後、私は長野県に支店を出すに至りました。支店開業によって、私は多くのことを学びました。その中でも、都会で働く多くの人が、動物に癒しを求めていることを感じました。そのことに対して、馬産地・北海道の役割は大きなものがあります。道馬連加盟の多くの乗馬クラブが、競技会で良い成績を上げ、そのことが、馬を生産する励みとなり、優秀で癒しを与えられる馬を日本中に供給することが重要だと思います。今後も、北海道乗馬連盟を中心に、北海道の馬術競技が輝かしい成績を上げ、それにより、すべての北海道の乗馬産業が益々栄えることを祈念して、お祝いの投稿と致します。

ほくせいの女性ライダーとして

一般社団法人札幌乗馬倶楽部
村　上　陽　子

北海道乗馬連盟が創立60周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げますとともに、創立以来、運営に献身的に携わってこられた多くの方々のご苦労とご努力に敬意を表します。子供のころから馬小屋で遊び、どこへ行くにも父と一緒だった私が、こうして北海道乗馬連盟創立60周年という節目に関われたことをうれしく思っております。父が亡くなったのが平成７年、年月が経つのは早いものです。かくいう私も乗馬歴は30年以上になり、村上隆保の娘ですという自己紹介が恵祐の妹に変わりましたが、やはり休日は馬小屋です。思い起こしてみるとノーザンホースパークができる前、国体予選は帯広畜産大学でも行っていましたね。野外のコースに牛そっくりの障害物があり、牛が嫌いだったテレサが怖がって失権してしまったことを覚えています。

さて、今回「女性ライダーとして」ということで原稿の依頼を受けました。

数年競技から離れておりましたが、いつのまにか道内の障害馬術の女性選手で私より年上の方は少なくなりました。まだもう少し現役で頑張ってみようと思っているのですが、競技会に出場すると無事にゴールするだけでみなさんから暖かい声援をいただくことが多くなりました。こうして楽しく馬に乗っていられるのも、いまだに私のことを陽子ちゃんと呼んでくださる道馬連の方がいらっしゃるおかげです。あらためて感謝申し上げます。

これまで数えきれないほどの馬にめぐり合ってきました。子供のころ大活躍していたテレサとゼファー。特にゼファーの飛越時の背中の柔らかさは、今もあの感覚を超える馬はいないほどです。ほくせいでは本格的な馬場馬となったエスポワールは青山学院大学馬術部でブルーベルベットと名前を変え、関東学生女子で優勝させてくれました。テレサの血を受け継いだミス・ジェニファーとの思い出は宝物です。全日本総合では第2位、小柄な体で実に素直に飛越する姿を覚えていてくださる方も多いでしょう。チャキリス、カリスタヒーロー、チアガール、マドンナ、メジロクレイバン…。私はほくせいの名馬とともに育ってきました。こうして振り返ってみるといかに父の馬を見る目が優れていたかを感じます。

その父が亡くなった翌年、「世にも不思議な物語」が起きました。新たに設けられた成年女子の標準障害飛越競技にスーパーホース、オレンジカウンティに乗せてもらえることになったのがすべての始まりでした。コーチ、下乗りは旭川出身の天才ライダー、あの大谷直生さん。万全の状態のオレカンにぽんと乗りスタート。足の速い馬とは知っていましたがまさかこんなに走るとは！！慌てて手綱を引っ張る両手にはめていたのは、父の大学の先輩からこの日のためにプレゼントされたおろしたての手袋。これがなんとグリップが全く効かない。私は何もできずただ障害に向けるだけ。つかまっている間にあっという間にゴールしました。“魔法の手袋”のおかげで余計なことも馬の邪魔もしなくて済んだのです。ジャンプオフ、今度はさすがに手袋を外しました。そして最後から2番目の障害を越えた瞬間、オレカンが自分勝手にUターン。ほぼ真後ろにあった青い波型の障害目指して迷わず突進したのです。「えっ？ちょっと待って！ほんとにそれでいいの？？」と頭の中が真っ白に。ひどく動揺する私を背にオレカンは一番時計をたたき出しました。宿舎での夕食、ある方がとても嬉しそうに笑っていました。白井民平さんです。民平さんはあの日、私の優勝を真っ先に父に報告してくれたはずです。本当にあった世にも不思議な物語、私は「広島の奇跡」と呼んでいます。

長く馬に乗っていると子供たちの成長も感じます。今や馬場馬術のトップライダー林伸伍くんは、赤ちゃんの頃当時高校生だった私の髪の毛を引っ張って遊んでいました。はやくも手綱を握る感覚をつかんでいたようです。父は食事制限があった自分の分まであれもこれもと食べさせ、恵祐はレッスンに燃えていました。高校時代は毎日遅くまでナイター照明の中練習に励み、パブリックとシルバーバーチでいつも負けなしのワンツー。恵祐と同じく明治大学でキャプテンを務めるとこれまた同じく全日本学生の馬場と総合で個人2冠を獲得。その後の活躍ぶりはみなさん御存じの通りです。特に2010年広州アジア大会では日本人最高の個人5位。国体ふるさと選手としても実力を存分に発揮し、北海道に貢献しています。伸伍くんは自信と謙虚さの両方をバランスよく持つ、本当に素晴らしい選手に育ってくれました。伸伍、ありがとう！！

みなさん、これからもたくさん父の思い出話をしてください。至らない私がこうして馬の世界に身を置いていられるのは村上の娘、恵祐の妹として受け入れてくださっている方々のお陰です。女性ライダーの勇気となるよう（あのオバチャンでも飛んでるんだからアタシだっ

て！という勇気ですよ）気力、体力を注ぎ足し、ご迷惑をおかけしない程度に頑張りますので今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

60年間の歴史と伝統の上に更なる北海道乗馬連盟の前進を祈念申し上げます。

平成８年　広島国体、オレンジカウンティ

平成25年　グランルージュ

座 談 会
創立の頃をふり返って（昭和世代が語る）

日 時：平成24年12月22日㈯　午後４時半～
場 所：札幌全日空ホテル25階　車屋

出席者：小野　　忠（小）、乗馬クラブメインフィールズ、元北大農学部職員
高橋 留次郎（高）、元札幌競馬場職員
新矢　國夫（新）、元札鉄馬術部
田中　昭二（田）、元札鉄馬術部
司　会：山崎　善輝（山）、道馬連理事長
記　録：舘谷美智子（舘）

山：お話は聞いていると思いますけれども、来年が北海道乗馬連盟の60周年なんですよ。それで、60周年行事として、記念誌の発行、祝賀式典と祝賀会、記念競技大会、と３つの係を作ったの。小野さんの発案で、まあ昭和30年代から50年代くらいね、その頃の何か面白いお話を伺って、それを「60年史」に載せたらどうかということで、今日お集まりいただいたの。

「小野さん持参の資料・写真で盛り上がる」

小：新聞記事に北海道乗馬連盟がどういう風に出来たかっていうことも書いてある。本道の馬術は陸軍第７師団、師団には騎兵隊、札幌の歩兵25連隊、北大は大正14年乗馬会を設立した。昭和16年まで夏休みには騎兵連隊が来て、のちに岡田源八さん。

山：岡田さん（岡田光夫）のお父さん。

小：岡田源八さんが北大の教官になったってことも記事になっている。
北大に馬術部ができたのは昭和５年３月。馬術愛好家や騎兵出身者によって札幌愛馬会ができたのね。これ、武田忠幸。一般や学生で札幌乗馬倶楽部というのを作った。で、これが戦後の社会人の乗馬クラブ・・・って書いてあります。
　北大の馬術部が昭和29年の国体後に６頭の馬を購入したよ。昭和33年の国体に千葉幹夫が総合馬術選手として全日本馬術大会で優勝したって。鎌田正人が総合馬術で優勝する。戦後の黄金時代ですよ…こんなことが書いてある。

「北海道乗馬連盟創立の頃」

小：乗馬連盟ってのはいつできたの。

山：あれはね昭和28年。

田：国体の前に出来たんだもん。

小：北海道乗馬連盟の初代会長って誰なのよ。

山：初代会長はね、菊池（菊池吉次郎）っていう人。

田：北海タイムスの社長。菊池さんがず～っとやってて、その後が高橋賢一さん。

山：高橋賢一さんがず～～っと、平成、北海道国体の時は居たんだ。だからね、もう30年くらい道馬連の会長やってたの。

小：その時の、立ち上がりのころの北海道乗馬連盟の理事役員は誰だったんだ？

田：ん～～とね、あの庄内（庄内貞夫）のおとうだとか、それからね高杉さん（高杉直幹）。

山：いやだから、半澤先生（半澤道郎）でしょ。

田：半澤先生、なんせ学識経験者がね、トップだったんですよ。で、本当の一般ていうのは、庄内のおとうぐらいだったんじゃないの、歯医者だったから。

高：札幌の競馬場にあった時には小野寺さん（小野寺輝幸）が。

田：小野寺さんが事務長やったの。

高：小野寺さんが会計とか全部やっておった。

小：その当時の立ち上がりの時に貢献した人っていうのが、競馬場の業務課。

　その時業務課長は大木さん（大木正巳）かい？

高：姉崎さん（姉崎保）。

田：姉崎さんがね責任者。実権握ってて、全てね道馬連の仕切りやってたの。国体の選手だったり、全部あの人がね、それで小野寺さんが事務だから、それで業務課に会計や何かおいて、それでやってたの。

山：そして姉崎さんの後に大木さんが来たんだな。で、大木さんがずっとやったんだ。で、大木さんの後が山本智さん。

田：姉崎さんて人がはっきりいってねワンマンで、全てに。

高：そうそうそう。

田：姉崎さんがね全て道馬連と札幌乗馬倶楽部と兼ねて仕切ったのよ。

高：松本さん（松本久喜）。

小：久喜さんかい。北大農学部の馬の専門馬学の先生。

高：それがね合わないんだね、姉崎さんと。口喧嘩ばっかりしてんだよ。またね姉崎さん、獣医上がりなもんだから、ちょっとこう知ってるから。獣医上がりったって軍隊の獣医だから大したことないんだ。

　で、それでね、庄内さんとはね仲良いんだ。

田：合うんだ、庄内先生は歯医者だけど、元は獣医だから。

高：庄内さんと大木さんと３人はね。大した仲良かったんだよ。前も話したと思うけど、松本さんね、うちの小関（小関勇）事務長と仲良かったんだ。菊池さんとも仲良かったしさ。ところが姉崎さんとは駄目なんだ。姉崎さんがもう飲めばもう、酒飲んでね酔っ払ったら俺腕引っ張って帰るの。

小：それでね、場長の乗馬、鹿毛のアラブをね、小関さんが出て松本久さんが北大に貰ったんですよ。それをね、俺が引き取りに行ったんですよ。

　俺北大に７年間住んでたの。昭和18年

に農場畜産部に採用になってるんだ。

田：きつかったからね、松本先生。

小：うんで、久さんと酒飲めるのは俺だけなんですよ。僅か19か20の頃だからね。

田：こうやって馬の世界に入ったのもさ、農場に遊びに行って、うちら北大の中にいたもんだから、農場の裸馬をね。無断で乗ってたの。

「想い出の馬たち」

高：国体の育成馬買う時も、北大行ったほらあの北嶺。北嶺がね、良い馬でね～とかって松本さんと姉崎さんで喧嘩になってさ。そしたらな～に飛ぶ飛ぶ。もっともね、誰が見ても馬格は良い！とは言えないはね、だってあの馬は。

田：中間種みたい。

小：背ったれだもんね。

新：格好見たら、馬車馬みたいなんだけどね。でもあれ走るんだよ。道営競馬使ったら。

高：うん、それで、腰はね、取ってつけたみたいな馬でしょ。でもね、見たら肩良いんだよね。それで、ほれ道営走っておったっしょ。道営競馬札幌で始まってからね、進駐軍競馬も始まって、その集まりでしょ。トクシマ（ミストクシマ、北慓）、それから洋孝から何から出てきてね、競馬使ってみたいって使ってみたわけさ。

小：洋孝稼いだっしょ。

高：そしたらなにお前、洋孝、ヨシタカ（北嶺）に負けるんだもん。

田：ヨシタカのほうが、速かったんだよね。強かったの。

高：それでね、千２ばっかり使っておったの。たまにゃ～いいんだべって、千８使ったの。そしたらやっぱり洋孝にかなわねかった。それでね～、繁殖に使うっていうまたね。

小：洋孝を？

高：うん、でも、つけてもやっぱり止まらないで駄目。それでまた帰ってきたんだ。で、それを競馬場で買って、そして引き続き乗馬にしてなでまわしたっしょ。御大（鎌田正人）乗って。御大も阪神では経路違反したけどさ。結構なことやってんだよ～御大もあれ～。

新：そしてあの洋孝でほれ行ったんだもん。

高：そうそう秋田国体。総合優勝したんじゃなかったかな。

山：同率一位・東京都と北海道。

高：あの立山っていう馬。

山：立山っていた。

田：富山国体の後に。

高：御大の牧場から来た馬でさ。御大、洋孝であちこち大会に出してもらって出てたっしょ。使用料も参加料も払わね～で、その代わりにって、その立山をもってきたわけさ。

「おんちゃ、これ乗馬クラブに、洋孝で世話になったから、これ持ってきたんだけれども、ちょっとしたらこれ乗れないよ」って、それ、御大が言うんだからね。だから、おんちゃん乗ってくれないかっていうわけさね。

小：何、鎌田が乗れないって言ったの？

高：繋駕かかるから、鞍置いても乗っても何でもないわけさ。な～んだっこれと思ったりしてね。そしたらね、やっぱりねアラがでてきた。速歩は良いんですよ。駈

歩やったら、ぐれるの出てくるかもしれないと思ったら案の定出てきた。でも、俺も頼まれた以上はね、なんとかしなきゃならないし、そして乗馬クラブの人たちに乗っけてやらなきゃなんないと思って一生懸命やってるっしょ。だからねも〜、一晩ちょっと寝れね〜時あった。それこそ大げさかも知らんけど。

それで今度良くなってきたしさ、やっぱり障害を教えなくっちゃなんないってことになって。そしたら、なんでも行くんだ。ポンポンポンポン行くんだよね。ぐいぐいぐいぐい、ちょっと良い調子だわ。障害っていう心配なかったからさ、馬場の柵跳び始めたの。馬場の柵跳んでひっくり返ったらしょうがないって。あれはね〜、知ってんだね〜、馬ってやつは。

田：排水溝あったっしょ。あれ俺ら走って行って飛んだんだよね。

高：キングフレームはね、引っくり返ってさ。引っかかっちゃって。でもね、そこから良くなってったよ。国体予選帯広でやるっていうから行ったっしょ。それで俺一落で帰ってきて、それで秋田国体行ったっしょ。

山：そうだキングフレームね、あれが馬事公苑にいたんだ。キングフレームが問題だったんだよね。お父さんがなんだかって言うサラブレッドになってたんでしょ。だんだんだんだん化けてきたって。

田：ライジングフレームじゃなかったかい

高：そういう名前だったんだよね。ところが違うんだよね。

山：ところが違うの。競馬会で買ってったんだけど、化けちゃったの。

高：あそこでね、人工授精でやってたの。ブルトンとね、ライジングフレームの両方の精液を置いてあったんだな。それで間違ったの。

舘：昔は人工授精なんてやってたんですか？

山：それで駄目になったの。

高：それでね、ブルトンの精液と間違ったわけさ。その時に、間場長になったんだよね。あそこ浦河の場長（農林省種畜牧場）。

生まれてすぐ立てなかったの。立つ状態でなくて見たらね、やっぱりサラブレッドじゃないってこと場長も分かったらしいんだな。それね、わかっても言えね〜わけさ。

小：そうだよね。そんな時代だから、巨大子だったらさ、そういう血統。顔もでっかいし、飛節もでっかいからわかるよね。

高：馬格は素晴らしいよ。サラブレッドから出てきてるんだからね、そりゃあもう大したもんだったんだよね。そしたら、欲し〜ちゅうことになって、宇都宮にね一緒に育成頼んだわけさね。日馬連であれ40万だかで買ってんだよ。キングフレームを大障害使おうと思って。

山：当時日本馬術連盟はね、馬持ってたのさ。

高：それで、やったんだけれども、やっぱりその駄目ってことで、大学に売るっちゅうことになったんだね。そしたら木村先生（木村義衛）が、欲しいわけさ、自分が。で、競馬界で買って、講習生に使っておったわけさ。講習生に使ったら重いもんだから、アラブとサラブレッドと中間種でしょ。号令掛けたって全然一緒にね間にあわね〜んだ。それでも何とか使っ

ておったの。それで、富山国体終ってから競馬会で馬事公苑で馬の競技会と野球大会全国のやるっていうから大木さんと俺とね行ったわけよ。そしたら、大木さん欲しいんだったら書類書いてやるよって。大木さんとそれなら貰おうってことになって、貰ってさね。

小：馬格はあるし。

高：何に使っても良いから。

小：おんちゃんは、きっとさんかく曳かせたよ（さんかく：除雪用の先端が△形になった道具）。

高：そう、さんかくも曳かせたりね。畑起こしに使ったりね。何でも使えるから。前にね「花の大障碍」（映画1959）に使ったっしょ。

田：そうそうそう、川口浩乗ってね。

高：そしたらね、府中の障害全部飛んできたって言ったよ。

小：調教してあったの？

高：うん、あの髙橋君これせっかく持って行っても120しか飛べね～よって、木村先生がね。

小：うん。

高：それでも良いかって言うから、な～にここにおったらキングフレームが飛ぶんだけど、札幌行ったら燕麦が飛ぶんだから大丈夫だよってね、俺大ホラふいて。それだったら良いって。木村先生が業務課長に言わないでよって、あ～言わないって、そして出してくれたの。

山：冬ね除雪。

高：まだ話は一つあるんだけど、勝春っていう馬と2頭引きにして、右につけてさ、除雪に出た。そしたらバーンと出るや否やぶっ飛んじゃってさ～。立木あるところに馬がガ～って行ってさ、道具はパランパラン。

小：道具全部切れた？

山：橇も何もぶっ飛んだ？

高：それでね、奥のトイレにはまって動けなくなって、止まっておった。

新：トイレに突っ込んだの？

一同：あの頃おんちゃん若いもん。

小：乗るよりも何よりも仕事だ。ハロー掛けはしなかったの？

高：いや、ハロー掛けもやらした。なんでも全部やらした。それで、今度ポプラの木切ったんだよね。橇掛けてポプラの木の山出しみたいなこともやらした。そしたら、やるんだわそれも。

小：やっぱり僕は、おんちゃんのね、全盛期の頃の活躍ぶりというのが札幌の競技の基礎を作った。基礎を作った第1人者が髙橋おんちゃんだ。

新：おんちゃん頼りだ、本当に。

「北海道乗馬連盟の運営」

山：一時ね、道馬連の事務所って小野さんのところにあったの？

小：いや、あれはね、理事長下すっていうことで佐藤俊彦、村上隆康、大池さん、競馬場の指導員でね、この３人がワイワイ騒いで。とにかくあまりにもワンマンすぎて、下ろさんきゃ駄目だと。岡田さんもしょうがないよねって言って、総会で。

舘：予選もしないでって書いてある。

山：昭和46年に勝手に国体選手が決められたりなんだりして、おかしいことあったんで、その後国体予選やり直したりなん

かさせて。

小：いやね、あれは確か自馬大会がどうのとか市民大会がどうのって、その成績をもって選手だってやるわけよ。そりゃあ、違うでしょ。

　で、総会の時に、なんかのはずみで俺のところに仕事が回ってきたの。で、競馬場の業務課に事務所を置いたけどね。俺もその時ねものすごい忙しい時だったの。

その時に組織づくりを、ちゃんとしていなかったの。新規の役員どうするかってこと。

山：やってなかったの？

小：やってなかったの。それで曖昧模糊って八木（八木正巳）だとか鷲田（鷲田和彦）とかがね、ちょっと問題あるよって、もう一回やり直ししなければ駄目だって。で、鷲田がメインになって動いてそれで全部立ち上げなおしたの。

舘：それで小野さんのところに事務局がちょっと移っていたんですか？

小：事務所はうちじゃなくて競馬場のまんまで。その時ね、書類の引き継ぎをお願いしたんだけれどもね、一切くれなくて、それで困ったの。総会やるったってね、資料なんもないんだから。田中が紹介してくれた女子事務員は出来ないわけよ。で、総会の時に結局いい加減な数字の羅列でごまかしたの。前年度の資料で総会やったりしたの。総会はトラブルなく済んだけれども、俺専務理事でも何でもないんだから、岡田さんに専務理事かなんかやってもらってたの。半澤先生に確か理事長。そういう風に移していく前が、いろんな課題があったの。

山：小野さんの後ず～っとね引き継いでやったのが鷲田氏だから。良～くやったよ。

　で日馬連の理事に半澤先生がなったの。

舘：では第2ステージの時の理事長は半澤先生で。

小：いやちょっと待てよ。

山：いやいいの会長は髙橋 賢ちゃん。

小：で、理事長は半澤先生か、専務理事が鷲田さん、岡田光夫さんは理事だったかな？

田：庄内おとうも理事。

小：そっから新たに立ち上がったのが、新生北海道乗馬連盟。

舘：18年間がやみくもの中、後半の５、６年が暗黒だったんですね。

小：まあまあそんなことだ。初めはね一人が一生懸命やってくれたんだけど。それがだんだん方向がね、会員の為にならなくなったっていうことが、北海道乗馬連盟にしてみれば一つのリスクを背負ったんだよっていうことかね。

　札幌乗馬倶楽部をメーンに運営していた北海道乗馬連盟が、札幌乗馬倶楽部との関係を離れて新しくできた。札幌競馬場を中心として、事務局も札幌競馬場の職員にお手伝いいただいて、そのご尽力で北海道乗馬連盟が活動しました。それに対して、各札幌乗馬倶楽部とか北大馬術部とか、当時は大学馬術部が協力して北海道乗馬連盟の活動に協力してきたという流れでいいのかな？

山：そうですね。当時の、昭和44、５年の北海道乗馬連盟の会員はね、17団体しかなかったの、大学も全部入れて。酪農は昭和35年に出来てるんだわ。それまでは北大と畜大さ。道馬連の発足当時からあ

るわけ。

小：17団体というのは札幌乗馬倶楽部に所属しているグループですよ。銀鞍会だとか札鉄。

山：そうそう、それに旭川・岩見沢ぐらいさ。それと帯広それに大学さ。

小：俺が言っているのは、札幌乗馬倶楽部にあった団体さ、札鉄と銀鞍会と。

山：高校が２つさ。光星と札幌女子高とそれと当時ねあれがあったの、大谷短大・北星短大・北海道女子短大。

舘：つまり札幌乗馬倶楽部・札鉄・銀鞍会・光星・札幌女子高・大谷短大。

小：ちょっと待て、丸井の乗馬クラブあっただろう。

山：あったあった。

舘：それと札幌乗馬倶楽部を入れて７つで、あとは？

山：大学２つ、札幌競馬場乗馬クラブ、それに旭川・岩見沢・帯広・北大乗馬同好会。佐合さん（佐合義弘）とかいう人いたよね。小野さんなんかもそうだ。だから北海道乗馬連盟なんて金なんか全然ないわけよ。でね、平成５年の40周年記念の時は37くらいあるんだよ。

田：だって国体行くのに寄付集めに歩いたんだもん。

山：その当時競技会やるって言ってもね、全部任せよ。畜大なら全部畜大、北大なら北大でやんなさいとか。北海道乗馬連盟はね、ただ審判手伝うとか、そんな感じで。だから終始お金のやり取りは一切ないわけよ。だから北海道乗馬連盟って金なかったの。会費だけだもん。会費だって年間今なら50,000円だけれども当時なら何千何百円ってことだ。だから17団体くらいあったってどうにもならない。

それでね、今の状況をいいますとね、北海道乗馬連盟は52団体入ってるんですよ。そしてね、北海道乗馬連盟を通じて日馬連にね会員登録してるのはね、今417人なんですよ、正確に言うと。

新：北海道から？

山：北海道から、全国で３位。

小：国体大変だ。

山：今年も大変だ。だけどね、今はもう７、８年前からは、馬の質が全然違うんです。国体行って見てね。馬場に出てくる馬は90パーセント外産馬、障害出てくる馬も80％外産馬。標準出てくる馬なんてね、全部大障害150飛んでる馬だから。それを135飛ぶんだから簡単。

高：そりゃあそうだ。

山：それでもね、今年ジャンプオフに残ったのは６頭。難しいの、コースがね。そのうち北海道の馬1頭入るんですから。トーマスジェファーソン。北海道の馬だけが内国産、後の５頭は全部大障害の外産馬

もうね、今国体・全日本はもちろん、学生もそうなの。この間ね、全日本学生馬術大会あったんだ。馬場に出てくる馬80％外産馬。北海道の馬ね、酪農の馬出たってね、38パーセントしか取れないんだから。そしてね、障害も外産馬。日本の馬だけもっていってるのなんて東北北海道だけ、北大も酪農も畜大も外産馬ゼロ。それがね、ほとんどアナウンスする時にね。馬の品種と生産地言うわけ。それで聞いてたら全部オランダ・ニュージー・ドイツだとか、大学だよこれが。

舘：いつから競技会は北海道乗馬連盟で？

山：北海道乗馬連盟で競技会やることになったのは平成元年くらいからだな。

田：そうだね、ノーザンホースパークで。

舘：北海道国体終わってから？

一同：そうそう。

山：各ブロックで浦河でやるなら浦河でやんなさいと。

小：62年からね、競技会は国体へ向けて組織された。

山：作ろうってやったんだ。

舘：じゃあ、競技会をうまくやれば、もうかる乗馬クラブもあったんだ。

山：いや、損することが多くて。

小：百瀬さんなんかは、平成元年の北海道国体の為に準備をするっちゅうことで、練習するとか強化合宿をするためにモモセの馬場を使った。北海道乗馬連盟が直したの。

山：八木氏のいる時ね。

小：鷲田がね。先頭に立ってやっていたの。

山：鷲田氏が一生懸命やって、自分で重機持って走っているうちに、返しに行った時だ。

田：農道でネひっくり返った。

小：鷲田が一生懸命やったんだわ。

「進駐軍競馬」

小：北海道知事の公舎に進駐軍のスイングっていう少将が北海道管轄していて、彼が札幌の競馬を始めたんです。進駐軍競馬。

　そのスイングさんがわがままな人で、ミルクを飲みたいから牛持って来いって、北大から牛持って行ったの。その搾乳にね、誰か来いって、私は毎朝やっていたの。知事の公宅で。

　協力したのが岡田さんのお父さんの岡田源八さんでしょ、北大の先生方も協力して競馬を作ったの。

　戦後の北海道の馬術の発祥です、それが。競馬から今度馬術へ行くわけですから。

舘：21年くらいの話ですか今のは。

小：北大で生産した道産子を競走馬に仕上げて、僕ら一生懸命アンコ攻め馬して作って、競馬場へ持って行って預けて、それで進駐軍競馬に使ったんですよ。

舘：その後米軍から馬を貰ったんですか？

小：払い下げ、米軍もね、どっかから馬を。

高：あれっす、あの～八戸。八戸に東京から岩手の間の米軍で使っておった乗馬を八戸に集結したわけ。

小：その時おんちゃんどこ？

高：俺は鉄道に居たんだ、それで警備に出れって言われてさ。なんで戦争負けてから馬運ぶくらいで警備に出れってね～って思ってさ。それはね、客車２両付けて馬の貨車はね、35頭かな、八戸に集結しておったんだ。そこで米軍の兵隊たちばっかりで乗馬やっとったんだね。それが今度、進駐軍競馬やるっていうんで。

小：持ってきたの？こっちへ？

高：北海道へ渡ったわけ、その馬。

田：あ、なるほど。

小：それが今度手あましして競馬場へ持ってきたんだ。昭和21年くらいですよ。

高：うんそれで、進駐軍競馬はやったんだけれども、帰って真駒内行って乗っておったっしょ。また今度米軍が帰るもんだから、引き取って札幌競馬場へ持ってきたの。俺も行って乗ってきたけれどもね。見事だったでもねあれ三十何頭も。

小：昭和21年に八戸から進駐軍競馬の為に真駒内に馬が来たんだ。それで札幌競馬場の施設を使って競馬をやって、その馬の中の何頭かが乗馬のほうに来て、乗馬というものが北海道で。そして、昭和22年頃、乗馬をしたい人たちがだんだん集まってきて、札幌競馬場を中心に乗馬クラブができてきたの。

高：昭和22年くらいに馬はね来たんだけれどね、邪魔んなるっしょ札幌競馬やってるから、装鞍所使うから。それを今度あの銭箱の競馬場に持って行ったわけさ。

何頭くらいかな10頭から12頭位だったんだわ。ところがね、朝んなってね、ぞろぞろぞろぞろ無口かけない馬団体で走って来たわけよ。それはね、放牧しようと思って出したんだね、あの銭箱の若い衆ら。そしたらなあに、障害使ってる馬だもんね、柵全部飛んで、朝のね札幌競馬場が肝心な攻め馬やってる時にぞろぞろぞろぞろ帰ってきたの。

舘：えっ銭箱から？？

高：うん装鞍所に全部入っていた。12頭。

新：やっぱり覚えているからね。

高：いやいやあれはね、馬は帰った道知ってるって言うけど、確かにね、あれはびっくりこいた。それ昭和22、3年。

山：銭箱まで歩いて行ったからな、覚えていたんだな。

高：そしたらなに、２重の馬栓棒してんだけど、飛んで出ちゃった。出る時っていうのは、助走距離いらねえんだね、馬って言う奴は、鹿と同じで。それで今度出てまたその日に銭箱まで持って行ってさ、俺あそこ２回も３回も往復したよ。まいっちゃったよ俺。髙橋君先頭で連れて来いって簡単に言われたって。１人だからさ、あと人間いねえもん。

新：札幌から銭箱。

山：ひき馬で行くんだろうさ皆。

高：いや乗ってよ。

山：乗っていくんだ？

高：まいったよ。ジョーカーっていう馬ね、障害飛ぶし一番いい馬だと思っていたんだ。だからね、俺一番最初に札幌競馬場へ連れてくる時にさ、真駒内行ってすぐ鞍置いてそれ乗っててでてきたんだ。そしたらなんとかかんとかって、そこさ金の星付けた兵隊来て、ガタガタガタガタ英語で言ってたけど、こっちゃあ乗ってしまえばおんなじだもんな。そういう時代だった。

田：おんちゃん、あれ名前取替てあれしたの。

高：うん、アート。

田：アートか、名前取替えて持ってきて、おんちゃんとりあげたんだよね。

舘：小野さんがスイング少将といたころに競馬場には払い下げの馬が10頭くらいいたんですね。

高：乗馬クラブにはね４頭くらい居たんだ。その上に競馬場に20頭だか居たんだ。

小：戦後の北海道の競馬、進駐軍の競馬を始めたのはそのスイングっていう人で、兵隊たちが乗って競馬をしていた馬を乗馬としておろして、札幌競馬場において乗馬というのを楽しむようになったんだ。札幌競馬場が中心になって、そこから北海道の乗馬が始まったの。

高：それでね、乗馬クラブ出来たっしょ。そしたらね、乗馬クラブは貧乏なもんだからね、真駒内の種畜場へ行って牧草を

刈れってことになって、刈って道営競馬にね牧草売ったわけ。俺がね、行って一週間くらい草刈りしたの。

小：手刈りか？

高：いや農業用ジープ。

高：それで今度ね。草は刈った。で、乾かすでしょ、テッター（刈った草を反転させる道具）とねレーキ持ってって。今度乾燥したら、運ばねばなんないしょ。ね、そしたら今度何で運ぶっちゅうことになってさ。４輪車馬車、あれ７台だか８台頼んで積んで、競馬場まで運んだんだ。あれは見事だった。当時のね４輪馬車ったら山盛りになるっしょ。それが続いて来るんだから、そりゃあ米軍の戦車だってかなわないだろうと俺もそう思った。あれ馬つけた人はね大変だったと思うよ。写真撮って全部。それがね11丁目並んでくるんだから。そして、競馬場で下して量って道営競馬に売ったんだから。

小：苦労しながら馬好きが集まって。無責任に馬可愛いとか乗りたいとかって、金も出さないで競馬場におんぶにだっこでスタートしたのが札幌乗馬倶楽部さ。

　やっぱりね、札幌乗馬倶楽部の立ち上がりのころは、本当におんちゃんに世話になった。おんちゃんの世話にならなかった人はいない。ね、そうだよね。

新：そしたって馬預かってんだもん。

小：現場で我々の遊びに対して協力してくれたの。おんちゃんが現場の責任者で居て、そのおんちゃんの動きがやっぱり乗馬普及には良いってことで上の人が全部認めてた。権限を委譲してたんだ。難しい問題があっても全部任せてたんだ。書類がどうだの関係ないんだ。おんちゃんのやったことは全部上の方で処理しますよって、そこまでやっぱりね、我々は頼ってたんですよ、おんちゃんを。

山：この座談会が載る年史の発行は再来年の３月、60周年の式典と祝賀会は来年の11月８日ですね。

高：俺それまで生きてるかな？

新：俺したら90〜〜それは無理だな。

舘：どうしてそればっかり言うんですか皆で。

小：今年の７月にね胆石の手術をしたの。で今度腹膜おこしちゃったの。でその時ね、医者に「駄目」って言われたの。「助からないかもしれない」って。だから、それやってからっていうもの、体力落ちた。

田：75か、再来年私。

小：俺、４年の１月だから（84）。

高：俺、昭和３年（85）。

山：72、今度73になるんだわ。

田：２月で俺73。おんちゃんと俺ちょうど一回り違うんだ。

山：小野さん、来年が25年だろう。再来年26年北海道で全日本馬術大会やるの、障害。９月のパート２ってやつ、木金土日だな、４日間。

田：高馬連も50年だ。

山：そうだな。

座 談 会
これからの道馬連（平成世代が語る）

日 時：平成25年５月18日㈯　午後５時～
場 所：ノーザンホースパーク　K's ガーデン

出席者：白井　　岳（白）、白井牧場不二ファーム
百瀬　利宏（百）、モモセライディングファーム
梁川　正重（梁）、ほくせい乗馬クラブ
安永 みどり（安）、マイステーブル
米本　晃子（米）、ノーザンホースパーク
司　会：楠木　貴成（楠）、ノーザンホースパーク
記　録：舘谷　美智子

「乗馬を始めたきっかけ」

米：考えていたんです私、いつから乗っていたのかなって。本格的にちゃんとやり出したのはやっぱりホースパークができてからなんだよね。

梁：ここっていつ出来たんでしたっけ？

米：平成元年（1989年）。

楠：梁川さんが小学校１年の時にホースパークができました。僕小学校４年生。楠木今年34、百周年の時は74。

米：私は今年36です。

百：僕37。51年１月。

白：あッ僕、もっとかなり先輩かと思ってた。

安：私も一緒です。51年生まれ。

楠：いつから馬に乗ってるの？

安：高校卒業してから、観光牧場で引き馬のポニーに乗るのが好きだったんですよ。

梁：僕は北星（現：ほくせい）乗馬クラブで小学校１年生です。ここ出来るちょっと前、１ヵ月に１回とかです。ポニーが走るから怖くて。

米：ポニーは頭がいいから怖い。

楠：僕の初落馬は、馬に乗り出して１週間後、キャッシャーで空港牧場の坂路に皆で行ったら跳ねて落ちました。で、わ～って走って行って、地面からむくっと起き上がって前を見たら大人の人が皆ポンポン落ちていく。

（笑）

米：皆落しちゃったんだ。

楠：あれ、結構衝撃でした。大人も落ちる。

白：まあ乗るっていうより乗っかってるっていう感じだからね。

楠：百瀬さんは何歳から乗ったんですか？

百：僕25。幼稚園か小学１年の時落ちて辞

めて、野球をず～っと

楠：なんで25にしてまたやろうって思ったの？

百：それは実家に戻るっていう話で、実際乗れないと仕事にならないから、乗り始めたらやっぱり面白くなって。

楠：安永さん、何でエンデュランスだったんですか？

安：最初私も普通に帯広農業高校の馬術部に入ったんですけれど、私１ヵ月くらいしか行かなかったから、全然馬にも乗せてもらえないし、つまんなくて。で、高校卒業してから海外の牧場に行ったのも、障害の勉強で、カナダに１年半。そしたら、家がエンデュランスをやるぞって言いだした。

楠：僕本当にエンデュランスって全然わかんないんですけど、何が面白いんですか？つらくないですか？

安：つらいですけど。

米：面白い。私やったことあります１回。

楠：やっぱり達成感ですか？

安：達成感というか、やっぱり馬の本来の強さっていうか、馬も結構極限までいくような感じになるので。障害飛ぶ楽しさとはまた全然ちょっと違う感じで。

米：先導してくださった方が迷っちゃって60キロなのに80キロくらい走っちゃって。

安：迷う人ってどの大会でも大概迷うんです。（笑）

梁：重さは軽い方が有利なんですか？

安：世界選手権とかってなると最低が75キロ。もちろんそれより重たい人は海外だったらいっぱい。それでも勝っちゃう。

楠：エンデュランスは奥深いよ。

「印象に残っていること」

白：あの～ここで東日本やった時には結構おもしろかったですよね。レベル高くて（1991/9/20-22）。

楠：僕はあれを見て僕もあれがやってみたいなあと思いました。

白：すげえ、北海道で東日本とかやるんだな～と思って。しかも多分あの時結構成績良くてさ～。あ～俺乗れるんだ～～って。

米：輝いてたもの貴方。本当に。

楠：なんたっけ、あのシドラでしょ。あとなんかね黒い馬。格好良かった～。あそこで生で大障害初めて見た。まあとにかく凄かった。衝撃受けたもん。

白：良い馬に乗ると人間って上手くなったような気がするんだ。そうすると、馬と一緒にレベルも高くなる。なんかいい馬乗らないと駄目ですね。まあ、調教しなくちゃ駄目ですね。ね、先生。

楠：ハイ！百瀬さんは？

百：国体はね～、もう秋田しかないの僕は。秋田は馬だけ行ったんだけど（2007）、インフルエンザがブワーって、あん時にあっ動物って危ないんだって。あ、自分の馬もヤバいんだって。あれはちょっと衝撃だった。

楠：まああれは衝撃でしたよ。そういう部分では僕も初めての体験でした。だって中止になるってねえ。

米：パークの厩舎も見学出来なくなったよね。私は去年の国体ですかね（2012岐阜）。今までずっと個人プレイだったので、馬

術って基本個人プレイで、でもああやって団体組めるっていうのは、オリンピックとかそういう大きい世界のことと限定されているから、しかも障害の人たちと同じチームなんてまず無いし、なんていうんでしょうかね…楽しかった。やっぱり皆人の役に立ちたいっていうフフフ想いがあるから。自分がやったことでみんなが喜んでくれると、自分一人で達成した時よりも格段に楽しかった。だからそういう機会がもっといろんな人に与えられたら楽しくなるな～って。

安：私はやっぱり160キロ。海外ですけど初めて完走した時ですね。1999年かオーストラリア。

楠：ゴールした瞬間思ったことって何ですか？

安：あ～やっと終わったって、11時間もかかったので。

（笑）

楠：梁川さんは？

梁：思い出？なんですかね～馬ですか、試合ですか？なんかあり過ぎて。

楠：じゃあ、自分が馬の道に進もうって思うきっかけを与えてくれた馬はなんですか？

梁：あ～それは、僕大学の時乗ってた芦毛のリードオブリーダー、札幌競馬場から来た馬で、初めて僕130出て、あ～面白いなって、高い障害って面白いなって。

白：高い障害は面白い。

梁：僕初めて外馬に乗って､130とかいって。

楠：国体（埼玉）も行ったよね？

梁：国体も良かった。

楠：入賞したんだよね。僕の印象に残っている出来事。大会を見てああなりたいなと思ったのは、東日本とかヤマハとか、ここでやった。

米：そうそう、アイドルみたいな人がいたんですよ。

楠：いやアイドルでしょう。北海道のアイドル白井岳ですよね。

安：岳君が行くっていうドラマみたいのありませんでした？ありましたよね？

米：見た見た！

安：なんかお父さんにバンバン怒られて

白：小学生くらいの時ですね。いまだにこんな少年がいるみたいな。帯畜の乗馬大会に行く週末に合わせて、その２週間くらい前から。テレビだから毎日毎日同じようなところをやるより、子供だから…こんなに怒って嫌な時もって、平穏な日々は面白くないから。でね、将来の目標はって感じでやってました。

米：あれ演技だったの？

楠：なんか岳君の子供の頃の写真イコール調馬索で、そのポニーに乗ってね、後ろ吹雪みたいになってるのに。

白：あの調馬索は、え～とですね、凄く原点ですよ。乗り始めてから多分10年くらいは毎日させられてました。毎日鐙上げで。

一同：へ～～

白：５分間とか10分間とか、こうやって（両手を広げるポーズ）障害飛んでたの毎日・毎日。確かにこのバランス感覚とか…

米：解った！それを見て多分広瀬さんが私に応用したんだ。

（笑）

米：母親の乗っていた大きな馬場馬に乗って「鐙上げだ！」って。ハイ！ハイ！み

たいな感じで。怖かった。

（笑）

白：最初凄い怖い。良く落ちました。

「競技会等への希望」

米：馬場で言うなら…もう少し皆が楽しく見られて一緒にワイワイ楽しめるような競技構成とか雰囲気作りができるといいかなって。別にレベルがどうとかじゃなくって…例えば音楽がこうちょっとあったりするといいかもしれないですよね。

百：出番をせめて言うとか。僕去年ウエスタン見てて、点数をすぐ言ったり出たりする。あれ、良いっすよ。お客さんもあれは何が良くて何が悪かったのかさっぱりわかんないし、ルールが分かんないしというのが馬場の弱点ですよね。

米：馬場はやるとしたらドレッサージュアリーナに聞こえる放送、出来ればＢＧＭ。ちょっと異空間みたいにするの。あそこだけを…

楠：馬場は確かにそうですね。華やかさ、少し楽しいなって、見られている喜び？

米：馬場が初めての試合っていう人が多いから、楽しいイメージをもたせてあげることが必要かなって思います。

梁：表彰の時間とか関係ないですか？見に行けない時間に表彰されて、皆後片付けとかしてるから…結局お客さんが見て喜び合えないっていうか。

米：乗馬で表彰式もありかな。あとトレーニング競技とか１個か２個もってきてほしいな。鞭持っていいのとか、若馬。北海道って自分達でサラブレッドを育てていくっていうのあるじゃない。その方向で他府県と差別化していきたい。

百：北海道ならでは？

梁：障害の新馬競技で賞金を集めて、あれってなんでなくなっちゃったんですか？

楠：１年でランクを上げて、それについてくる人が減っちゃった。結局ランク上がってくると次の新馬作るまで時間がかかっちゃうし、抱えている頭数は限られているし…

百：乗馬人口は増えてるの？

安：今やっている競技会で子供達ってどのくらい参加するんですか？

楠：ホースパークで？エントリーだけだったら30とかありますよ。低いクラスとか。

安：エンデュランスだったら平均年齢多分50くらいになっちゃうんじゃないかって。

白：趣味の延長としたらいいんだろうけど、乗馬クラブにしたら大変だよね。普通のレッスンは狭いところで、部班たって誰が先頭かわからない、斜めに手前換えったってみたいなああいうところで30分乗ってること考えたら、エンデュランスは全然楽しい。

安：普段乗馬クラブでどんな練習していいんですかって言われても、もう本当に基本的なことができなきゃいけないっていうのは一緒なんですけど、普段の練習が乗馬クラブとして興味をもたせて続けていくかってことがなかなか難しい。若い人が出やすいような、エントリー代とか、貸し馬代もそうなんですけど、障害とか馬場みたいに１頭の馬で何種目も出たりできないんで、どうしても１頭の貸し馬代金って結構上がっていくんで、若い人ができない。

米：じゃあどうすれば増えるか？

楠：馬事普及ですね？永遠のテーマですね。

百：その点ではここの競技会は出易くやって頂いているから助かっていますよ。うん、本当に助かっている。うちはお客さんが目標を作ったから、目標がここになったから。

楠：みんな楽しそうですよね。来て乗ってらして。

百：うちのお客さんは上手い下手は関係ない、こういう素晴らしい所に皆で行けるっていう楽しみ。

楠：あ～なるほどね～。

白：僕はほやほやの時に競技会も楽しみだったけど、結構夜皆とワイワイガヤガヤするのが実は競技より楽しかった。

梁：なんかねあんまり出たがんないんですよ、うちのお客さん。ちゃんと乗れないとか、失敗したくないとか…そういうなんかイメージが強いのかな。

楠：でも…お客さんとしか表現ができないけれど、ああいう人たちが増えてくれば、自然と勝手に盛り上がるような気がしますよ。あの人たちが出られないような雰囲気作りをしちゃうと、何かその先はないなって。

梁：上手い人は上手い人で。

楠：楽しまないとね、続かないですもんね。出てきて嫌な思いしたら、なんだ面白くないなって、結局多分僕らも楽しかったから続いているわけでしょう。

梁：あ～そう、うちにノーザンが来たっていうのは凄いことなんです。ノーザンに来るのがイメージなんですよ。１割のお客さんなんです、試合に出るのは。他の方はノーザンなんて私はまだまだっていう感じで、でもうちで競技会した時ノーザン来てくれて、お客さんにとっては凄くよい刺激になった。自信がないっていうか。イメージが湧かないんですよ、競技会の。こんなところで乗るなんて畏れ多いみたいな感じで。うちの試合に出てくれたりすると、こっちからも来やすいので凄い良かったです。

楠：馬づくりっていう観点で、要所要所で競技会があってもよいかもしれない。大きくやらなくてもね。ゆくゆくは国体選手や国体参加馬を育てるような。北海道乗馬連盟の５大大会じゃなく。ちょっとこうシンプルな馬作りの観点の競技会。

米：割と気軽な感じのね。

楠：馴致で出来るような。

百：問題は多分厩舎だと思う。

白：こと競技会に関してだけど、北海道だけだと駄目なんだよ。馬もそうだけど人間も。ノーザンの競技会だったらオッケーっていうの北海道の人多すぎる。

楠：あ～わかる。

白：だから国体とか行った時に、何年も何年も競技やってるのに、他のところに行ったら全く駄目になる馬っているの。それで絶対内弁慶。飛び慣れていない障害とか、人間にしても精神的に。ゴルフやサッカーでもアウェーでいろんな所転戦するじゃない。だから関東とかヨーロッパとかでも毎週試合がある。それが持ち廻りだから、５箇所位ぐるぐる回っていると、違うよね。あと上手くなるには競技会もたくさん出て他人のを見ないと。俺は外国行ってて一番ラッキーだなと思ったのは、いろんな人と話ができたこと。で、意外と聞けば教えてくれる。そこで親しくなったりして、じゃあまた１週間後どこそこ行きますんで教えてくれませんかっ

て言うと、意外と飯奢るくらいで教えてくれたりする。まあ、競技志向の乗馬クラブと乗馬を楽しむ乗馬クラブとでは考え方が違うだろうし、あっていいんだけど、本当に上手くなろうとしたら競技会にたくさん出ないと覚えない。仮に家で100鞍乗ったとしても、１週間に１回試合に出る方が絶対上手くなる。基本さえやっていれば、後は経験なんだけれど、本当に競技者として強くなろうと思ったら、北海道を出ていろんな競技会に出た方が強くなる。

楠：いいこと言った。

白：アメリカとかだったら。

梁：馬運車に繋いで。

米：そうそう、出るときだけ誰かが持ってて鞍付けてもうそのまま競技行っちゃうみたいな北海道でしかできない先駆けのようなことがしたい。

梁：屋内ってどうでしょう？一度競技会やってますよってお客さんに言って、お菓子でも食べながらず～っと見られる。照明とか、音楽とかも屋内なら色々できるし、マーストリヒト行った時に屋内で馬場の試合と障害の試合をやっていたの。で、チケットを買って行くんですけど、間に歌も歌ったりすんです。まあそれは、でも外国だから

楠：歌唄える？

米：歌いますよ！！

（笑）

「今後の目標」

百：小さい頃から乗っている人とはちょっと視点がずれていると思いますが、野球から見るとこの世界って凄いなっていうところ。敷居が高いって感じちゃう競技でもあるし、野球とか本当にもうちっちゃい頃からキャッチボールって入っていけるスポーツもあるから、それからするとやっぱりとっつきにくいスポーツではあるんだけれど、でも素晴らしいっていうところは、同じものがあるので、そういうのを伝えられればなって。

米：馬をたくさん作りたいです。

楠：調教するってこと？

米：調教して、競技馬作って、人に教えてくれるような馬を作りたいです。私も馬から教わってきたから。還元したいです。

梁：僕は身近な目標、良いリズムで走行する。あと自分が今まで、いろんな馬でいろんな人に学んできたことを、少ない時間でお客さんに伝えていきたい。

楠：あ～わかる、それ。

楠：教わってきた言葉って、自分は何年も掛けて習得したけど、いざすぐ解ってほしいと思ったらそれじゃ伝わらないの。

白：だって出来ないですもんね。

（笑）

白：本当は理解していないんだよね。今だって、教えてもらったことは、あんなこと言っていたんだなって今思うことってあるじゃない。自分達だって20年前に言われたことが、だからその解ってないと思うな。

（笑）

安：うちは本当に初心者の方が、観光の人が、ぽっと来てトレッキングとかやっているんですけれど、なんかのきっかけで乗馬を続けて、ゆくゆくはエンデュランスだったり、障害だったりっていう人たちが気軽に馬にまず乗ってみようって、

競技とかも気軽にもっと出てみようっていう人を増やしていきたいな。

白：僕はやっぱり競馬でＧＩ勝ちたいな。まあ、それが目標ですね。仕事で、乗馬だったら馬を極めたいですね。

楠：僕の目標も馬を極めたいです。（笑）

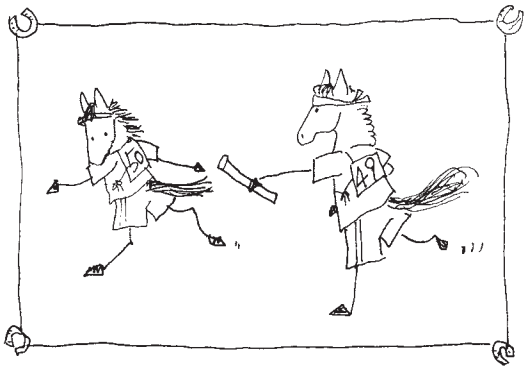
米：同じでいいの？

楠：あとは、あの～今ず～っと話していたような感じなんですけれど、北海道乗馬連盟に加入しているいろんな乗馬クラブ会員さん達が本当に仲良く、今やっている大会がもっともっと盛り上がって皆が楽しめる場所が多くなれば、今の月１回で年５回だけど、それが６回になるとかっていうんでもいいだろうし、なんかそういう場が増えるように頑張りたいなって思います。そして、僕が百周年について、40年後、74歳。僕は道馬連理事長！（爆笑）

会長はそのとき誰？…あっこちゃんか？本当に自分で40年後考えていた時に、山崎さん（現理事長）が今年73、その１コ上なのね。あの自分を想像したらもう考えるの嫌になった。（爆笑）

恐ろしい本当に。嫌になったんだけど、その頃には今までやってくれた人たちの流れでちゃんと北海道がみんなで協力し合って楽しい馬のイベントを色々やったりして、大きな競技会もやったりして。北海道特有なの、乗馬クラブはいっぱいあるけど、国体の時とかちゃんと纏まっている。その感じを大事にしたい。競技会・馬とのイベント、そういうものをもっとやっていって、北海道皆で盛り上がる乗馬連盟を作っていけたら。そして、百周年、40年後理事長になって腕組んで見ながらうんうんって言っているのが目標です。今回、この場には６名が集まりましたが、同世代の仲間が他にも沢山いますし、皆で北海道を盛り上げていきたいです。

本日は皆さん競技会後のお疲れのところ、安永さん、米本さんはわざわざこの為にお集まりいただき、大変充実したお話をありがとうございました。



北海道乗馬連盟の歴史

ここでは、主として平成６年度以降の事柄について記述する。創立から平成５年度までの事柄については「北海道乗馬連盟40年史」をご覧いただきたい。

１．概　観

本連盟の会員は団体会員となっており、平成５年当時は35団体でしたが、現在は52団体が会員となって活動を行っている。この20年間に、会長も加藤弘会長、齋藤善一会長、吉田勝巳会長と、３代の会長に尽力いただいた。事務所も中島公園内の道体協内より、新しく道立体育館“きたえーる”の完成により現在地の豊平区に移ることになった。この間にノーザンホースパークを会場に東日本大会、ヤマハ大会、日韓大会、全日本高等学校馬術大会、北日本学生馬術大会など、道外の選手が参加する大会も実施された。

当連盟は日本馬術連盟の基盤団体として、審判、準コーチ、騎乗資格などに必要不可欠となっている日本馬術連盟の個人会員の申請を行ってその会員数も400名を上まわっている。日馬連には、障害馬術本部、馬場馬術本部、総合馬術本部、エンデュランス馬術本部があり、それぞれの競技会等に指導的な役割を果たしている。また審判、スチュワード等の育成等も行っており、講習会などには講師としてご協力いただいている。審判資格は、現在は３級審判を基に、競技によっては２級、１級審判となっている。

当連盟は馬術の振興として、講習会事業、強化事業、競技会事業を主な事業としている。特に競技会事業として主催している５月北海道新緑馬術大会、６月北海道春季馬術大会、７月国民体育大会北海道ブロック大会、８月北海道馬術大会、９月北海道秋季馬術大会の５大会を実施しており、会場はすべてノーザンホースパークで開催させていただき、施設、設備等の借用により開催が可能になっております。各競技会には平成24年、25年度には100頭以上が登録され、参加延選手数も300名以上となっている。25年度には６月、９月の大会を日本馬術連盟の公認大会として実施した。大会の主管として北海道大学馬術部、酪農学園大学馬術部が中心となり運営され、この貢献に感謝している。また大会に必要な多くの審判の協力も大会を成功させる一因となっている。

主催競技ではないが、北海道エンデュランス協会の下に各大会の実行委員会により５月かもい岳、５月末メイフラワーカップ、６月春季大会、７月浜中、８月釧路湿原、９月秋季大会、10月エンデュランス大会が道内各地で開催されており、エンデュランス大会はすべて日本馬術連盟の公認大会となっている。

平成25年度より日本馬術連盟の馬場馬術課目が変わり従来の１課目－６課目がＡクラス、Ｌクラス、Ｍクラス、Ｓクラスとなり、道内大会でもこれにより実施している。また平成26年９月にはノーザンホースパークにおいて全日本障害馬術大会パートⅡ2014が開催され

ます。

最後に審判員の問題について記したい。現在は各大会の審判員がだんだん固定化の傾向となり、平均年齢が高く、これから将来へ向けて不安があり、審判員の若返りを行いたく、ご協力をお願いします。

（山崎　善輝）

2．学生馬術

平成５年に北海道乗馬連盟40年史が発刊されて20年、この度60年史が編纂されるにあたりもう１度、道内の学生馬術の流れを振り返ってみたい。

北海道内において馬術部を持った大学は、昭和５年創立（前身は大正14年北海道帝国大学乗馬会）とされる北海道大学、昭和16年創立（初めは騎道班として）の帯広畜産大学と昭和35年創立の酪農学園大学の３校である。

その後昭和42年頃に、大谷学園札幌女子短期大学と北海道女子短期大学に馬術部発足の兆しが見られたが、札幌をはじめ道内に芽生え始めた一般乗馬クラブに、彼女らメンバーは活動拠点を求めていったようで実現には至らなかった。

全国規模での競技会の成績を見てみると、戦前では昭和５年のインターハイ（３名による貸与馬戦）へ北大予科生が出場して学習院に次いで２位となったのを皮切りとして昭和17年まで毎年出場し、昭和14年の16回大会では26校出場中、堂々の１位を勝ち取ったという記録が残されている。これと並行して全日本学生馬術選手権大会が個人貸与馬戦で行われており、昭和６年の第１回大会では伊達宗文（東園基文）氏が１位、翌年の２回大会でも２位と活躍ぶりが記録され、さらに昭和14年には菅間威氏が１位を勝ち取っている。この大会は戦後再開されて、鎌田正人氏、千葉幹夫氏、大場善明氏等も出場し、活躍されている。

戦後における国体、全日本、全日学での学生による優勝記録を見てみると、昭和33年富山国体総合馬術で千葉幹夫氏（北楡）、昭和34年東京国体六段で森本悌次氏（北嶺）、昭和35年熊本国体中障害で大場善明氏（北嶺）、岡山全日本中障害Ａで山木南海男氏（碧雲）、馬事公苑第３回全日本学生馬術王座決定戦（寺田圭一、荒川治男、中曽根宏、小松利道、五郎谷克二、鷲田和彦の各氏）、昭和36年秋田国体六段で塚本達氏（碧雲）、福島全日本六段で秋山克彦氏（雲霧）、馬事公苑第４回全日本学生馬術王座決定戦で（中曽根宏、山木南海男、小松利通、鷲田和彦、五郎谷克二、塚本達の各氏）、昭和37年馬事公苑第５回全日本学生馬術王座決定戦で（恩田正臣、堀川芳男、玉澤一晴、原重一、志水一允、清水洋、岡田征至、八木正巳、小島武の各氏）、これにより道内勢による王決３連覇という貸与馬戦での記録が残された。昭和40年馬事公苑全日本パルクールドシャスで久保田学氏（春洋）、昭和41年大阪全日学障害で中島又夫氏（デイリー）、昭和45年大井全日学総合で山口公章氏（柏勝）、昭和46年阪神全日学総合で三木田照明氏（柏鷹）、昭和47年馬事公苑全日本パルクールドシャスで恩田求氏（柏勝）、昭和48年千葉国体複合で山田源一郎氏（柏勝）、馬

事公苑全日本パルクールドシャスBで柏村文郎氏（柏鷹）、昭和49年馬事公苑全日学障害で添田昌一氏（スターライト）、またこの種目で帯畜大が団体を制し、総合では個人で山田源一郎氏（柏勝）、団体でも帯畜大がこれまたこの種目も制し、この結果3種目総合でも帯畜大が優勝という快挙を成し遂げた。昭和51年佐賀国体総合で斉藤保則氏（柏栄）、馬事公苑全日本中障害で長屋清隆氏（スターライト）、馬事公苑全日学障害で斉藤保則氏（柏栄）、昭和52年馬事公苑全日学障害で長屋清隆氏（スターライト）、昭和54年馬事公苑全日本選抜中障害で高橋均氏（ドンホッパー）、昭和57年馬事公苑全日本中障害選手権で坂東義和氏（柏星）、平成元年浦河国体スピードアンドハンデイネスで大町哲也氏（柏星）など、多くの全国制覇がなし遂げられている。

さて、学生馬術界は昭和41年を境として、それまでの貸与馬戦から自馬戦がメインになっていった。昭和35年から帯畜大と北大により3連覇していて、各校がその年の最大目標としていた、1チーム6名での貸与馬戦、全日本学生馬術王座決定戦（王決）は昭和40年に終了することとなった。

大学間の交流戦などで貸与馬戦はその後も行われているが、部員の減少などもあってせいぜい3名戦くらいが現状で、親睦会的交流面の方がメインになっているのかとも見える。

日頃、部内での練習において責任自馬制が主流になって、日々異なる馬に乗るというかつての練習法から方針転換した学生馬術界は、乗馬経験者の増加による必然的な流れなのかもしれないが、道内3大学ではまだまだ未経験者が多く入部しており、今一度いかに彼らを鍛え上げるかという課題と向き合う時期にきているように思われる。

戦前、戦中に馬術部を立ち上げた諸先輩は殆どが乗馬経験者で、馬に乗りたい一心で入学された方も多く、乗馬用長靴と鞭だけを持って入学した方もおられたとか。そのような先輩方が物のない時代、可能な限りの手立てを講じ、苦労し、工夫を凝らして乗馬の出来る道を開き、多大な困難を乗り越えて馬術を追い求め、それが礎となって今日に及んでいる。

戦後においては、昭和30年代後半頃からスポーツ少年団、一般乗馬クラブや高校馬術部からの新入部員もポツポツとみられるようになり、上級生部員にはやや重たい存在であったかもしれないが、未経験新入部員たちにとっては身近な恰好の目標となったようである。

馬の種類は戦前、戦中は軍馬の借用で半血種がほとんど、重種に在来馬やアングロノルマン、トロッターなどを配合したものが多かったようである。戦後もしばらくはこれら中半血、重半血で、中には障害飛越においては非凡な能力を発揮するものも多かったようであるが、さらに軽種のアラブ、アングロアラブやサラブレッドも入り、またこれらとの交配による雑多で個性的ではあったがより乗馬向きの馬たちも作出され、調教者、乗り手に恵まれたとき競技会で勝負できる馬となっていった。

昭和42年から全日学への予選会として北日本学生馬術大会が北海道と東北地区で交互に持ち回りで開催されるようになった。 学生賞典障害、総合と馬場の3種目で前年の成績に基づいて割り振られた全日学への枠を争うようになったのは、昭和46年第7回十和田市

北里大学からである。帯広、仙台、札幌、岩手、などを経由して、昭和50年の十和田北里大からは帯畜大と交互で開催するようになった。総合では耐久があるため野外騎乗コースが必要で、その備えを持つ両校が隔年で担当することになったのである。

さてこれらの大会開催中での忘れられないアクシデントをいくつか記しておきたい。

平成60年の帯畜大での出来事である。当時懇親会は大会期間中の最終日の前日に行っていたが、総合に出ていて２日目の野外を終えてトップに立っていた選手が、泥酔の果てに寮の５階から転落したのである。幸いにも落ちたところが柔らかい土の上であったため生命に別状なく終わったが、関係者一同驚くやらほっとするやらであったが、翌年からの懇親会は大会前日に行うこととなった。

また帯広での大会終了後の帰途の出来事であるが、日勝峠に向かう裏道で学生たちの乗った車と対向してきたトラックがぶつかり、女子学生１名が死亡するという悲しい事故が起こってしまった。

またある年の北里大での出来事である。競技開始の前日に、飲酒した１年生が宿舎の３階から転落、下がコンクリートだったため死亡するという事故が発生してしまった。年齢的には成人に達してはいたとのことではあったが、駆け付けた深い悲しみのご両親のお許しをいただき、全日学予選種目のみを実施し、その１年生の先輩の４年生が見事、障害と総合の２冠に輝くという結果を得たが、なにか亡くなった彼の後押しがあったのかと感じられたものであった。

尚、翌年から大会期間中の飲酒は禁止され現在に至っている。

その後の東北地区での北日本学生は国体を開催して競技場施設と野外コースを持っている福島県原町市に会場を移すこととなり、北海道も帯畜大からノーザンホースパークに変更されることとなった。双方共に施設面は整っていて、なにより厩舎が立派で、以前のような仮厩舎の作成が不要であり、主管校にとっての負担が軽減することとなった。

しかし、あの平成23年３月11日以来原町市の会場は放射能汚染のため使用不能となったため、やむなくここ３年続けてノーザンでの開催となっている。使われない施設は老朽化が進みやすく、野外コースは荒れ果てたまま放置されていると聞く。しかし相馬の野馬追いが復活されたということで、一筋の希望の道が示されているように思われる。

さて、今年の全日学も東京馬事公苑にて開催されようとしている。代表人馬の健闘を祈念して筆をおくこととする。

（久保田　学）

3．高校馬術

現在、北海道には６校（札幌光星高校、札幌龍谷高校、静内高校、静内農業高校、浦河高校、帯広農業高校）の馬術部が存在する。この20年の間に、様似高校が活動を休止し、しばらく５校の時期が続いたが、平成18年、新たに静内高校に馬術部が誕生した。この中で、学校として馬術用競技馬を所有しているのは静内農業高校と帯広農業高校の２校のみであり、その他の高校はJRA札幌競馬場、JRA日高育成牧場をはじめ、多くの乗馬クラブの協力を得て活動を行っている。全国的に見ても、北海道ほど中高生を中心としたジュニア世代の育成に熱心な地域は稀であり、こうした土壌により、これまでに多くの優秀な人材を競馬や乗馬の世界に輩出してきた。この場を借りて、ジュニアの育成や高校馬術の発展のためにご協力を頂いた多くの皆様に心から感謝を申し上げたい。

この20年間の北海道高校馬術の活躍はめざましく、道内のみならず、全国大会や国際大会でも優秀な成績を収めてきた。全日本高校馬術大会（インターハイ）では平成７年栃木大会で札幌光星高校が優勝、平成13年熊本大会で帯広農業高校が優勝、平成14年福井大会で浦河高校が優勝、平成17年茨城大会で帯広農業高校が準優勝を収めている。全日本高校馬術選手権大会でも、平成12年に三浦大輔選手（浦河高校）が個人第３位の成績を収めている。国際大会では平成12年日韓高校馬術大会（韓国）に三浦大輔選手（浦河高校）が出場し、団体で日本チームの勝利に貢献、平成13年日韓高校馬術大会（兵庫）には加藤智宏選手（帯広農業高校）が日本代表の主将として出場し、日本チームを団体戦勝利に導いた。平成17年にはオーストラリア・クイーンズランド州選抜との国際親善試合に日本代表として岡本翔子選手（帯広農業高校）が、翌年の同大会にも鈴木亜衣選手（札幌龍谷高校）が出場を果たした。道内の高校馬術部員の活躍は、高馬連主催大会にとどまらず、東日本馬術大会や国民体育大会においてもめざましいものがある。主なものとして、平成８年東日本馬術大会で山本馨子選手（浦河高校）が婦人障害（M-C）で優勝、平成13年東日本馬術大会で堀江裕起子選手（浦河高校）が内国産障害（M-C）で優勝、水谷寛子選手（浦河高校）が高校生障害（M-C）で３位、平成15年静岡国体で山根健太郎選手（帯広農業高校）が少年標準障害で３位、平成16年埼玉国体で石谷亮選手（札幌龍谷高校）が少年スピードアンドハンディネスで優勝、平成19年秋田国体で半田佑介選手（帯広農業高校）による少年標準障害での優勝などがあげられる。このように高校馬術部の選手が、国民体育大会や日馬連主催の全国大会で優秀な成績を収め続けている都道府県は、北海道以外の地域ではあまりみられないことであり、こうした活躍の要因は、高校生のために優秀な乗馬を惜しみなく貸与してくださる道内の乗馬団体および乗馬関係者の協力によるところが大きい。

北海道高校馬術出身者は、高校卒業後も様々な場で活躍を続けている。多くの選手が道内や本州の大学に進学し、全日本学生馬術大会等で優秀な成績を収めている。さらに大学で活躍した選手の中には、その後指導者を志す者も多い。札幌光星高校を平成11年に卒業した小山創氏は東京農業大学を卒業後、高知県幡多農業高等学校の教員となり、自身が創っ

た馬術部を創部4年でインターハイ優勝に導くなど、その指導手腕は高校馬術界で高く評価されている。

このように、北海道高校馬術出身者は全国で活躍しており、我が国の乗馬（馬術）の普及と発展に大きく寄与している。

～現状と展望～

現在、北海道の高校馬術部を取り巻く環境は、時代とともに大きく変わりつつある。JRAの乗馬普及事業の縮小や各高校の乗馬指導者不在の状況は、各高校の活動に大きな影響を与えている。そうした状況の中で、各高校の活動は顧問教員や馬術部関係者の並々ならぬ苦労によって支えられているのが現状である。北海道乗馬連盟としては、北海道の高校馬術が担ってきた役割を正しく評価し、今後も必要とされる支援を続けていくことが重要と考えている。

（宮竹　智明）

4．エンデュランス馬術競技

北海道でエンデュランス競技が始まってからまだ20年に満たない。平成３年、鹿追町瓜幕に子供たちの情操教育と競ばん馬の振興を目的として、瓜幕ライディングパークがつくられ、乗用馬３頭で乗馬のレッスンをし、毎年瓜幕競ばん馬大会が開催された。そのような中で、乗馬愛好者や開発局の農業関係者が集い、農業用水路管理用の道路を利用してホーストレッキングの実施が検討され、さらに十勝を馬の道でつなぐルーラルパスの構想が持ち上がった。

同じく平成３年に帯広市清川地区でホーストレッキングが始まり、翌年鹿追町でも乗馬によるまちづくりを目的に、ホーストレッキング、体験乗馬、ウエスタン競技の披露などのイベントが始まり、コースづくりなどに地域農業者の皆さんに協力いただいた。また、「鹿追町馬の道建設連絡協議会」の立ち上げ、町内における馬の道の研究と可能性について話し合われた。農業用水路管理用の道路だけでなく、町道や然別川管理用の道路、林道なども含め検討がされ、数年にわたり10kmから40kmまでの馬の道が整備されていった。

その時期に、観光乗馬の可能性を探るため、カナダやアメリカの現状も視察に行き、雄大な景色の中で行われているホーストレッキングを体験し、鹿追町でも民間乗馬クラブの皆さん達と手探りでホーストレッキングが始まった。

イベントとしてのホーストレッキングが実施される中で、日本長距離騎乗協会の新城氏や楠山氏が来町され、外国で行われているエンデュランスの魅力が語られ、競技会の開催を勧められる中で、十勝エンデュランス協会が設立され、先進国のアメリカやオーストラリアから講師を招聘して幾度かの講習会を開催し、ライダー、獣医師、審判、コースづくり、競技会の運営競技などの指導を受けて、平成８年10月に実際にコースに出る講習会を30kmの距離で鹿追町で開催された。翌年から十勝エンデュランス競技会が20km、40km

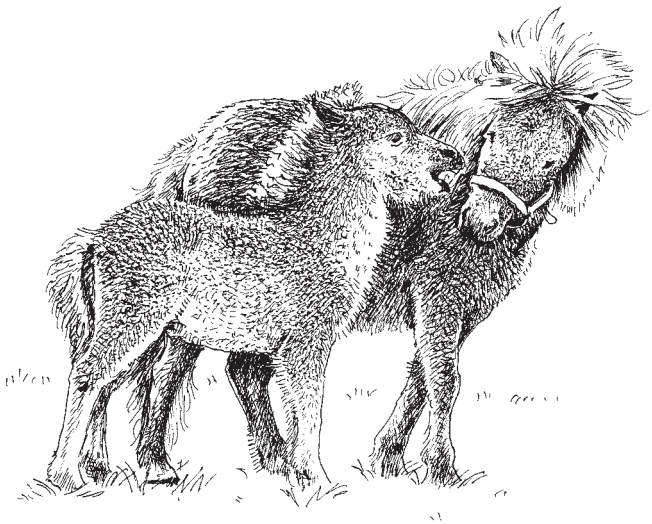
の距離で始まり、新城・楠山両氏達にも毎年参加していただき、獣医師、審判、運営やコースづくりのアドバイスを受けながら平成11年５月に十勝エンデュランス協会を北海道エンデュランス協会に組織替えをし、十勝以外の人達にも会員として参加いただき、北海道の他の地域でのエンデュランス競技会の可能性も検討され始めた。鹿追町での競技会の際に当時道馬連理事長の八木氏、日馬連理事の白井氏に北海道乗馬連盟への加盟を勧められ、北海道エンデュランス協会は北海道乗馬連盟の団体会員となった。加盟後は日馬連の審判資格を有する方々が、競技会の審判員、ステュワードや役員として参加をいただけるようになり、今日の発展につながっていると思われる。

平成12年９月24日に第１回全日本エンデュランス競技大会が鹿追町で開催された。その後、道内では津別町、浦河町、鶴居村、白滝村、新冠町、浜中町、当別町、石狩市、歌志内市において競技会が開催され、現在道内では鹿追町で３回、歌志内市、鶴居村、浜中町の３会場で各１回の年６回の競技会が行われている。

国内では山梨県（小淵沢）、長野県（飯綱高原）、群馬県（照月湖）、静岡県（伊豆）でも行われ、照月湖や伊豆の競技会は、FEIの公認競技として２年に一度の世界選手権の資格がとれる競技会となっている。道内での競技会もFEI公認競技を目指しているが、FEI資格を有する獣医団や審判、ステュワードを招聘するには、多大な経費を要し、早い時期に国内のFEIの有資格者の養成が必要と思われる。

現在エンデュランス競技会に参加する人馬が頭打ちの状態になっている。今後、競技人口を増やすための工夫や施策を考えていかなければならないと思われる。国内で他の３競技と比べてエンデュランス競技は歴史が浅いが、今日の普及発展は、これまでの多くの人達の協力によると思われる。

（三井　福成）



北海道乗馬連盟史年表（動静）

	道内馬術界の動静	乗馬団体の動静	役員				日馬連北海道理事
			役員	常務理事・副会長	理事長	事務局	
1872　明治5年	札幌神社祭礼競馬						
1907　明治40年	札幌競馬場開設						
1920　大正9年		帯広農業高校馬術部創立					
1925　大正14年	北海道大学乗馬会（北海道大学馬術部）						
1927　昭和2年	第１回北海道乗馬大会（旭川）						
1930　昭和5年		北海道大学馬術部創立 3月					
1941		帯広高等獣医学校騎道班					
1942　午年		帯広畜産大学馬術部創立					
1945　昭和20年	社団法人全国馬術連盟創立（日馬連の前身）						
1946	真駒内から十勝へ種畜牧場移る（真駒内は米軍に接収される）						
1949	米軍から札幌競馬場へ払い下げ						
1950　昭和25年							
1951		札幌乗馬倶楽部創立　6月					
1953	北海道乗馬連盟創立						

1954　午年	札幌競馬場内に事務局		菊池　吉次郎	庄内　貞夫 （1915/1/15-　） 武田　啓介 原島つる子 遠山　範重 松本　久喜	理事　6名 監事　3名	日本中央競馬会 札幌競馬場内 山下　輝幸 姉崎　　保	
1955　昭和30年		JRA札幌競馬場馬術部創立					
1956							
1957							
1958	第1回　招待全日本女子学生馬術大会開催（北大）	札幌光星高校馬術部創立 4月					
1959							
1960		札幌楽馬会創立　5月 酪農学園大学馬術部創立 4月					
1961		浦河乗馬クラブ創立					
1962		旭川乗馬倶楽部創立	髙橋　賢一 （1914- 2005/8/3）	武田　忠幸 （1898-　） 松本　久喜 阿部　康毅	庄内　貞夫 理事　14名 監事　2名	北海道大学農学部 畜産学科内 齊藤　善一 （1930/10/1- 2010/9/20）	
1963	・第1回道初心者馬術大会（北大馬場）審判長庄内 ・第7回招待全日本女子学生馬術大会				庄内　貞夫		
1964	東京オリンピック			武田　忠孝 半澤　道郎 （1910/3/15- 2006/5/4）	庄内　貞夫 理事　21名 監事　2名 顧問　11名	札鉄公安室内 山本　　智	

	道内馬術界の動静	乗馬団体の動静	役員				日馬連北海道理事
			役員	常務理事・副会長	理事長	事務局	
1965　昭和40年	札幌市民大会に馬術競技	JRA日高育成牧場馬術部創立 JRA函館競馬場乗馬クラブ創立 札幌女子高校馬術部（現：札幌龍谷高校馬術部）創立 ４月					
1966　午年					庄内　貞夫		
1967				武田　忠孝 半澤　道郎 庄内　貞夫 石井幸次郎	山本　　智 理事25名 （各団体１－２名）	北大農学部内 半澤　道郎 山本　　智	
1968	メキシコオリンピック 第14回国鉄馬術大会				山本　　智		
1969							
1970							
1971	国体選手選考問題	碧雲クラブ創立 フロンテア乗馬クラブ創立　７月 函館東山乗馬クラブ創立					
1972	ミュンヘンオリンピック	札幌彗星乗馬会創立 岩見沢乗馬クラブ創立 ６月					
1973		岩見沢競馬場に馬術施設		西村札幌競馬場場長 武田　忠幸 宮坂　文一 小山　昌克	西村札幌競馬場場長 監事　２名	札幌競馬場内	

1974	農業祭に馬事公苑山谷氏のポニー演技と札幌競馬場のカドリール （札幌月寒北海道産業共進会場９／１）	十勝柏友会乗馬クラブ創立 ４月 浦河高校馬術部創立　４月				半澤　道郎	札幌競馬場内に連盟の部屋 小野　　忠 片寄　　髞 女性事務員	佐藤　俊彦
1975　昭和50年		日高ケンタッキーファーム（現：白井牧場不二ファーム）創立						半澤　道郎
1976	モントリオールオリンピック	北星乗馬クラブ（現：ほくせい乗馬クラブ）創立　３月					鷲田　和彦 （1940/9/26-1984/5/18）	
1977	第15回　日韓親善馬術大会 北海道大会 （北大７/30-８／１）							
1978　午年		静内農業高校馬術部創立 ４月						
1979		すずらん乗馬クラブ創立 １月						
1980	モスクワオリンピック （不参加）				半澤　道郎 宮田　四郎	岡田　光夫 （1920/１/９-2006/９/17）		
1981	北海道立札幌中島スポーツセンターへ移転 役員が多すぎるため次年度以降理事数を減ずることとなる インターハイ第15回大会を酪農学園大学で開催 （８/７-９）						北海道立札幌中島体育センター本館事務室内	

	道内馬術界の動静	乗馬団体の動静	役員				日馬連北海道理事
			役員	常務理事・副会長	理事長	事務局	
1982	各加盟団体から１名評議員を選出し評議員会設置	乗馬倶楽部メイン・フィールズ創立　１月			岡田　光夫 専務理事　１名 理事　６名 監事　２名		
1983	総務部・審判部・強化部設置 各種規程の制定・改正 会員数　540名						
1984	ロサンゼルスオリンピック はまなす国体強化事業開始 鷲田和彦専務理事交通事故死５/18	足寄乗馬クラブ創立　10月			理事を２名増員		
1985　昭和60年		モモセライディングファーム創立 新冠乗馬スポーツ少年団創立					
1986		輪厚倶楽部（現：スパイス乗馬クラブ）創立　11月 ゼロライディング創立					
1987	第６回　日韓高等学校馬術大会 （北星９/13）						
1988	ソウルオリンピック 第44回　国民体育大会リハーサル大会	オーフル・ホース・コミューン創立　４月 ファンタストクラブ創立　11月					
1989　平成元年	北海道国体	早田牧場乗馬クラブ創立 ノーザンホースパーク創立 様似高校馬術部創立　８月					

1990　午年					理事を３名増員 理事　13名 監事　２名		
1991	第27回東日本馬術大会 （ノーザンホースパーク ９/20-22）						岡田　光夫
1992	バルセロナオリンピック '92　ＩＢＧホースショー・ジャパン （ノーザンホースパーク ９/５-６）		加藤　弘	岡田　光夫 （1920- 2006/９/17） 吉田　勝巳	八木　正巳 （1941/１/7- 2005/８） 専務理事　１名 技術担当理事 １名 理事　10名		
1993　平成５年	創立40周年 第12回　日韓高等学校馬術競技大会（ノーザンホースパーク10/３） 第１回　対ニュージーランド・ジュニア障害馬術大会（ノーザンホースパーク）	日高軽種馬共同育成公社創立					
1994		ノーザンファーム創立 １月		竹之内博康 (1941-2014/3/27)			
1995		どさんこトレッキング牧場創立　４月 ライディングチームＫＳ ７/11加入					
1996	アトランタオリンピック						
1997	9th Northern Horse Park Cup　10/３						

	道内馬術界の動静	乗馬団体の動静	役員				日馬連北海道理事
			役員	常務理事・副会長	理事長	事務局	
1998　平成10年	世界エンデュランス選手権大会 第３位　安永　大介 CSIグルノーブル国際馬術大会 グランプリ大障害飛越競技 第３位　白井　　岳		斉藤　善一	岡田　光夫 吉田　勝巳	理事　11名		
1999		北海道エンデュランス協会 創立　５/22 大樹ライディングクラブ ８/５加入			理事　15名 監事　２名		
2000	シドニーオリンピック	ホースフレンドファーム創立　４月 千代田牧場　９月加入					
2001		ＪＢＢＡ静内種馬場 ６/23加入 ライディングヒルズ静内創立　10/１		吉田　勝巳 小野　　忠 田上　恒男	理事　16名 監事　２名		
2002　午年		東北海道うま会議創立 ３月		山崎　善輝	理事　17名 監事　２名	伊東　　宏 石川　信行 喜多　和子	
2002　午年		学校法人　優駿学園 ５/31加入 近藤ファームライディングジール					
2003		遊馬ランドグラスホッパー 創立　12月					

2004	アテネオリンピック		吉田　勝巳	八木　正巳 三浦　　勲 鎌田　正人 川久保洋治	理事　16名 監事　2名	西根　正勝	
2005	八木正巳氏交通事故により 死去日勝峠						
2006	第40回全日本高等学校馬術 競技大会　7/21-23 秋篠宮殿下御臨席	マオイホースパーク創立 石狩ホーストレック創立 12月			山﨑　善輝 理事　17名 監事　2名		広瀬　春行
2007		新冠ホロシリ乗馬クラブ創立　5月					
2008　平成20年	北京オリンピック	チェスナットファーム創立 4月		市川　瑞彦	理事　20名 監事　2名		
2009							
2010				三井　福成 広瀬　春行	理事　17名 監事　2名		
2011		中村宏厩舎創立　5月					
2012	ロンドンオリンピック						
2013							

北海道乗馬連盟史年表（競技会）

＊優勝人馬のみ記載

	競技会							国民体育大会		全日本馬術大会（含東日本）	全日本学生関連
	全日本エンデュランス	北海道馬術大会兼国民体育大会馬術競技北海道地区予選	北海道団体馬術選手権大会	北海道自馬馬術大会	日本馬術連盟公認北海道地区馬術大会	北海道馬場馬術大会	北海道障害馬術選手権大会				
1946								第1回 京阪神中心に近畿地区			
1947								第2回 石川県	一般及び学生対抗リレー競技 北海道・東北チーム優勝		
1948								第3回 福岡県			
1949								第4回 東京都			
1950 昭和25年								第5回 愛知県			
1951								第6回 広島県			
1952								第7回 福島・宮城・山形県			
1953								第8回 愛媛・香川・徳島・高知県			
1954 午年		第1回						第9回 北海道	洋考号国体初出場		
1955 昭和30年		第2回						第10回 神奈川県			
1956		第3回	第1回					第11回 兵庫県			

1957		第４回						第12回 静岡県			
1958		第５回						第13回 富山県 ４位	一般自馬総合馬術 千葉幹夫（北楡）		
1959		第６回						第14回 東京都 ２位	一般自馬六段飛越 森本悌次（北嶺）		
1960		第７回						第15回 熊本県 ４位	一般自馬中障害飛越 大場善明（北嶺）	第13回　全日本馬術大会（岡山） 中障害飛越競技Ａ 山本南海男（碧雲）	第10回　全日本学生章典障害飛越競技会（馬事公苑） 団体優勝 帯広畜産大学馬術部
1961		第８回						第16回 秋田県 優勝	高校生自馬馬場馬術 小佐部宣直（洋考） 一般自馬六段飛越競技 塚本進（碧雲）	第14回　全日本馬術大会（福島） 六段飛越競技 秋山克彦（東雲）	第11回　全日本学生章典障害飛越競技会（馬事公苑） 団体優勝 帯広畜産大学馬術部
1962		第９回						第17回 岡山県 ３位	高校生自馬 山﨑毅記（北高・洋考） 一般貸与馬中障害飛越トーナメント 八木正巳・小出英夫・田中昭志		第12回　全日本学生章典障害飛越競技会（馬事公苑） 団体優勝 北海道大学馬術部 個人　恩田正臣
1963		第10回						第18回 山口県 ６位		第16回　全日本馬術大会（山口） 中障害飛越競技甲 鎌田正人 （1919/1/31-2008/5/2）（セントベル）	
1964		第11回						第19回 新潟県 ３位	高校生自馬 内山六郎（光星・洋考）		

	競技会							国民体育大会		全日本馬術大会（含東日本）	全日本学生関連
	全日本エンデュランス	北海道馬術大会兼国民体育大会馬術競技北海道地区予選	北海道団体馬術選手権大会	北海道自馬馬術大会	日本馬術連盟公認北海道地区馬術大会	北海道馬場馬術大会	北海道障害馬術選手権大会				
1965 昭和40年		第12回						第20回 岐阜県	洋考連続12回目の国体出場 長田稔（碧雲）	第17回　全日本馬術大会（東京） 中障害飛越競技パルクール・ド・シャス 久保田学（春洋）	
1966 午年		第13回		第１回				第21回 大分県	（セントベル・北飄・雲霧・勇勝）	第12回　全日本学生章典障害飛越競技会（杉谷馬事公苑） 個人　中島又夫（デイリー）	
1967		第14回		第２回				第22回 埼玉県 ８位	高校生貸与馬障害飛越トーナメント 馬場英司・布施美智子・福田博明		
1968		第15回		第３回				第23回 福井県			
1969		第16回		第４回				第24回 長崎県	（柏鷹・柏勝・勇勝・シーザーライト）		
1970		第17回		第５回				第25回 岩手県	高校生貸与馬障害飛越団体トーナメント 星野良三・古賀幹朗・田中俊輔		第13回　全日本学生３-DAY EVENT（大井） 山口公章（畜大）
1971		第18回	第16回	第６回				第26回 和歌山県	高校生貸与馬障害飛越団体トーナメント 田中俊輔・前祐二・中村隆志		第14回　全日本学生３-DAY EVENT（阪神） 三木田照明（畜大）
1972		第19回	廃止	第７回				第27回 鹿児島県		第24回　全日本馬術大会（馬事公苑） パルクールド・シャス 恩田求（柏勝）	

1973		第20回		第 8 回				第28回 千葉県 沖縄県	高校貸与馬障害飛越団体トーナメント 大坂進・油谷光治・渥美誠 一般自馬複合馬術 山田源一郎（畜大・柏勝）	第25回　全日本馬術大会（馬事公苑） パルクールド・シャス B 柏村文郎　（柏鷹）	
1974		第21回		第 9 回				第29回 茨城県 4 位	一般総合馬術競技　布浦敏一（1924/1/15-2013/1/20）（ハッピー）		第24回　全日本学生章典障害飛越競技会（馬事公苑） 団体　帯広畜産大学 個人　添田昌一（スターライト） 第17回 全日本学生 3 - DAY EVENT（馬事公苑） 団体　帯広畜産大学 個人　山田源一郎（畜大・柏勝） 第17回　全日本学生馬術大会 3 種目総合成績（馬事公苑） 団体　帯広畜産大学
1975 昭和50年		第22回		第10回				第30回 三重県			
1976		第23回		第11回	第 1 回			第31回 佐賀県	成年総合馬術競技 斉藤保則（柏栄）	第28回　全日本馬術大会（馬事公苑） 中障害飛越競技 長屋清隆（スターライト）	第26回　全日本学生章典障害飛越競技会（馬事公苑） 個人　斉藤保則（畜大・柏栄）
1977		第24回		第12回	第 2 回			第32回 青森県	下屋敷重義監督 谷篤子（テレサ）		第20回　全日本学生馬術障害飛越競技会 長屋清隆（北大・スターライト）
1978 午年		第25回		第13回	第 3 回			第33回 長野県	少年貸与馬障害飛越団体トーナメント 宇野昭浩・中島雅春		

	競技会							国民体育大会		全日本馬術大会（含東日本）	全日本学生関連
	全日本エンデュランス	北海道馬術大会兼国民体育大会馬術競技北海道地区予選	北海道団体馬術選手権大会	北海道自馬馬術大会	日本馬術連盟公認北海道地区馬術大会	北海道馬場馬術大会	北海道障害馬術選手権大会				
1979		第26回		第14回	第４回			第34回 宮崎県 ８位		第31回　全日本馬術大会（東京） 選抜中障害飛越競技 髙橋均（ドンホッパー）	
1980		第27回		第15回	第５回			第35回 栃木県 ２位	少年障害飛越競技団体 吉沢克己・伊東圭三（ドンホッパー・柏栄）		
1981		第28回		第16回	第６回			第36回 滋賀県			
1982		第29回		第17回	第７回			第37回 島根県 ３位		第34回　全日本馬術大会（東京） 中障害飛越選手権競技 ２走行 坂東義和（柏星）	
1983		第30回		第18回	第８回			第38回 群馬県			
1984		第31回		第19回	第９回			第39回 奈良県 ２位		第37回　全日本馬術大会（東京） 内国産馬スピードアンドハンディネス 土井仁（ザ・チャーリー）	高校： 第18回　全日本高等学校馬術大会 浦河高等学校
1985 昭和60年		第32回	第30回（北星乗馬クラブ）	第20回	第10回			第40回 鳥取県			
1986		第33回		第21回	第11回			第41回 山梨県		第16回　全日本総合馬術大会 一般競技 布施佐知子（チアガール）	
1987		第34回		第22回	第12回	第１回	第１回	第42回 沖縄県 ９位		第17回　全日本総合馬術大会（山梨） ジュニア選手権競技 布施勝（サミット）	第30回　全日本学生３-DAY EVENT（馬事公苑） 第30回　全日本学生馬馬場馬術競技会（馬事公苑） 村上恵祐（明治大）

1988		第35回		第23回	第13回	第２回	第２回	第43回 京都府		第24回　東日本馬術大会（山梨） 内国産馬障害飛越選手権競技 長屋清隆(カリスタヒーロー) 第40回　全日本障害飛越馬術大会（群馬） 内国産馬標準障害飛越予選競技 大谷直生（リューク）	
1989 平成元年		第36回		第24回	第14回	第３回	第３回	第44回 北海道 優勝	成年２部馬場馬術競技 丹治輝明（ニットクジャンボ） 成年２部スピードアンドハンディネス競技 大町哲也（柏星） 成年１部総合馬術競技 宮竹智明（チップマンク） 少年標準障害飛越競技 佐伯光夫（カリスタヒーロー） 成年１部クロスカントリー競技 賀山高(コジロウ)	第41回　全日本障害飛越馬術大会（馬事公苑） 内国産馬障害飛越選手権競技 武笠昭男（フェニックス） 内国産馬標準障害飛越予選競技 大谷直生（リューク）	
1990 午年		第37回		第25回	第15回	第４回	第４回	第45回 福岡県		第42回　全日本障害飛越馬術大会（杉谷） 内国産馬標準障害飛越予選競技 大谷直生（リューク） 内国産馬スピードアンドハンディネス予選競技 布施勝（明姫）	
1991		第38回		第26回	第16回	第５回	第５回	第46回 石川県 ４位	少年団体障害飛越競技 佐伯光夫・緒方美絵・ 千島俊司（ヒロパピー） 少年リレー競技 佐伯光夫（カリスタヒーロー） 畠山慶和（レイノルビオ）	第15回　全日本障害飛越選手権大会（杉谷） 標準障害飛越競技ポニーライダー 白井岳（メイシャ） ジュニアライダー 畠山慶和（レイノルビオ） スピードアンドハンディネス競技ポニーライダー 白井岳（メイシャ） ジュニアライダー 畠山慶和（ジェロニモ） ポニーライダー選手権競技 白井岳（メイシャ）	

	競技会							国民体育大会		全日本馬術大会（含東日本）	全日本学生関連
	全日本エンデュランス	北海道馬術大会兼国民体育大会馬術競技北海道地区予選	北海道団体馬術選手権大会	北海道自馬馬術大会	日本馬術連盟公認北海道地区馬術大会	北海道馬場馬術大会	北海道障害馬術選手権大会				
1992		第39回		第27回	第17回	第６回	第６回	第47回 山形県		第16回　全日本障害飛越選手権大会（杉谷） ポニーライダー選手権競技 吉田俊介（スーパージャッジ） ジュニアライダースピードアンドハンディネス競技 白井岳（ラレイ） ジュニアライダー選手権競技 畠山慶和（レイノルビオ）	高校： 第26回　全日本高等学校馬術競技会
1993		第40回		第28回	第18回	第７回		第48回 香川・徳島県 ４位	成年２部標準障害飛越競技 吉田俊介（ダイナアトランダム）	第17回　全日本障害飛越選手権大会（杉谷） ポニーライダースピードアンドハンディネス競技 天羽真崇（メイシャ） ポニーライダー総合成績 天羽真崇（メイシャ） ポニー選手権競技 天羽真崇（メイシャ） ジュニアライダー標準障害飛越競技競技 白井岳（クロワドヴィコンテ） 第29回　東日本馬術大会（山梨） 内国産馬障害飛越選手権競技 吉田俊介（ダイナアトランダム） 標準大障害飛越競技 白井岳（シドラ） 中障害スピードアンドハンディネス競技 白井岳（キングストンボーイ） 大障害飛越選手権競技 白井岳（シドラ）	札幌光星高校
1994		第41回		第29回	第19回 7/23-24	第８回 5/21-22	第８回 9/25-26	第49回 愛知県			

1995		第42回　北海道体育大会兼第50回国民体育大会馬術競技北海道ブロック予選大会		第30回 春季北海道自馬馬術大会 6/24-25	第20回 北海道馬術大会 7/29-30	第９回 5/27-28	第９回 秋季北海道自馬馬術大会	第50回 福島県	少年トップスコア競技 早田明（オレンジカウンティ）		
1996		第43回		第31回 6/24-26	第21回 7/13-14	第10回	第10回 9/21-22	第51回 広島県	成年女子標準障害飛越競技 村上陽子（オレンジカウンティ）		
1997		第44回 8/23-24		第32回	第22回 7/12-13	第11回 5/24-25	第11回	第52回 大坂府	少年ダービー競技 早田未来（オレンジカウンティ）		
1998 平成10年		第45回 8/22-23		第33回 6/19-21	第23回 7/18-19	第12回 5/30-31	第12回 1998VISA IBG Horse Show兼 10/2-4	第53回 神奈川県		第33回　東日本障害飛越馬術大会 外国産馬障害飛越選手権競技 島和弘（JRA）	
1999		第46回		第34回	第24回 7/17-18	第13回 5/29-30	第13回 9/25-26	第54回 熊本県			
2000	第１回　全日本エンデュランス馬術大会2000 9/21-23（鹿追町ライディングパーク） 林加奈子（ベドウィン）	第47回		第35回 北海道春季馬術大会 6/17-18	第25回 7/17-19	北海道新緑馬術大会 5/27-28	第14回 9/30-10/1	第55回 富山県			
2001	第２回　全日本エンデュランス馬術大会2001 10（鹿追町ライディングパーク） 林加奈子（ベドウィン）	第48回 8/25-26		第36回 6/15-17	第26回 7/20-22	第15回 北海道新緑馬術大会 5/26-27	第15回 9/15-16	第56回 宮城県			
2002 午年	第３回　全日本エンデュランス馬術大会2002 （鹿追町ライディングパーク） 下田知美（ベドウィン）	第49回 8/23-25		第37回 6/14-16	第27回 7/19-21	第16回 5/17-19	第16回 北海道秋季馬術大会 9/27-29	第57回 高知県			

	競技会							国民体育大会		全日本馬術大会（含東日本）	全日本学生関連
	全日本エンデュランス	北海道馬術大会兼国民体育大会馬術競技北海道地区予選	北海道団体馬術選手権大会	北海道自馬馬術大会	日本馬術連盟公認北海道地区馬術大会	北海道馬場馬術大会	北海道障害馬術選手権大会				
2003	第4回　全日本エンデュランス馬術大会2003 9/27-28（鹿追町ライディングパーク） 守山春菜（ベドウィン）	第50回 8/22-24		第38回 6/13-15	第28回 7/18-20	第17回 5/23-25	第17回 9/20-21	第58回 静岡県			
2004	全日本エンデュランス馬術大会2004 9/25-26（鹿追町ライディングパーク）	第51回		第39回 6/19-20	第29回 7/16-18	第18回 5/21-23	第18回 9/17-19	第59回 埼玉県	少年スピードアンドハンディネス競技 石谷亮（柏嶺） 少年トップスコア競技 佐藤信乃介（アーレーストローク）		
2005	全日本エンデュランス馬術大会2005 9/24-25（鹿追町ライディングパーク）	第52回		第40回 6/18-19	第30回 7/15-17	第19回 5/20-22	第19回 9/16-18	第60回 岡山県	少年団体障害飛越競技 小林稔・若松勇太・佐藤信乃介（ナーシャルバトル）		
2006	第7回　全日本エンデュランス馬術大会2006 9/23-24（鹿追町ライディングパーク）	第53回 8/12-13		第41回 6/10-11	第31回 6/30-7/2	第20回 5/19-21	第20回 9/16-18	第61回 兵庫県			
2007	第8回　全日本エンデュランス馬術大会2007 9/21-23（鹿追町ライディングパーク）	第54回 8/11-12		第42回 6/15-17	第32回 7/13-15	第21回 5/19-20	第21回 10/12-14	第62回 秋田県	少年標準障害飛越競技　半田佑介（柏嶺）		
2008 平成20年		第55回 8/8-10		第43回 6/13-15	第33回 ノーザンカップjumping2008兼 7/18-20	第22回 5/16-18	第22回 9/13-14	第63回 大分県	少年標準障害飛越競技 広瀬祥吾（トーマス・ジェファーソン）		

2009	第10回　全日本エンデュランス馬術大会2009 9/20-22（鹿追町ライディングパーク）	第56回 8/7-9		第44回 6/12-14	第34回 7/18-19	第23回 5/16-17	第23回 9/11-13	第64回 新潟県			
2010	第11回　全日本エンデュランス馬術大会2010 2010秋季北海道エンデュランス馬術大会 9/10-12（鹿追町ライディングパーク）	第57回 8/20-22		第45回 6/18-20	第35回 ノーザンカップjumping2010兼 7/23-25	第24回 5/22-23	第24回 9/17-19	第65回 千葉県 ７位	成年男子スピードアンドハンディネス競技 大林利弘（トーマス・ジェファーソン）		
2011	第12回全日本エンデュランス馬術大会2011　9/23-25（鹿追町ライディングパーク）	第58回 8/19-21		第46回 6/24-26	第36回 ノーザンカップ2011兼 7/22-24	第25回 5/21-22	第25回 9/16-18	第66回 山口県 11位			
2012	第13回全日本エンデュランス馬術大会2012　9/21-23（鹿追町ライディングパーク）	第59回 7/27-29		第47回 6/15-17	第37回 ノーザンホースフェスティバル2012兼 8/9-12	第26回 5/18-20	第26回 9/14-16	第67回 岐阜県 11位			
2013		第60回 7/19-21		第48回 6/21-23	第38回 ノーザンホースフェスティバル2013 北海道乗馬連盟60周年記念大会兼 8/8-11	第27回 5/17-19	第27回 9/20-22	第68回 東京都 ７位			

国民体育大会馬術競技成績一覧

平成６年 第49回愛知　わかしゃち国体

	順位	選手	馬名
成年Ⅰ部			
標準障碍飛越	4	吉田　俊介	
トップスコア	3	吉田　俊介	
団体障碍飛越	7		
成年Ⅱ部			
馬場馬術	5	島　和弘	
二段階障碍飛越	6	伊東　徳利	
少年			
馬場馬術Part１	7	大谷　剛	
スピードアンドハンディネス	5	天羽　真崇	
リレー	5		
二段階障碍飛越	6	天羽　真崇	
団体障碍飛越	4		

平成７年 第50回福島　ふくしま国体

原町市馬事公苑
10/15-19

	順位	選手	馬名
第１競技			
成年Ⅱ部　国体成年Ⅱ部馬場馬術競技	8	千島　俊司	パブリック
第７競技			
少年　トップスコアー競技	1	早田　明	オレンジカウンティ
第８競技			
成年Ⅰ部　ダービー競技	8	原　啓二	アンナクイーン
第９競技			
成年Ⅱ部　ダービー競技	7	高野　文彰	アンナクイーン
第10競技			
少年　ダービー競技	7	早田　明	オレンジカウンティ
第12競技			
成年Ⅰ部　スピードアンドハンディネス競技	5	吉田　俊介	キオザドウフォトネ
第14競技			
成年Ⅱ部　団体障碍飛越競技	5	千島　俊司 武笠　昭男 高野　文彰	
第15競技			
成年Ⅰ部　総合馬術競技	6	久保田　学	アブサン
第21競技			
少年　標準障碍飛越競技	8	天羽　真崇	アルベルティー
第23競技			
少年　リレー競技	4	早田　満 早田　明	シャレイ オレンジカウンティ
第24競技			
成年Ⅰ部　六段障碍飛越競技	7	島　和弘	ワンフォーザロード
総合成績	**7**		**42.5**

平成８年 第51回広島　ひろしま国体

サンワの森馬術競技場
10/13-17

第26回アトランタオリンピック　障碍飛越競技　白井　岳
総合馬術競技　布施　勝

	順位	選手	馬名
第３競技 少年　二段階障害飛越競技	2	早田　未来	オレンジカウンティ
第４競技 成年男子　団体障害飛越競技	5		
第８競技 少年　馬場馬術競技（国体少年馬場）	6	下屋敷　純一	ハミングダンス
第13競技 成年　総合馬術競技	7	長谷川　崇	メイクマイディ
第16競技 成年男子　標準障害飛越競技	7	吉田　俊介	メリディアン
第17競技 成年女子　標準障害飛越競技	1	村上　陽子	オレンジカウンティ
第18競技 少年　ダービー競技	2	早田　明	トムソーヤ
第22競技 少年　馬場馬術競技（ジュニア）	7	下屋敷　純一	ハミングダンス

平成９年 第52回大阪　なみはや国体

和泉市・杉谷馬事公苑および特設野外競技場
10/26-30

	順位	選手	馬名
第２競技 成年男子　団体障害飛越競技	6		
第６競技 少年　トップスコア―競技	8	天羽　美穂	ガデュセ
第８競技 少年　ダービー競技	1	早田　未来	オレンジカウンティ
第９競技 成年女子　ダービー競技	5	田中　暁子	アプシンベル
第16競技 成年男子　標準障害飛越競技	4	島　和弘	ワンフォーザロード
第17競技 少年　標準障害飛越競技	5	天羽　美穂	ガデュセ
第23競技 成年Ｉ部　五段障害飛越競技	4	島　和弘	ワンフォーザロード

平成10年 天皇在位10周年記念 第53回神奈川 かながわ・ゆめ国体

和泉市・杉谷馬事公苑および特設野外競技場
10/26-30

	順位	選手	馬名
第2競技 成年男子　団体障害飛越競技	3	川北・島	
第3競技 少年　団体障害飛越	5	細矢・馬渕	
第5競技 少年　二段階飛越障害飛越	6	天羽　美穂	ガデュセ
第8競技 少年　ダービー	7	梅村　泰行	メドウクリーク
第9競技 成年女子　ダービー	2	緒方　美絵	メドウクリーク
第10競技 少年　トップスコア	2	馬渕　奈央人	テキーラ
第13競技 少年　スピードアンドハンディネス	6	天羽　美穂	ガデュセ
第20競技 成年女子　馬場馬術Ⅰ　自由演技セントジョージ賞典	7	吉田　和美	アルマナック

平成11年 第54回熊本　くまもと未来国体

10/22-

	順位	選手	馬名
第3競技 成年男子　トップスコア	8	早田　明	ジョニー
第4競技 成年女子　二段階飛越障害飛越	4	海川　暁子	トカチアトラス
第9競技 少年　第3課目馬場馬術	5	友坂　佑斗	キョウワノーザン
第10競技 成年男子　ダービー	6	川北　恭司	プロクレイマー
第12競技 成年女子　ダービー	8	海川　暁子	アブサン
第15競技 成年男子　総合馬術競技	6	久保田　学	アブサン
第16競技 成年男子　標準障害飛越	8	島　和弘	ワンフォーザロード
第23競技 成年男子　五段障害飛越	5	島　和弘	ワンフォーザロード

平成12年 第55回富山　2000年とやま国体

10/13-17

第27回シドニーオリンピック　障碍飛越競技　白井　岳
総合馬術競技　布施　勝

	順位	選手	馬名
第 5 競技 少年　団体障害飛越	7		
第 9 競技 成年女子　ダービー	6	藤田　あけみ	テキーラ
第10競技 少年　ダービー	4	梁川　正重	アブサン
第15競技 成年男子　総合馬術競技	8	久保田　学	アブサン
第24競技 成年男子　五段障害飛越	2	島　和弘	サントロペッツ

平成13年 第56回宮城　新世紀・みやぎ国体

	順位	選手	馬名
第 3 競技 少年　団体障害飛越	8		
第 5 競技 少年　アジア大会記念団体課目馬場馬術競技	5	林　伸吾	コバルト
第16競技 成年女子　ダービー	7	清水　るな	ユーフォー

平成14年 第57回高知　よさこい高知国体

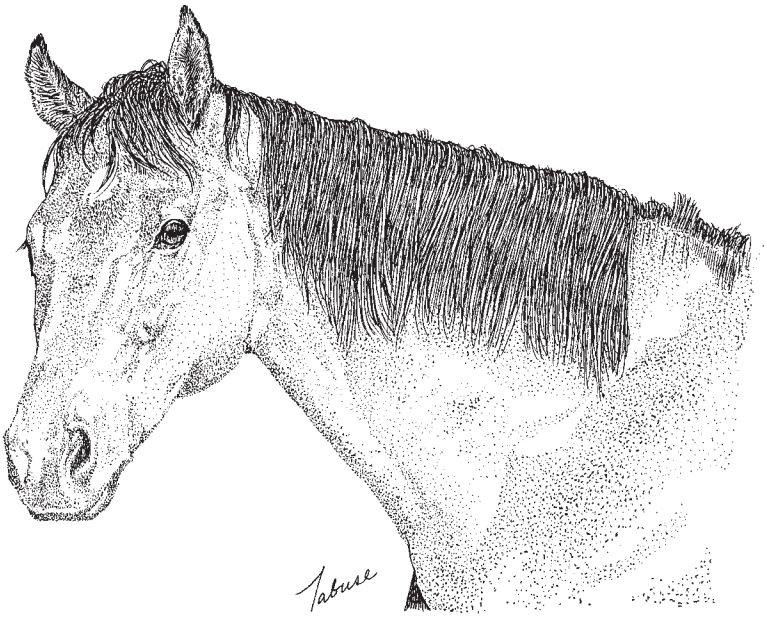
高知県立実践農業大学校窪川校特設馬術競技場
10/27-31

	順位	選手	馬名
第1競技			
成年男子　セントジョージ賞典馬場馬術競技	不参加		
第2競技			
成年女子　二段階障害飛越競技	8	下田　知実	トカチアトラス
第3競技			
少年　団体障害飛越競技	4	橋本　英之	トカチアトラス
		岬　隼人	
		小野寺　康起	
第4競技			
少年　スピートアンドハンディネス競技	失権	林　伸吾	パブリック
第5競技			
少年　ジュニア馬場馬術競技	4	桝澤　明日香	グラニット
第6競技			
成年男子　ダービー競技	7	柴田　卓	柏嶺
第7競技			
成年女子　セントジョージ賞典馬場馬術競技	12	村上　陽子	グラニット
第8競技			
少年　ダービー競技	6	橋本　英之	柏嶺
第9競技			
成年男子　トップスコア競技	18	畠山　朋弘	柏嵐
第10競技			
成年女子　標準障害飛越競技	18	寺下　由起	ユーフォー
第11競技			
少年　二段階障害飛越競技	20	岬　隼人	トカチアトラス
第12競技			
成年男子　国体総合馬術競技	7	大林　利弘	ダイナミックバード
第13競技			
少年　標準障害飛越競技	2	橋本　英之	柏嶺
第14競技			
少年　リレー競技	失権	岬　隼人	柏嶺
		林　伸吾	パブリック
第15競技			
成年男子　スピートアンドハンディネス競技	7	大林　利弘	ダイナミックバード
第16競技			
成年女子　ダービー競技	10	寺下　由起	ユーフォー
第17競技			
少年　自由演技ジュニア馬場馬術競技	7	桝澤　明日香	グラニット
第18競技			
成年男子　自由演技馬場馬術競技	不参加		
第19競技			
成年男子　標準障害飛越競技	16	畠山　朋弘	柏嵐
第20競技			
成年女子　トップスコア競技	13	下田　知実	トカチアトラス
第21競技			
少年　トップスコア競技	24	林　伸吾	柏嵐
第22競技			
成年女子　自由演技馬場馬術競技	11	村上　陽子	グラニット
第23競技			
成年男子　六段障害飛越競技	4	柴田　卓	柏嶺

平成15年 第58回静岡　New!!わかふじ国体

御殿場馬術競技場

	順位	選手	馬名
第５競技 成年男子　ダービー競技	7	広瀬　秋典	
第15競技 少年　リレー競技	7	山根 伊藤	トカチアトラス アイムシュアー
第16競技 少年　標準障害飛越競技	3	山根　健太郎	柏嶺
第17競技 成年男子　スピードアンドハンディネス競技	3	広瀬　秋典	柏嶺
第19競技 成年男子　標準障害飛越競技	8	柴田　卓	柏嵐
第23競技 成年男子　六段障害飛越競技	4	佐々木　美光	サン・トロペッツ
第21競技			



平成16年 第59回埼玉 彩の国まごころ国体

江南特設馬術競技場
10/24-28

	順　位	選　手	馬　　名
第１競技 成年男子　セントジョージ賞典馬場馬術競技	不 参 加		
第２競技 少年　ジュニアライダー馬場馬術競技	不 参 加		
第３競技 成年女子　二段階障害飛越競技	8	川畑　由夏	リーダーズ
第４競技 少年　団体障害飛越競技	3	佐々木　淳史 原田　夏樹 木村　年宏	ニケスピリット
第５競技 成年男子　ダービー競技	2	広瀬　秋典	柏嶺
第６競技 少年　二段階障害飛越競技	18	佐藤　信乃介	アーレーストローク
第７競技 成年女子　セントジョージ賞典馬場馬術競技	不 参 加		
第８競技 少年　ダービー競技	16	木村　年宏	ジャック
第９競技 成年男子　トップスコア競技	2	梁川　正重	リーダーズ
第10競技 少年　スピートアンドハンディネス競技	1	石谷　亮	柏嶺
第11競技 成年女子　標準障害飛越競技	22	緒方　美絵	ジャック
第12競技 成年男子　国体総合馬術競技	出場辞退	川北　恭司	ワトキンス
第13競技 成年男子　自由演技馬場馬術競技	不 参 加		
第14競技 成年女子　トップスコア競技	24	川畑　由夏	リーダーズ
第15競技 少年　リレー競技	失　　権	石谷　亮 佐藤　信乃介	柏嶺 アーレーストローク
第16競技 成年男子　スピートアンドハンディネス競技	13	川北　恭司	ワトキンス
第17競技 少年　標準障害飛越競技	19	木村　年宏	ジャック
第18競技 少年　自由演技ジュニア馬場馬術競技	不 参 加		
第19競技 成年男子　標準障害飛越競技	7	広瀬　秋典	柏嶺
第20競技 成年女子　ダービー競技	8	緒方　美絵	ジャック
第21競技 成年女子　自由演技馬場馬術競技	不 参 加		
第22競技 少年　トップスコア競技	1	佐藤　信乃介	アーレーストローク
第23競技 成年男子　六段障害飛越競技	5	梁川　正重	リーダーズ

平成17年 第60回岡山 晴の国おかやま国体

蒜山高原ライディングパーク
10/23-37

	順位	選手	馬名
第1競技			
成年男子　セントジョージ賞典馬場馬術競技	13	間　裕	ワンフォーザロード
第2競技			
少年　ジュニアライダー馬場馬術競技	13	鈴木　亜依	ワンフォーザロード
第3競技			
成年女子　二段階障害飛越競技	不参加		
第4競技			
少年　団体障害飛越競技	1	小林　忍 若松　勇太	
第5競技			
少年　二段階障害飛越競技	不参加		
第6競技			
成年女子　ダービー競技	不参加		
第7競技			
成年女子　セントジョージ賞典馬場馬術競技	不参加		
第8競技			
少年　ダービー競技	不参加		
第9競技			
成年男子　トップスコア競技	6	川北　恭司	ワトキンス
第10競技			
少年　スピートアンドハンディネス競技	15	小林　忍	ナーシャルバトル
第11競技			
成年男子　標準障害飛越競技	3	森　裕太	柏嶺
第12競技			
成年男子　国体総合馬術競技	10	加藤　結	ナーシャルバトル
第13競技			
成年男子　自由演技馬場馬術競技	11	間　裕	ワンフォーザロード
第14競技			
成年女子　トップスコア競技	20	阿部　はるか	メドウクリーク
第15競技			
少年　リレー競技	9	小林　忍 岡本	ナーシャルバトル 柏嶺
第16競技			
成年男子　スピートアンドハンディネス競技	8	川北　恭司	ワトキンス
第17競技			
少年　標準障害飛越競技	13	岡本　翔子	柏嶺
第18競技			
少年　自由演技ジュニア馬場馬術競技	11	鈴木　亜依	ワンフォーザロード
第19競技			
成年男子　ダービー競技	10	森　裕太	柏嶺
第20競技			
成年女子　標準障害飛越競技	17	伊藤　祥子	ユウバク
第21競技			
成年女子　自由演技馬場馬術競技	不参加		
第22競技			
少年　トップスコア競技	26	佐藤　信乃介	アーレーストローク
第23競技			
成年男子　六段障害飛越競技	15	加藤　結	柏嶺

平成18年 第61回兵庫 のじぎく兵庫国体

三木ホースランドパーク
10/6-10

	順位	選手	馬名
第1競技 成年男子　セントジョージ賞典馬場馬術競技	7	斉藤　達哉	テンマクイン
第2競技 少年　ジュニアライダー馬場馬術競技	9	木林　里乃	テンマクイン
第3競技 成年女子　二段階障害飛越競技	17	下田　知実	オリオンⅠ
第4競技 少年　団体障害飛越競技	7	小林　忍 若松　勇太 菊池　和也	ナーシャルバトル
第5競技 少年　二段階障害飛越競技	20	菊池　和也	ミスターブルー
第6競技 成年女子　ダービー競技	10	阿部　はるか	柏嶺
第7競技 成年女子　セントジョージ賞典馬場馬術競技	11	永見　弥生	テンマクイン
第8競技 少年　ダービー競技	10	若松　勇太	柏嶺
第9競技 成年男子　トップスコア競技	4	楠木　貴成	ワトキンス
第10競技 少年　スピートアンドハンディネス競技	11	小野寺　竜之介	オリオンⅠ
第11競技 成年男子　標準障害飛越競技	16	松田　翔平	柏嶺
第12競技 成年男子　国体総合馬術競技	3	加藤　結	ナーシャルバトル
第13競技 成年男子　自由演技馬場馬術競技	9	斉藤　達哉	テンマクイン
第14競技 成年女子　トップスコア競技	17	下田　知実	オリオンⅠ
第15競技 少年　リレー競技	11	菊池　和也 小野寺　竜之介	ミスターブルー オリオンⅠ
第16競技 成年男子　スピートアンドハンディネス競技	17	森　裕太	柏嶺
第17競技 少年　標準障害飛越競技	17	若松　勇太	柏嶺
第18競技 少年　自由演技ジュニア馬場馬術競技	失　権	木林　里乃	テンマクイン
第19競技 成年男子　ダービー競技	7	森　裕太	柏嶺
第20競技 成年女子　標準障害飛越競技	20	阿部　はるか	ワトキンス
第21競技 成年女子　自由演技馬場馬術競技	不参加		
第22競技 少年　トップスコア競技	7	小野寺　竜之介	柏嶺
第23競技 成年男子　六段障害飛越競技	16	松田　翔平	柏嵐

平成19年 第62回秋田 秋田わか杉国体

秋田県かくのだて特設馬術競技場
10/5-9

	順位	選手	馬名
第1競技 成年男子　馬場馬術競技	棄権	斉藤　達哉	テンマクイン
第2競技 少年　ジュニアライダー馬場馬術競技	欠場	土井　里美	テンマクイン
第3競技 成年女子　二段階障害飛越競技	失権	阿部　はるか	ラインハート
第4競技 少年　団体障害飛越競技	1回戦 敗退	高樽 小師	
第5競技 少年　二段階障害飛越競技	2段階に進めず	小師　史也	柏爵
第6競技 成年女子　ダービー競技	16	神田　彩子	柏爵
第7競技 成年女子　馬場馬術競技	不参加		
第8競技 少年　ダービー競技	失権	高樽　優也	柏爵
第9競技 成年男子　トップスコア競技	13	楠木　貴成	ワトキンス
第10競技 少年　スピートアンドハンディネス競技	失権	関口　はる香	ダンデライオン
第11競技 成年男子　標準障害飛越競技	9	小笠原　佳大	柏嶺
第12競技 成年男子　国体総合馬術競技	不参加		
第13競技 成年男子　自由演技馬場馬術競技	欠場	斉藤　達哉	テンマクイン
第14競技 成年女子　トップスコア競技	20	西本　星良	タイナータム
第15競技 少年　リレー競技	失権	高樽　優也 関口　はる香	ラインハート ダンデライオン
第16競技 成年男子　スピートアンドハンディネス競技	失権	畠山　朋弘	ダンデライオン
第17競技 少年　標準障害飛越競技	1	半田　佑介	柏嶺
第18競技 少年　自由演技ジュニア馬場馬術競技	以下の競技馬インフルエンザで中止		
第19競技 成年男子　ダービー競技			
第20競技 成年女子　標準障害飛越競技			
第21競技 成年女子　自由演技馬場馬術競技			
第22競技 少年　トップスコア競技			
第23競技 成年男子　六段障害飛越競技			

平成20年 第63回大分 チャレンジ！おおいた国体

豊後大野市三重総合グラウンド特設馬術場
9/28-10/2

	順位	選手	馬名
第1競技			
成年男子　セントジョージ賞典馬場馬術競技	7	兒玉　幹生	テンマクイン
第2競技			
少年　ジュニアライダー馬場馬術競技	4	佐藤　舞	テンマクイン
第3競技			
成年女子　二段階障害飛越競技	18	伊藤　祥子	アラビアンリスキー
第4競技			
少年　団体障害飛越競技	6	串間　孝敏 広瀬　祥吾	
第5競技			
少年　二段階障害飛越競技	10	会田　麻央	ビットオブラック
第6競技			
成年女子　ダービー競技	失権	伊藤　祥子	トーマス・ジェファーソン
第7競技			
成年女子　セントジョージ賞典馬場馬術競技	10	馬場　梢	テンマクイン
第8競技			
少年　ダービー競技	15	串間　孝敏	タイナータム
第9競技			
成年男子　トップスコア競技	5	楠木　貴成	ジュテイム
第10競技			
少年　スピートアンドハンディネス競技	5	串間　孝敏	ワトキンス
第11競技			
成年男子　標準障害飛越競技	失権	楠木　貴成	ジュテイム
第12競技			
成年男子　国体総合馬術競技	6	大林　利弘	トーマス・ジェファーソン
第13競技			
成年男子　自由演技馬場馬術競技	9	斉藤　達哉	テンマクイン
第14競技			
成年女子　トップスコア競技	欠場	神田　彩子	ワトキンス
第15競技			
少年　リレー競技	14	広瀬　祥吾 会田　麻央	アラビアンリスキー ビットオブラック
第16競技			
成年男子　スピートアンドハンディネス競技	12	大林　利弘	トーマス・ジェファーソン
第17競技			
少年　標準障害飛越競技	1	広瀬　祥吾	トーマス・ジェファーソン
第18競技			
少年　自由演技ジュニア馬場馬術競技	不参加		
第19競技			
成年男子　ダービー競技	11	百瀬　利宏	タイナータム
第20競技			
成年女子　標準障害飛越競技	欠場	神田　彩子	ワトキンス
第21競技			
成年女子　自由演技馬場馬術競技	不参加		
第22競技			
少年　トップスコア競技	19	会田　麻央	ビットオブラック
第23競技			
成年男子　六段障害飛越競技	18	百瀬　利宏	タイナータム

平成21年 第64回新潟 トキめき新潟国体

三条市特設馬術競技場
10/2-6

	順位	選手	馬名
第1競技 成年男子　セントジョージ賞典馬場馬術競技	9	兒玉　幹生	テンマクイン
第2競技 少年　ジュニアライダー馬場馬術競技	5	根本　春香	テンマクイン
第3競技 成年女子　二段階障害飛越競技	17	伊藤　祥子	トーマス・ジェファーソン
第4競技 少年　団体障害飛越競技	4	中脇　光 中垣　彩弥加 根本　春香	タイナータム
第5競技 少年　二段階障害飛越競技	失　権	中垣　彩弥加	オリオンⅠ
第6競技 成年女子　ダービー競技	11	伊藤　祥子	タイナータム
第7競技 成年女子　馬場馬術競技	不参加		
第8競技 少年　ダービー競技	14	加藤　天明	コルト
第9競技 成年男子　トップスコア競技	16	楠木　貴成	ジュテイム
第10競技 少年　スピートアンドハンディネス競技	16	加藤　天明	コルト
第11競技 成年男子　標準障害飛越競技	3	大林　利弘	トーマス・ジェファーソン
第12競技 成年男子　国体総合馬術競技	7	大林　利弘	トーマス・ジェファーソン
第13競技 成年男子　自由演技馬場馬術競技	10	兒玉　幹生	テンマクイン
第14競技 成年女子　トップスコア競技	18	藤田　あけみ	オリオンⅠ
第15競技 少年　リレー競技	13	加藤　天明 中垣　彩弥加	コルト ストレイラルホーク
第16競技 成年男子　スピートアンドハンディネス競技	17	楠木　貴成	ジュテイム
第17競技 少年　標準障害飛越競技	4	中脇　光	トーマス・ジェファーソン
第18競技 少年　自由演技ジュニアライダー馬場馬術競技	9	根本　春香	テンマクイン
第19競技 成年男子　ダービー競技	15	百瀬　利宏	タイナータム
第20競技 成年女子　標準障害飛越競技	失　権	藤田　あけみ	オリオンⅠ
第21競技 成年女子　自由演技馬場馬術競技	不参加		
第22競技 少年　トップスコア競技	3	中脇　光	トーマス・ジェファーソン
第23競技 成年男子　六段障害飛越競技	9	百瀬　利宏	タイナータム

平成22年 第65回千葉 ゆめ半島千葉国体

勝浦市　ブルーベリーヒル勝浦特設馬術会場
9/30-10/4

	順位	選手	馬名
第1競技 成年男子　セントジョージ賞典馬場馬術競技	8	清水　靖士	テンマクイン
第2競技 少年　ジュニアライダー馬場馬術競技	6	吉澤　維花	テンマクイン
第3競技 成年女子　二段階障害飛越競技	8	白石　由起子	アリストキャッツ
第4競技 少年　団体障害飛越競技	6	坂東　駿一 横山　瞬	
第5競技 少年　二段階障害飛越競技	18	坂東　駿一	コルト
第6競技 成年女子　ダービー競技	4	宮永　美寿津	トーマス・ジェファーソン
第7競技 成年女子　セントジョージ賞典馬場馬術競技	10	稲原　智子	テンマクイン
第8競技 少年　ダービー競技	7	横山　瞬	ケンデリーワシントン
第9競技 成年男子　トップスコア競技	10	金沢　宗禎	コルト
第10競技 成年男子　スピートアンドハンディネス競技	1	大林　利弘	トーマス・ジェファーソン
第11競技 成年男子　標準障害飛越競技	13	大林　利弘	トーマス・ジェファーソン
第12競技 成年男子　国体総合馬術競技	9	楠木　貴成	ケンデリーワシントン
第13競技 成年男子　自由演技馬場馬術競技	9	兒玉　幹生	テンマクイン
第14競技 成年女子　トップスコア競技	11	白石　由起子	アリストキャッツ
第15競技 少年　リレー競技	9	坂東　駿一 加藤	ウィンドライアン ミヤノリュウオー
第16競技 少年　スピートアンドハンディネス競技	2	加藤　天明	アリストキャッツ
第17競技 少年　標準障害飛越競技	9	加藤　天明	コルト
第18競技 少年　自由演技ジュニアライダー馬場馬術競技	不参加		
第19競技 成年男子　ダービー競技	13	楠木　貴成	ケンデリーワシントン
第20競技 成年女子　標準障害飛越競技	20	宮永　美寿津	ミヤノリュウオー
第21競技 成年女子　自由演技馬場馬術競技	不参加		
第22競技 少年　トップスコア競技	4	横山　瞬	トーマス・ジェファーソン
第23競技 成年男子　六段障害飛越競技	9	金沢　宗禎	コルト

平成23年 第66回山口 おいでませ山口国体

川棚乗馬クラブ
10/2-6

	順位	選手	馬名
第1競技			
成年男子　セントジョージ賞典馬場馬術競技	不参加		
第2競技			
少年　ジュニアライダー馬場馬術競技	不参加		
第3競技			
成年女子　二段階障害飛越競技	6	白石　由起子	アリストキャッツ
第4競技			
少年　団体障害飛越競技	1回戦	高木　雄大	
	敗退	中垣　彩也加	
第5競技			
少年　二段階障害飛越競技	失権	細川　映里香	ウィンドライアン
第6競技			
成年女子　ダービー競技	14	鈴木　裕美	テノリオ
第7競技			
成年女子　馬場馬術競技	不参加		
第8競技			
少年　ダービー競技	16	高木　雄大	テノリオ
第9競技			
成年女子　トップスコア競技	5	白石　由起子	アリストキャッツ
第10競技			
少年　スピートアンドハンディネス競技	失権	加藤　天明	アリストキャッツ
第11競技			
成年男子　標準障害飛越競技	5	上田　和昇	トーマス・ジェファーソン
第12競技			
成年男子　国体総合馬術競技	3	楠木　貴成	ケンデリーワシントン
第13競技			
成年男子　自由演技馬場馬術競技	不参加		
第14競技			
成年男子　トップスコア競技	16	上田　和昇	トーマス・ジェファーソン
第15競技			
少年　リレー競技	17	細川　映里香	ウィンドライアン
		加藤　天明	コルト
第16競技			ウーター
成年男子　スピートアンドハンディネス競技	12	広瀬　祥吾	
第17競技			
少年　標準障害飛越競技	失権	加藤　天明	コルト
第18競技			
少年　自由演技ジュニアライダー馬場馬術競技	不参加		
第19競技			
成年男子　ダービー競技	5	楠木　貴成	ケンデリーワシントン
第20競技			
成年女子　標準障害飛越競技	3	宮永　美寿津	トーマス・ジェファーソン
第21競技			
成年女子　自由演技馬場馬術競技	不参加		
第22競技			
少年　トップスコア競技	7	細川　映里香	ウーター
第23競技			
成年男子　六段障害飛越競技	欠場	金沢　宗禎	コルト

平成24年 第67回岐阜 ☆ぎふ清流国体

山県市特設馬術競技場
9/30-10/4

	順位	選手	馬名
第1競技			
成年男子　馬場馬術競技	2	林　伸吾	ヴァクリボリィ
第2競技			
少年　馬場馬術競技	不参加		
第3競技			
成年女子　二段階障害飛越競技	23	宮永　美寿津	サニーＨＶ
第4競技			
少年　スピートアンドハンディネス競技	16	金沢　宗馬	ダーリン・ダーリン
第5競技			
成年男子　トップスコア競技	10	上田　和昇	トーマス・ジェファーソン
第6競技			
少年　ダービー競技	失権	細川　映里香	ウィンドライアン
第7競技			
成年女子　馬場馬術競技	5	米本　晃子	ヴァクリボリィ
第8競技			
成年男子　国体総合馬術競技	4	楠木　貴成	ケンデリーワシントン
第9競技			
少年　標準障害飛越競技	12	髙橋　駿	トーマス・ジェファーソン
第10競技			
成年男子　スピートアンドハンディネス競技	12	梁川　正重	ダーリン・ダーリン
第11競技			
少年　団体障害飛越競技	5	金沢　宗馬 木村　拓也	
第12競技			
成年女子　ダービー競技	失権	関口　美那	ケンデリーワシントン
第13競技			
成年男子　自由演技馬場馬術競技	不参加		
第14競技			
少年　二段階障害飛越競技	失権	細川　映里香	サニーＨＶ
第15競技			
成年女子　標準障害飛越競技	失権	白石　由起子	アリストキャッツ
第16競技			
少年　リレー競技	失権	金沢　宗馬 細川　映里香	ウィンドライアン サニーＨＶ
第17競技			
少年　自由演技馬場馬術競技	不参加		
第18競技			
成年男子　ダービー競技	12	楠木　貴成	ケンデリーワシントン
第19競技			
少年　トップスコア競技	8	髙橋　駿	ダーリン・ダーリン
第20競技			
成年男子　標準障害飛越競技	5	上田　和昇	トーマス・ジェファーソン
第21競技			
成年女子　自由演技馬場馬術競技	6	米本　晃子	ヴァクリボリィ
第22競技			
成年女子　トップスコア競技	12	白石　由起子	アリストキャッツ
第23競技			
成年男子　六段障害飛越競技	16	梁川　正重	ダーリン・ダーリン

平成25年 第68回東京 スポーツ祭東京2013国体

あきるの市特設馬術競技場
10/3-7

	順位	選手	馬名
第1競技			
成年男子　馬場馬術競技	3	林　伸吾	ヴァクリボリィ
第2競技			
少年　馬場馬術競技	不参加		
第3競技			
成年女子　二段階障害飛越競技	9	中垣　彩也加	シルバーデューク
第4競技			
少年　スピートアンドハンディネス競技	13	広瀬　楓	ウーター
第5競技			
成年男子　トップスコア競技	15	梁川　正重	ケリード・ケリーダ
第6競技			
少年　ダービー競技	失権	広瀬　楓	ホワイトマーブル
第7競技			
成年女子　馬場馬術競技	7	米本　晃子	ヴァクリボリィ
第8競技			
成年男子　国体総合馬術競技	5	楠木　貴成	ケンデリーワシントン
第9競技			
成年女子　ダービー競技	11	宮永　美寿津	ケンデリーワシントン
第10競技			
少年　標準障害飛越競技	16	斉藤　景太	シルバーデューク
第11競技			
成年男子　スピートアンドハンディネス競技	5	広瀬　祥吾	ウーター
第12競技			
少年　団体障害飛越競技	1回戦	安田　慧人	ディライト
	敗退	斉藤　景太	シルバーデューク
第13競技			
成年男子　自由演技馬場馬術競技	2	林　伸吾	ヴァクリボリィ
第14競技			
少年　二段階障害飛越競技	失権	中村　知世	ホワイトマーブル
第15競技			
成年女子　標準障害飛越競技	12	宮永　美寿津	サニーＨＶ
第16競技			
少年　リレー競技	17	斉藤　景太	ケリード・ケリーダ
		広瀬　楓	ホワイトマーブル
第17競技			
少年　自由演技馬場馬術競技	不参加		
第18競技			
成年男子　標準障害飛越競技	5	広瀬　祥吾	ウーター
第19競技			
成年男子　ダービー競技	6	楠木　貴成	ケンデリーワシントン
第20競技			
成年女子　トップスコア競技	5	中垣　彩也加	サニーＨＶ
第21競技			
成年女子　自由演技馬場馬術競技	11	米本　晃子	ヴァクリボリィ
第22競技			
少年　トップスコア競技	20	中村　知世	ホワイトマーブル
第23競技			
成年男子　六段障害飛越競技	14	間　裕	シルバーデューク
天皇杯	**7**		
皇后杯	**11**		

北海道乗馬連盟表彰受賞人馬一覧

1. 功労者賞

平成10年度：加藤　弘、村上　隆保、庄内　貞夫、宮田　四郎、岡本　勝美、高橋　賢一、半澤　道郎、岡田　光夫、小野　忠、三浦　勲、田上　恒男、新矢　國夫、宮浦　実、鎌田　正人、布浦　敏一、谷川　弘一郎

平成11年度：村上　捷治、石澤　秀雄、斉藤　善一、谷口　健一、中曽根　宏

平成12年度：山田　睦男、小川　石美

平成13年度：早田　光一郎、

平成14年度：岩城　弘侑、伊東　宏、竹之内　博康

平成15年度：白井　民平、長田　稔

平成16年度：小川　石美、鍋谷康次郎

平成17年度：八木　正巳

平成18年度：市川　瑞彦、喜多　和子

平成19年度：竹村　泰子、荻野　忠二

平成20年度：川久保　洋治、脇　章朗

平成21年度：岩坪　徹

平成22年度：故　大林　弘光

平成25年度：創立60周年記念
小野　忠、市川　瑞彦、三井　福成、広瀬　春行、川久保　洋治、久保田　学、松下　敏昭、山崎　善輝、故　半澤　道郎、故　村上　隆保、故　白井　民平、故　斉藤　善一、故　八木　正巳

2. 特別表彰

平成21年度：楠木　貴成　ケンデリーワシントン号、七野　友子　キム号

平成22年度：大林　利弘　トーマスジェファーソン号、荒井　亜紀　オセロⅠ号

3. 優秀指導者賞

平成10年度：高橋　留次郎、鎌田　正人、布施　佐知子、斉藤　武彦

平成11年度：白井　民平、川久保　洋治、久保田　学

平成12年度：広瀬　春行

平成13年度：宮竹　智明

平成14年度：米家　直子

4. 優秀選手賞

平成10年度：島　和弘、白井　岳、安永　大介

平成11年度：天羽　由希子、米家　直子、早田　明、高橋　秀行、島　和弘、城　憲司、
帯広畜産大学馬術部

平成12年度：林　加奈子、佐藤　友信、島　和弘、三浦　大輔、林　伸吾、梁川　正重

平成13年度：林　加奈子、富塚　雅子、林　伸吾、堀江　裕紀子、帯広農業高校馬術部

平成14年度：下田　知実、平間　圭介、橋本　英之、浦河高等学校馬術部

平成15年度：守山　春奈、岡野　栄子、山根　健太郎、広瀬　秋典

平成18年度：加藤　結、安永　大介

平成19年度：三浦　康暢、半田　佑介

5. 功労馬賞

平成10年度：チャレンジャーNO.1号、北燕号、ヤマノプライズ号、柏星号、
キタノコンゴウ号

平成11年度：Ｊ.Ｊ号、フローディワンダー号、北獅号、ダイヤモンドライフ号、
タラーブリッジ号

平成12年度：ベルレンケル号、テキーラ号、アブサン号、アンナクイーン号

平成13年度：キョウワノーザン号、トカチアトラス号、オレンジカウンティ号、
ワンフォーザロード号

平成15年度：柏嶺号

平成16年度：コパスパイス号、メイクマイディ号

平成20年度：故　柏嶺号

6. 優秀人馬賞

平成10年度：天羽　美穂　カデュセ号、島　和弘　ワンフォーザロード号、高野　文彰
テキーラ号、早田　明　ジョニー号、吉田　俊介　キオザドフォトネ号、
川北　恭司　プリンスファイター号、吉田　和美　ガッツア号、中村　亜希
コバルト号、高橋　仁美　マイベルギフト号、星野　良三
ミラクルショット号

平成11年度：島　和弘　ワンフォーザロード号、川北　恭司　プロクレイマー号、
天羽　由希子　シドラ号、C.Honeywill　ダークソング号、高橋　秀行
シンコウブラウン号、早田　満　オレンジカウンティ号、歌川　浩記
パブリック号、中村　亜希　コバルト号、高橋　仁美　マイベルギフト号、
星野　良三　ミラクルショット号

平成12年度：川北　恭司　ピッツア号、本間　慶徳　ワンフォーザロード号、早田　満
ジョニー号、島　和弘　サントロペッツ号、アダム・ゲルダート　シャイン号、

天羽　由希子　カデュセ号、中村　亜希　コバルト号、三浦　大輔
ワンフォーザロード号、開発　由美子　グレートオスカー号、前田　亜依子
メディアストーム号

平成13年度：輪島　秀武　プリンスファイター号、早田　満　ジョニー号、林　伸吾
ミスドロシー号、村上　陽子　ミスドロシー号、堀江　裕紀子
シンコウブラウン号、P.Honeywill　オレンジカウンティ号、C.Honeywill
カルメン号、吉田　和美　アルマナック号、中村　亜希　コバルト号

平成14年度：大林　利弘　ダイナミックバード号・リードオブリーダー号、犬伏　健太
トラディション号、川北　恭司　プロクレイマー号・ワトキンス号、林　伸伍
シルバーバーチ号・パブリック号、高野　文彰　テキーラ号、柴田　卓
柏嶺号、中村　亜季　コバルト号、桝澤　明日香　グラニット号

平成15年度：

馬場馬術部門

百瀬　利宏　ノスタルギ号、中村　亜希　コバルト号

障害馬術部門

広瀬　秋典　柏嶺号、白井　岳　ヤング号、柴田　卓　柏嵐号、佐々木　美光
サントロペッツ号、楠木　貴成　ワトキンス号、草薙　裕　パインツァ号、
下田　知実　トカチアトラス号、阿部　はるか　プリンスファイター号

エンデュランス部門

守山　春奈　ベドウイン号

平成16年度：

馬場馬術部門

間　祐　ワンフォーザロード号、百瀬　利宏　ノスタルギ号、中村　亜希
コバルト号

障害馬術部門

広瀬　秋典　柏嶺号、川北　恭司　ワトキンス号、梁川　正重　リーダーズ号、
楠木　貴成　ダイナダイナ号、木村　年宏　ジャック号、佐藤　信乃介
アーレー・ストローク号、阿部　はるか　メドウクリーク号

平成17年度：

馬場馬術部門

永見　弥生　クリア号、百瀬　利宏　トーアボンバー号、間　裕
ワンフォーザロード号、

障害馬術部門

川北　恭司　ワトキンス号、伊藤　友則　ジャック号、楠木　貴成
ジュテイム号、森　祐太　柏嶺号、川上　深也　ユウバク号、加藤　結
ナーシャルバトル号、木本　裕子　ナオミ号

平成18年度：

馬場馬術部門

斉藤　達哉　テンマクイン号、百瀬　利宏　タイトホープ号、永見　弥生
クリア号

障害馬術部門

森　祐太　柏嶺号、菊地　和也　ミスターブルー号、　楠木　貴成
ワトキンス号、高野　文彰　ヴィクトワール号、阿部　はるか
メドウクリーク号・ダイナダイナ号、岩坪　徹　モンテヴェルデ号、
春田　大輔　マチカネウコン号

平成19年度：

馬場馬術部門

斉藤　達哉　テンマクイン号、桝澤　明日香　モスカ号

障害馬術部門

春田　大輔　マチカネウコン号、楠木　貴成　ワトキンス号、楠木　貴成
ジュテイム号、小笠原　佳大　柏嶺号、畠山　朋弘　ダンデライオン号、
百瀬　利宏　タイナータム号、岩坪　徹　モンテヴェルデ号、阿部　はるか
ラインハート号

平成20年度：

馬場馬術部門

兒玉　幹生　テンマクイン号、長田　明日香　モスカ号

障害馬術部門

楠木　貴成　ジュテイム号、大林　利弘　トーマスジェファーソン号、
伊藤　祥子　アラビアンリスキー号、高樽　優也　ブライトフライ号、
楠木　貴成　ワトキンス号、神田　彩子　伯爵号、会田　麻央
ピットオブラック号、岩坪　徹　モンテヴェルデ号

平成21年度：

馬場馬術部門

兒玉　幹生　テンマクイン号

障害馬術部門

楠木　貴成　ジュテイム号、大林　利弘　トーマスジェファーソン号、
百瀬　利宏　タイナータム号、春田　大輔　マチカネウコン号、加藤　天明
コルト号、藤田　あけみ　オリオンⅠ号、串間　孝敏　ブライトフライ号、
伊藤　祥子　ストレイラルホーク号

平成22年度：

馬場馬術部門

清水　靖士　テンマクイン号、稲原　智子　マックロウ号

障害馬術部門

大林　利弘　トーマスジェファーソン号、楠木　貴成
ケンデリーワシントン号、金沢　宗禎　コルト号、　白石　由紀子
アリストキャッツ号、楠木　貴成　ジュテイム号、小島　正志朗
オリオンⅠ号、野坂　拓史　テノリオ号

平成23年度：

馬場馬術部門

稲原　智子　マックロウ号

障害馬術部門

上田　和昇　トーマスジェファーソン号、楠木　貴成
ケンデリーワシントン号、金沢　宗禎　コルト号、白石　由起子
アリストキャット号、鈴木　裕美　テノリオ号、小島　正志朗　オリオンⅠ号、
広瀬　祥吾　ウーター号、田口　貴也　キャラメロG号、鈴木　亜依　咲良号

平成24年度：

馬場馬術部門

米本　晃子　ヴァクリボリィ号

障害馬術部門

上田　和昇　トーマスジェファーソン号、楠木　貴成
ケンデリーワシントン号、白石　由起子　アリストキャッツ号、平芳　悠人
北創号、梁川　正重　ダーリンダーリン号、中村　知世　キャラメロG号、
広瀬　祥吾　ウーター号、宮永　美寿津　サニーＨＶ号

平成25年度：

馬場馬術部門

米本　晃子　ヴァクリボリィ号、稲原　智子　マックロウ号

総合・障害馬術部門

楠木　貴成　ケンデリーワシントン号、広瀬　祥吾　ウーター号、
宮永　美寿津　サニーＨＶ号、広瀬　楓　ホワイトマーブル号、梁川　正重
ケリード・ケリーダ号、斉藤　景太　シルバーデューク号、中村　知世
キャラメロG号、楠木　貴成　フェアバンクスカーゴ号

公益社団法人日本馬術連盟表彰受賞人馬一覧

1. 名誉総裁表彰

平成18年度：《第15回アジア競技大会（2006/ドーハ）馬術競技に対する支援》
吉田　勝巳

2. 功 労 者 賞

昭和46年度：坂東　良一、石井　幸次郎
平成 6 年度：高橋　留次郎
平成 7 年度：岡田　光夫
平成 9 年度：加藤　弘
平成11年度：布浦　敏一、小野　忠
平成12年度：鎌田　正人、新矢　國夫
平成13年度：斉藤　善一
平成14年度：田上　恒男、三浦　勲
平成15年度：ノーザンホースパーク
平成17年度：（故）八木　正巳、（故）白井　民平

3. 功 労 馬 賞

平成 3 年度：モーリス号
平成 6 年度：柏星号、北皇子号
平成 9 年度：メイシャ号
平成11年度：シドラ号、チャレンジャーNO.1号、チアガール号、メジロクレイバン号
平成13年度：ヤマノプライズ号
平成14年度：オレンジカウンティ号、フェニックス号
平成15年度：（故）テキーラ号
平成17年度：コパスパイス号、メイクマイディ号
平成20年度：柏嶺号

4. 特 別 表 彰

平成 8 年度：《日本馬術連盟50周年特別表彰》岡田　光夫
平成22年度：《世界選手権大会（2010/ケンタッキー）出場馬の所有者》
本田　正則　ティム号

5. 優 秀 乗 馬

平成10年度：ヴィコンテドメニル号　白井　民平
平成11年度：ヴィコンテドメニル号　白井　民平
平成12年度：ヴィコンテドメニル号　白井　民平
平成17年度：エルメガーデンズファイト号　吉田　勝巳

6. 内国産優秀乗馬

平成９年度：柏雲号　帯広畜産大学
平成10年度：柏雲号　帯広畜産大学、柏海　帯広畜産大学
平成11年度：シンコウブラウン号　JRA札幌競馬場
平成15年度：ベドウィン号　十勝柏友会乗馬クラブ

7. 功 労 団 体

平成15年度：ノーザンホースパーク

8. 獲得ポイント表彰

《選手》
平成４年度：障害馬術部門　ジュニアライダー　白井　岳
平成７年度：障害馬術部門　ジュニアライダー　吉田　俊介
平成８年度：障害馬術部門　ジュニアライダー　吉田　俊介
平成13年度：総合馬術部門　選手権　布施　勝
平成20年度：障害馬術部門　中障害Ｃ　梁川　正重

公益財団法人北海道体育協会表彰受賞者一覧

1 功労者賞

平成９年度：加藤　弘
平成11年度：鎌田　正人
平成12年度：小野　忠
平成13年度：斉藤　善一

2 優秀成績賞

平成元年度：大町哲也、賀山　高、佐伯　光夫、丹治　輝明、宮竹　智明、武笠　昭男
平成５年度：天羽　真崇、白井　岳、吉田　俊介
平成７年度：高柳　大輔、千島　尚士、早田　明、吉田　俊介、
札幌光星高校馬術部
平成８年度：村上　陽子、山本　馨子
平成９年度：早田　未来
平成10年度：島　和弘、安永　大介
平成12年度：白井　岳
平成13年度：林　加奈子、富塚　雅子、堀江　裕紀子、帯広農業高校馬術部
平成14年度：浦河高等学校馬術部

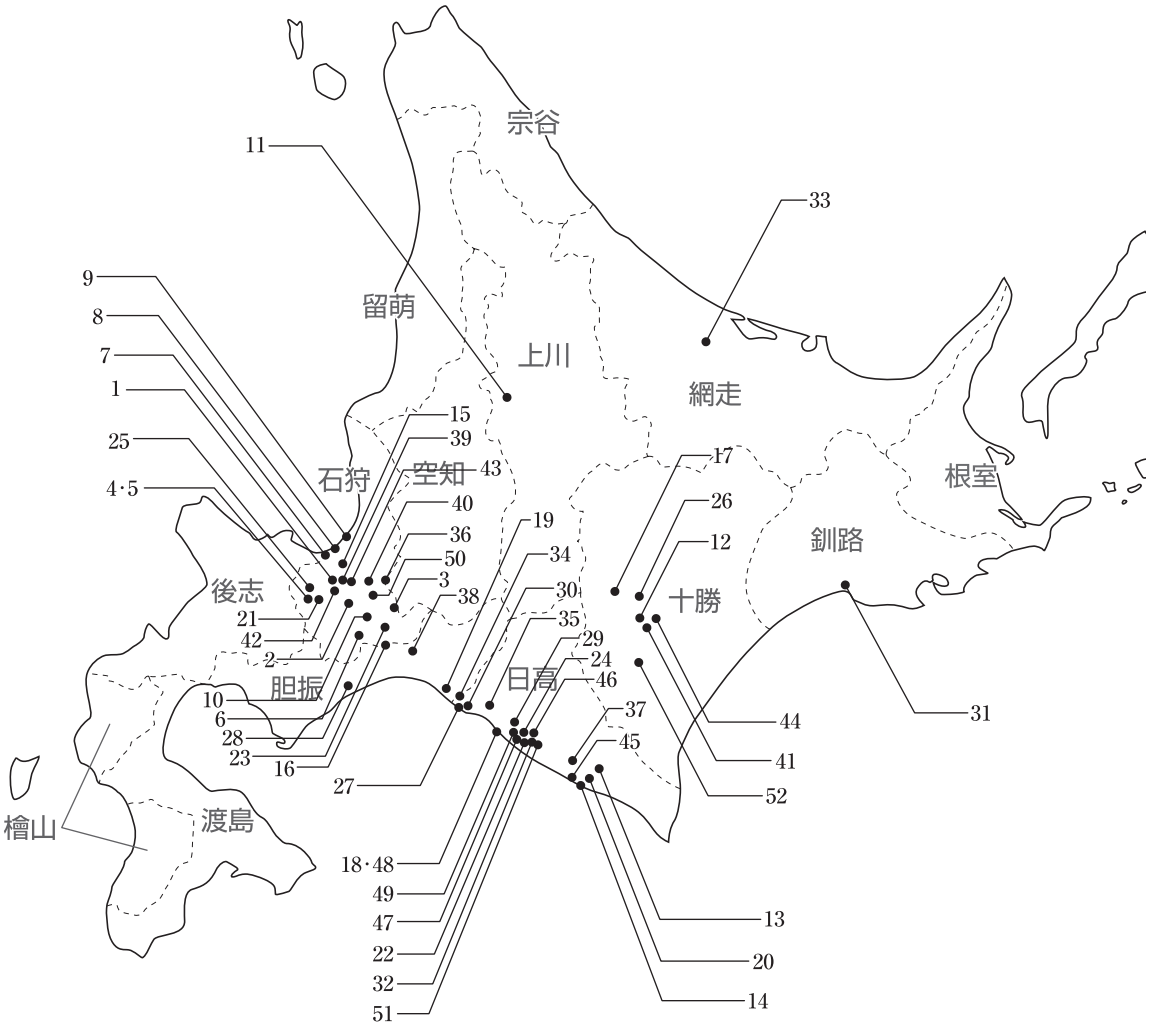
南部忠平奨励賞受賞者一覧

平成９年度：村上　陽子
平成11年度：白井　岳、安永　大介

北海道新聞スポーツ賞受賞者一覧

昭和49年度：帯広畜産大学馬術部
昭和59年度：浦河高校馬術部

北海道乗馬地図


宗谷
留萌
上川
網走
根室
釧路
石狩
空知
後志
十勝
胆振
日高
檜山
渡島
11
33
9
8
7
1
25
4·5
15
39
43
40
36
50
3
38
19
34
30
35
29
24
46
37
45
17
26
12
44
41
52
31
10
6
28
23
16
27
2
21
42
18·48
49
47
22
32
51
13
20
14

北海道乗馬連盟加盟団体

No.	団体(会員)名	所　在　地	電話番号
1	JRA札幌競馬場馬術部	〒060-0016　札幌市中央区北16条西16丁目1-1	011-726-0461
2	モモセライディングファーム	〒004-0813　札幌市清田区美しが丘3条3丁目3-15	011-881-0470
3	マオイホースパーク	〒069-1460　夕張郡長沼町東10線南6号ヤマワ牧場	01238-8-0292
4	札幌乗馬倶楽部	〒061-2276　札幌市南区白川1814番地3	011-596-3537
5	ほくせい乗馬クラブ	〒061-2276　札幌市南区白川1814番地3	011-596-2407
6	スパイス乗馬クラブ	〒066-0068　千歳市蘭越4番地	0123-27-3363
7	乗馬倶楽部メインフィールズ	〒061-3218　石狩市花川東128番地	0133-74-2345
8	オーフルホースコミューン	〒061-3362　石狩市北生振602-3	0133-66-3902
9	フロンテア乗馬クラブ	〒061-3441　石狩市厚田区しっぷ165-3	0133-66-3858
10	すずらん乗馬クラブ	〒061-1356　恵庭市西島松548番地	0123-36-6386
11	旭川乗馬倶楽部	〒070-0901　旭川市花咲町5丁目	0166-51-1832
12	十勝柏友会乗馬クラブ	〒089-1184　帯広市別府町南13線50番地鈴木敬三方	0155-48-8222 0155-48-3819
13	JRA日高育成牧場馬術部	〒057-0171　浦河郡浦河町字西舎535番地13	0146-28-1211
14	浦河乗馬クラブ	〒057-0002　浦河郡浦河町西幌別327-9乗馬公園内	0146-28-1304
15	石狩ホーストレック	〒002-8054　札幌市北区篠路町拓北5266	011-770-4100
16	ノーザンホースパーク	〒059-1361　苫小牧市美沢114-7	0144-58-2812
17	北海道エンデュランス協会	〒081-0223　河東郡鹿追町南町1丁目24	0156-66-2511
18	にいかっぷホロシリ乗馬クラブ	〒059-2412　新冠郡新冠町字節婦71-11	0146-47-3351
19	ファンタストクラブ	〒055-0002　沙流郡日高町字平賀657-10	01456-2-1881
20	大樹ライディングクラブ	〒057-0002　浦河郡浦河町西幌別358番地	0146-28-1436
21	ライディングファームフセ	〒005-0863　札幌市南区常盤307番地	011-593-8566
22	㈲千代田牧場	〒056-0144　日高郡新ひだか町静内田原621番地	0146-46-2400
23	星野Riding Club	〒066-0006　千歳市祝梅605番地1	090-3775-8675
24	JBBA静内種馬場	〒056-0144　日高郡新ひだか町静内田原517番地	0146-46-2321
25	北海道障がい者乗馬センター	〒064-0945　札幌市中央区盤渓256番地2	011-623-5285
26	乗馬クラブ・テキーラ	〒080-0345　河東郡音更町高倉西6線72番地	0155-45-2811
27	学校法人　優駿学園	〒055-0006　沙流郡日高町字緑町39番地	01456-2-6688
28	ホースフレンドファーム	〒059-0901　白老郡白老町字社台378	0144-82-2750
29	遊馬ランドグラスホッパー	〒059-2416　北海道新冠郡新冠町古岸111番地1	0146-49-5511
30	ライディングチームＫＳ	〒055-0004　北海道沙流郡日高町富川東3丁目980-2	01456-2-0140
31	東北海道うま会議	〒085-0035　北海道釧路市共栄大通4丁目2番1075	0154-22-3355
32	三木田乗馬学校	〒056-0143　北海道日高郡新ひだか町静内豊畑181-8	0146-46-2860
33	どさんこトレッキング牧場	〒099-0123　北海道紋別郡遠軽町白滝村上支湧別549-1	0158-48-2628
34	白井牧場不二ファーム乗馬クラブ	〒055-0003　北海道沙流郡日高町福満354-14	01456-2-2737
35	ハントバレートレイニングファーム	〒059-2411　北海道新冠郡新冠町大狩部535番地の2	0146-45-5311
36	南幌ライディングパーク	〒069-0208　北海道空知郡南幌町南8線西14番地	011-378-5800
37	チェスナットファーム	〒057-0036　北海道浦河郡浦河町上絵笛325	0146-22-3533
38	ノーザンファーム	〒059-1432　北海道勇払郡早来町源武275	0145-22-3915
39	北海道大学馬術部	〒001-0023　札幌市北区北23条西12丁目	011-737-1626
40	酪農学園大学馬術部	〒069-0836　江別市文京台緑町582番地1	011-386-8740
41	帯広畜産大学馬術部	〒080-0834　帯広市稲田町西2線9番地 碧雲寮内	0155-48-3137
42	札幌龍谷学園高校馬術部	〒060-0004　札幌市中央区北4条西19丁目	011-631-4386
43	札幌光星高校馬術部	〒065-0013　札幌市東区北13条東9丁目1-1	011-711-7161
44	帯広農業高校馬術部	〒080-0834　帯広市稲田町西1線9番地	0155-48-3051
45	浦河高校馬術部	〒057-0006　浦河郡浦河町東町かしわ1丁目5-1	0146-22-3041
46	静内農業高校馬術部	〒056-0144　日高郡新ひだか町静内田原797番地	0146-46-2101
47	北海道静内高等学校馬術部	〒056-0023　北海道日高郡新ひだか町静内ときわ町1丁目	0146-42-1075
48	新冠町乗馬スポーツ少年団	〒059-2412　新冠郡新冠町字節婦71-11ホロシリＲＣ内	0146-47-3351
49	中村宏厩舎	〒056-0022　日高郡新ひだか町静内高砂町3-9-85	0146-43-0911
50	北広島乗馬クラブ	〒061-1111　北海道北広島市北の里530番地	011-372-5401
51	静内乗馬スポーツ少年団	〒056-0143　北海道静内郡静内町豊畑1955	090-5222-4666
52	中札内ライディングクラブ	〒089-1351　北海道河西郡中札内村東戸蔦東5線168-12	0155-67-2416

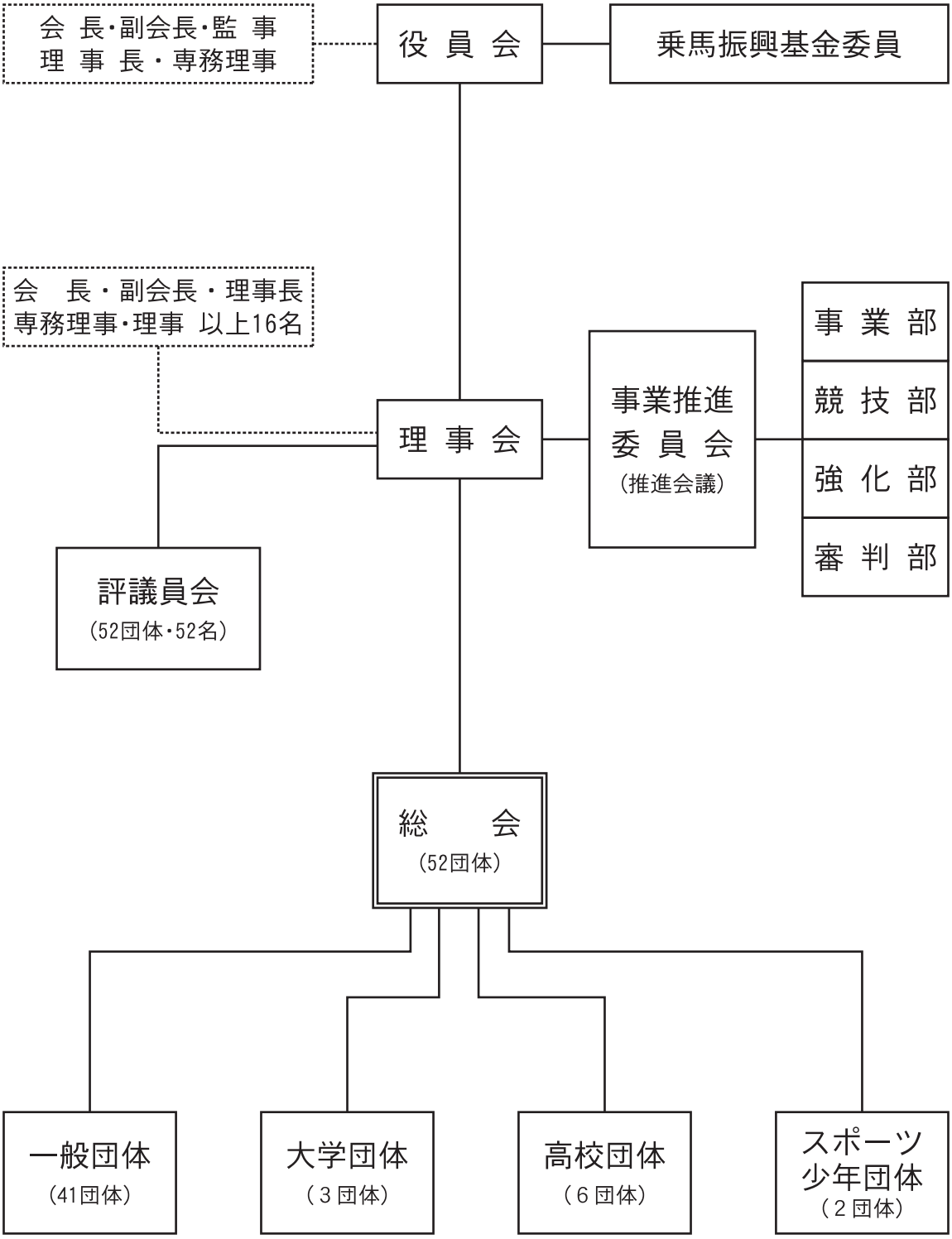
北海道乗馬連盟加盟団体（会員）名簿

（2013. 5. 14）

No.	団体（会員）名	所　在　地	電話番号	FAX番号	代表者名	評議員名	備　考
1	JRA札幌競馬場 馬術部	〒060-0016 札幌市中央区北16条西16丁目1-1	011-726-0461	726-0490	河原　太一	小林　正明	（内2204）
2	モモセライディング ファーム	〒004-0813 札幌市清田区美しが丘3条3丁目3-15	011-881-0470	881-0472	百瀬　利正	百瀬　利宏	厩舎881-9008
3	マオイホースパーク	〒069-1460 夕張郡長沼町東10線南6号ヤマワ牧場	01238-8-0292	8-0292	長岡源一郎	長岡　憲史	881-2817
4	札幌乗馬倶楽部	〒061-2276 札幌市南区白川1814番地3	011-596-3537	596-4547	木村　浩	村上　恵祐	林　眞樹子
5	ほくせい乗馬クラブ	〒061-2276 札幌市南区白川1814番地3	011-596-2407	596-4547	村上　恵祐	木村　浩	林　眞樹子
6	スパイス乗馬クラブ	〒066-0068 千歳市蘭越4番地	0123-27-3363	27-3363	吉崎　敏之	山沢　栄子	
7	乗馬倶楽部 メインフィールズ	〒061-3218 石狩市花川東128番地	0133-74-2345	74-2378	小野　忠	小野　秀則	726-1526
8	オーフルホース コミューン	〒061-3362 石狩市北生振602-3	0133-66-3902	66-3902	斉藤　武彦	竹之内博康	
9	フロンテア乗馬 クラブ	〒061-3441 石狩市厚田区しっぷ165-3	0133-66-3858	66-3591	谷口　健一	谷口　健一	
10	すずらん乗馬クラブ	〒061-1356 恵庭市西島松548番地	0123-36-6386	37-1666	濱田　桂子	濱田　桂子	
11	旭川乗馬倶楽部	〒070-0901 旭川市花咲町5丁目	0166-51-1832	51-1832	桝澤　良和	宮浦　実	桝澤明日香
12	十勝柏友会乗馬 クラブ	〒089-1184 帯広市別府町南13線50番地鈴木敬三方	0155-48-8222 0155-48-3819	48-3819 25-6701	川久保洋治	川久保洋治	FAX 上段 川久保 FAX 下段 久保田
13	JRA日高育成牧場 馬術部	〒057-0171 浦河郡浦河町字西舎535番地13	0146-28-1211	28-1418	高松　勝憲	大林　利弘	大林　利弘
14	浦河乗馬クラブ	〒057-0002 浦河郡浦河町西幌別327-9乗馬公園内	0146-28-1304	28-1305	三枝　剛	木林　恭子	
15	石狩ホーストレック	〒002-8054 札幌市北区篠路町拓北5266	011-770-4100	770-4111	大城　康子	大城　康子	
16	ノーザンホースパーク	〒059-1361 苫小牧市美沢114-7	0144-58-2812	58-2378	吉田　勝巳	楠木　貴成	
17	北海道エンデュランス 協会	〒081-0223 河東郡鹿追町南町1丁目24	0156-66-2511	66-3585	三井　福成		菅原　福次
18	にいかっぷホロシリ 乗馬クラブ	〒059-2412 新冠郡新冠町字節婦71-11	0146-47-3351	47-3351	山畠　輝男	加藤　結	山畠　輝男
19	ファンタストクラブ	〒055-0002 沙流郡日高町字平賀657-10	01456-2-1881	2-1414	諸橋　佳宏	諸橋　佳宏	
20	大樹ライディング クラブ	〒057-0002 浦河郡浦河町西幌別358番地	0146-28-1436	28-1452	荻野　豊		荻野　豊
21	ライディング ファームフセ	〒005-0863 札幌市南区常盤307番地	011-593-8566	593-8566	布施佐知子	吉田　慎一	布施佐知子
22	㈲千代田牧場	〒056-0144 日高郡新ひだか町静内田原621番地	0146-46-2400	46-2440	飯田　正剛	飯田　正剛	
23	星野Riding Club	〒066-0006 千歳市祝梅605番地1	090-3775-8675	0123- 29-2662	星野　良三	星野　良三	
24	JBBA静内種馬場	〒056-0144 日高郡新ひだか町静内田原517番地	0146-46-2321	46-2321	中西　信吾	藤田　真弘	山口　直人
25	北海道障がい者 乗馬センター	〒064-0945 札幌市中央区盤渓256番地2	011-623-5285	623-5285	金川　弘司	後藤　良忠	

No.	団体(会員)名	所　在　地	電話番号	FAX番号	代表者名	評議員名	備　考
26	乗馬クラブ・ テキーラ	〒080-0345 河東郡音更町高倉西6線72番地	0155-45-2811	45-2811	高野　文彰	小栗　紀彦	高野　文彰
27	学校法人　優駿学園	〒055-0006 沙流郡日高町字緑町39番地	01456-2-6688	2-6666	永田　雄三		
28	ホースフレンド ファーム	〒059-0901 白老郡白老町字社台378	0144-82-2750	82-3652	秋田　政司	秋田　政司	秋田　政司
29	遊馬ランド グラスホッパー	〒059-2416 北海道新冠郡新冠町古岸111番地1	0146-49-5511	49-5512	荒井　亜紀	八木　　徹	中野渡　厚
30	ライディングチーム ＫＳ	〒055-0004 北海道沙流郡日高町富川東3丁目980-2	01456-2-0140	2-0400	加藤　貴子		
31	東北海道うま会議	〒085-0035 北海道釧路市共栄大通4丁目2番1075	0154-22-3355	22-3396	坂野　賀孝	両角　陽一	加藤　健司
32	三木田乗馬学校	〒056-0143 北海道日高郡新ひだか町静内豊畑181-8	0146-46-2860	46-2860	三木田照明		
33	どさんこトレッキング 牧場	〒099-0123 北海道紋別郡遠軽町白滝村上支湧別549-1	0158-48-2628	48-2658	本田　正則	本田　正則	
34	白井牧場不二ファーム 乗馬クラブ	〒055-0003 北海道沙流郡日高町福満354-14	01456-2-2737	2-3003	白井　　岳		
35	ハントバレー トレイニングファーム	〒059-2411 北海道新冠郡新冠町大狩部535番地の2	0146-45-5311	45-5312	吉田　久則	吉田　久則	
36	南幌 ライディングパーク	〒069-0208 北海道空知郡南幌町南8線西14番地	011-378-5800	378-5858	松井　國彦	松井　一恵	大桃志穂里
37	チェスナットファーム	〒057-0036 北海道浦河郡浦河町上絵笛325	0146-22-3533	22-3533	広瀬　　亨		
38	ノーザンファーム	〒059-1432 北海道勇払郡早来町源武275	0145-22-3915	22-3551	吉田　勝巳	安藤　康晴	
39	北海道大学馬術部	〒001-0023 札幌市北区北23条西12丁目	011-737-1626	737-1626	江口　遼太	加藤亜也奈	
40	酪農学園大学馬術部	〒069-0836 江別市文京台緑町582番地1	011-386-8740	386-8740	加藤　清雄		
41	帯広畜産大学馬術部	〒080-0834 帯広市稲田町西2線9番地 碧雲寮内	0155-48-3137	48-3137	柏村　文郎	奥村　秋津	
42	札幌龍谷学園高校 馬術部	〒060-0004 札幌市中央区北4条西19丁目	011-631-4386	614-4775	上山　功夫	田中　　稔	
43	札幌光星高校馬術部	〒065-0013 札幌市東区北13条東9丁目1-1	011-711-7161	711-7330	市瀬　幸一	森田　慎一	
44	帯広農業高校馬術部	〒080-0834 帯広市稲田町西1線9番地	0155-48-3051	48-3052	米田　敏也	大口　亮介	
45	浦河高校馬術部	〒057-0006 浦河郡浦河町東町かしわ1丁目5-1	0146-22-3041	22-2814	緒方　　公		
46	静内農業高校馬術部	〒056-0144 日高郡新ひだか町静内田原797番地	0146-46-2101	46-2151	廣瀬　之彦	池田　幸治	塚田　　新
47	北海道静内高等学校 馬術部	〒056-0023 北海道日高郡新ひだか町静内ときわ町1丁目	0146-42-1075	42-1077	佐竹　哲雄	高橋　敬一	
48	新冠町乗馬スポーツ 少年団	〒059-2412 新冠郡新冠町字節婦71-11ホロシリＲＣ内	0146-47-3351	47-3351	橋本　正光	長浜謙太郎	加藤　　結
49	中村宏厩舎	〒056-0022 日高郡新ひだか町静内高砂町3-9-85	0146-43-0911	43-0912	中村　　宏	田口　貴也	
50	北広島乗馬クラブ	〒061-1111 北海道北広島市北の里530番地	011-372-5401	372-0768	城　　憲司	城　　憲司	
51	静内乗馬スポーツ 少年団	〒056-0143 北海道静内郡静内町豊畑1955	090-5222-4666		上島　浩子	田口真由美	
52	中札内ライディング クラブ	〒089-1351 北海道河西郡中札内村東戸蔦東5線168-12	0155-67-2416	67-2416	山口　佳男	岩上真理子	

北海道乗馬連盟組織図

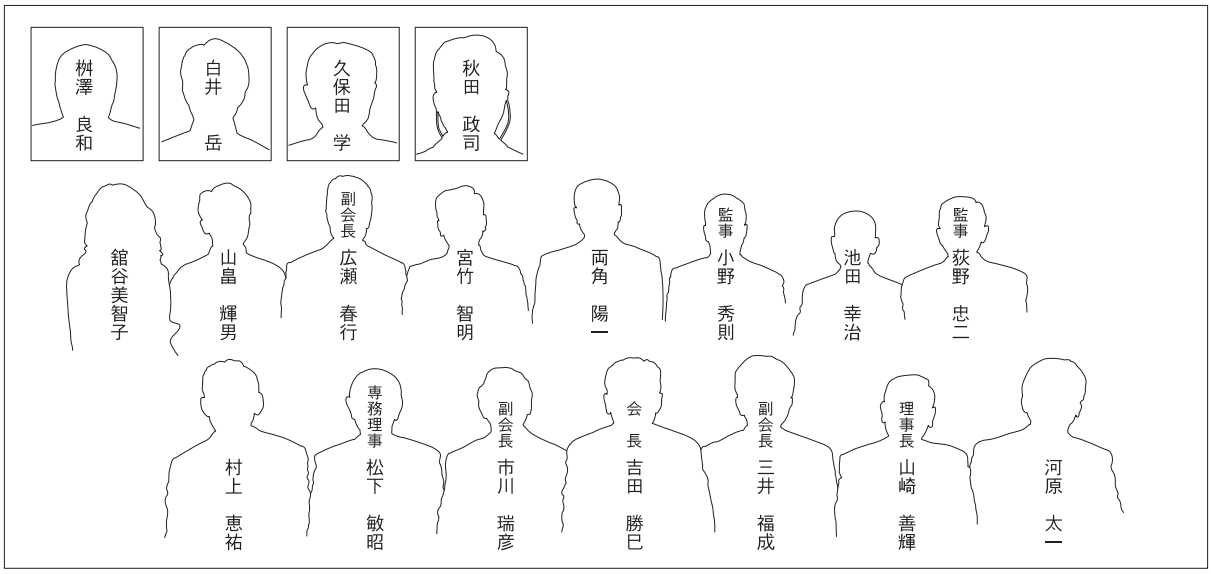

会 長・副会長・監 事
理 事 長・専務理事
役 員 会
乗馬振興基金委員
会　長・副会長・理事長
専務理事・理事 以上16名
理 事 会
事業推進
委 員 会
（推進会議）
事 業 部
競 技 部
強 化 部
審 判 部
評議員会
（52団体・52名）
総　　会
（52団体）
一般団体
（41団体）
大学団体
（３団体）
高校団体
（６団体）
スポーツ
少年団体
（２団体）

平成25年度 北海道乗馬連盟役員名簿

会　長	吉田　勝巳
副 会 長	市川　瑞彦、三井　福成、広瀬　春行
理 事 長	山崎　善輝
専務理事	松下　敏昭
理　事	秋田　政司、白井　岳、河原　太一、久保田　学、山畠　輝男、村上　恵祐、両角　陽一、宮竹　智明、桝澤　良和、舘谷　美智子、池田　幸治
監　事	荻野　忠二、小野　秀則

理事会・新年会において

平成26年１月16日　東京ドームホテル札幌



日本馬術連盟北海道地区審判員名簿

1　級

障害馬術

小川　石美、川久保　洋治、久保田　学、佐藤　友信、竹之内　博康、鍋谷　康次郎、
広瀬　春行、松下　敏昭、宮竹　智明、矢野　薫、山崎　善輝、齋藤　比呂志、
八巻　勝則、荻野　忠二、秋田　政司、村上　恵祐、舘谷　美智子、山田　亨、
上妻　智、鈴木　光子、馬場　梢、小守　智志

馬場馬術

小川　石美、川久保　洋治、久保田　学、佐藤　友信、竹之内　博康、鍋谷　康次郎、
広瀬　春行、松下　敏昭、宮竹　智明、矢野　薫、山崎　善輝、齋藤　比呂志、
八巻　勝則、荻野　忠二、秋田　政司、村上　恵祐、舘谷　美智子、山田　亨、
上妻　智、丑谷　理砂、鈴木　光子、馬場　梢、小守　智志

総合馬術

小川　石美、川久保　洋治、久保田　学、佐藤　友信、竹之内　博康、鍋谷　康次郎、
広瀬　春行、松下　敏昭、宮竹　智明、矢野　薫、山崎　善輝、齋藤　比呂志、
八巻　勝則、荻野　忠二、秋田　政司、村上　恵祐、舘谷　美智子、山田　亨、
上妻　智、鈴木　光子

エンデュランス

久保田　学、松下　敏昭、山崎　善輝、秋田　政司、谷津　江里、上妻　智、
菅原　末治、吉田　道宏

2　級

障害馬術

賀山　高、大林　利弘、麻野　和彦、丑谷　理砂、両角　陽一、稲原　智子、加藤　健司、
中村　宏、山畠　輝男

馬場馬術

賀山　高、大林　利弘、麻野　和彦、百瀬　利宏、稲原　智子、中村　宏、山畠　輝男

総合馬術

賀山　高、大林　利弘、麻野　和彦、丑谷　理砂、稲原　智子、山畠　輝男

3　級

村上　陽子、木村　浩、楠木　貴成、草薙　裕、片山　彰、城　憲司、田上　雅美、
藤井　沙織、百瀬　利宏、本田　正則、菅原　末治、堂下　秀太郎、冨川　創平、
小田　正志、松井　一恵、三井　福成、西垣　祐希、大城　康子、阿部　栄子、
阿部　睦也、勝野　晶子、畠山　朋弘、畠山　彩、小島　正志朗、両角　陽一、
吉田　道宏、菅原　福次、加藤　健司、木原　源一郎、大原　要、加藤　結

北海道乗馬連盟会則

昭和29（1954）年５月15日規約制定
昭和51（1976）年４月１日改定・会則
昭和57（1982）年４月４日改定
平成12（2000）年４月23日改定
平成14（2002）年４月21日一部改定
平成22（2010）年４月25日一部改定

第１章　総　　則

（名　　称）

第１条　この連盟は、北海道乗馬連盟（Hokkaido Equestrian Federation:HEF）（以下「道馬連」という。）という。

（事　務　局）

第２条　この連盟は事務局を札幌市内に置く。

第２章　目的及び事業

（目　　的）

第３条　この連盟は、北海道における乗馬家及び乗馬団体相互間の連絡提携と親睦の場となり、馬術に関する諸行事の実施とその普及向上を図ることにより、北海道の健全なるスポーツと文化の発展に寄与することを目的とする。

２　この連盟は、社団法人日本馬術連盟（以下「日馬連」という。）及び財団法人北海道体育協会（以下「道体協」という。）に加盟し、その事業の遂行に参画する。

（事　　業）

第４条　この連盟は、前条の目的を達成するため次の各号に掲げる事業を行う。

⑴　馬術に関する講習会及び講演会の開催
⑵　地域乗馬の普及・促進及び乗馬団体の育成・指導
⑶　馬術競技会の開催
⑷　乗馬の増加並びに乗馬施設の拡充推進
⑸　乗馬関係情報の会員への連絡及び取りまとめ
⑹　日馬連及び道体協から委任される事務及び事業
⑺　その他、この連盟の目的達成のために必要な事業

第３章　会　　員

（会員の種別）

第５条　この連盟の会員は、次のとおりとする。

⑴　正会員は団体会員とし、北海道内に住所、居所を有する乗馬団体とする。団体に所属する乗馬家或いは個人は準会員とする。

⑵　賛助会員は、この連盟の目的に賛同し、事業を賛助する個人または団体とする。

⑶　名誉会員は、この連盟の管理・運営に著しく貢献した個人または団体とする。

（入　　会）

第６条　この連盟の正会員として入会を希望する者は、入会申込書を提出し、理事会の承認を受けなければならない。また、賛助会員及び名誉会員は会長が理事会に諮って推挙する。

（会費及び入会金）

第７条　この連盟の正会員は、総会の決議によって定められた年会費を、毎年４月に納めなければならない。但し、新入会者は入会と同時に入会金及びその年度の会費を全額納めるものとする。

（資格の喪失）

第８条　この連盟の会員は、次の各号の１に該当するときは、その資格を喪失する。

⑴　団体が解散したとき

⑵　退会を申し出て承認されたとき

⑶　除名されたとき

２　前項第３号の除名は、会員が次の各号の１に該当するときに、会長が理事会に諮り、これを執り行うことができる。

⑴　会費を滞納したとき

⑵　会員としての義務に違反したとき

⑶　この連盟の名誉を傷つけたとき

⑷　この連盟の目的に違反する行為のあったとき

第４章　役員及び職員

（役　　員）

第９条　この連盟は、次の役員を置く。

⑴　会　　長　　１名

⑵　副　会　長　　若干名

⑶　理　事　長　　１名

⑷　専務理事　　１名

⑸　理　　事　　９名～12名

⑹　監　　事　　２名

⑺　評　議　員　　正会員数

（役員の選任）

第10条　この連盟の会長、理事及び監事は総会において選任する。

２　副会長、理事長、専務理事は、理事会において、理事の互選により定める。

３　評議員は、各団体から１名ずつ推挙し、理事会の承認を受け会長が任命する。

（役員の職務）

第11条　この連盟の役員の職務は、次のとおりとする。

⑴　会長は、この連盟を代表し、この連盟の業務を総理し、総会、役員会及び理事会の議長を務める。

⑵　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、または、欠けたときは会長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。

⑶　理事長は、会長及び副会長を補佐し、総会、理事会で決議した事項を処理し、また、会長、副会長共に事故あるときは、その職務を代行する。

⑷　専務理事は、理事長を補佐し、事務局事務を総轄する。

⑸　理事は、理事会を組織し、この会則に定めるもののほか、この連盟の総会の権限に属せしめられた事項以外の事項を決議し、処理する。また、総会に付議する事項を審議決定する。

⑹　監事は、この連盟の業務及び会計について監査する。

⑺　評議員は、評議員会を組織し、この連盟の運営に参画する。

（顧問及び参与）

第12条　この連盟に、次により顧問及び参与を各々若干名おくことができる。

⑴　顧問及び参与は、会長が理事会に諮って、これを委嘱する。

⑵　顧問は、この連盟の業務遂行上重要な事項に関して、会長の諮問に答え、また、会長に意見を述べることができる。

⑶　参与は、この連盟の業務上重要な事項に参画する。

（役員の任期）

第13条　この連盟の役員の任期は2年間とし、再選は妨げない。

2　補欠または増員により選任された役員の任期は、現在者（または前任者）の残任期間とする。

3　役員は、その任期満了後でも、後任者が就任するまでは、なお、その職務を行う。

4　役員は、この連盟の役員として相応しくない行為のあった場合、または、特別の事情がある場合には、その任期中にあっても、総会及び理事会の決議により、会長がこれを解任することができる。

（役員の報酬）

第14条　この連盟の役員は無報酬とするが、常勤の役員を置いた場合、総会の決議により、報酬を支払うことができる。

（職　　員）

第15条　この連盟の事務を処理するため、職員を置くことができる。

2　職員は、会長がこれを任免するものとする。

3　職員の服務及び給与は、会長が理事会に諮ってこれを決定する。

第5章　会　　議

（総　　会）

第16条　この連盟の総会は、役員、正会員（団体の会長または会長が委任する者）、賛助会員及び名誉会員を持って構成する。

2　通常総会は、毎年１回、会計年度終了後60日以内に会長が召集する。

3　臨時総会は、会長が必要と認めたときは、いつでも召集することができる。

4　会長は、会員現在数の10分の１以上から会議に付議すべき事項を示して、総会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から20日以内に臨時総会を招集しなければならない。

5　準会員は、任意に総会に出席することができる。

（総会の成立）

第17条　この連盟の総会は、正会員の２分の１以上の出席をもって成立する。ただし、当該議事につき書面をもって、あらかじめ意思表示があったものは、出席者と見なす。

（総会の付議事項）

第18条　この連盟の通常総会においては、次の事項を審議決定する。

⑴　役員の選任

⑵　事業計画及び収支予算並びに事業報告及び収支決算

⑶　会費及び入会金の改定

⑷　会則の制定及び改廃

⑸　この連盟の解散

⑹　その他理事会で決定した事項

（総会の議決）

第19条　この連盟の総会における議事は、この会則に別に定めがある場合を除くほか、出席する正会員の過半数をもって決定し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

2　総会において、正会員は、１票の議決権を行使することができる。

（理　事　会）

第20条　この連盟の理事会は、会長、副会長、監事、理事長、専務理事、技術担当理事及び理事をもって構成し、会長が必要に応じて召集する。

2　理事会の決議は、この会則に定めがある場合を除くほか、出席理事の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3　理事会は、理事現在数の３分の２以上の出席をもって成立する。ただし、当該議事につき書面をもって、あらかじめ意思表示があったものは出席者と見なす。

4　簡易な事項、または、急を要する事項については、書面により可否を求め、理事会の決議に代えることができる。その場合、全理事の過半数をもって議決する。

（役　員　会）

第21条　この連盟の役員会は、会長、副会長、監事、理事長、専務理事及び技術担当理事をもって構成し、会長が必要に応じて召集することができる。

（評 議 員 会）

第22条　この連盟の評議員会は、評議員をもって構成し、理事長が必要に応じて招集するが、評議員の総意で招集要望がある場合は議長と調整して任意に招集することが出来る。理事長、専務理事、技術担当理事は評議員会招集の都度出席する。

2　評議員会の議長及び副議長は、毎年度当初に、評議員の互選によって決定し、任期は1年間とし、再任は妨げない。

3　評議員会は、理事長から提案された事項について審議し、この連盟の業務が円滑に遂行されるよう務める。

4　評議員会は、役員候補を推挙することができる。

（議　事　録）

第23条　すべての会議では、議事録を作成し、選任された出席資格者2名以上が署名押印の上、会議関係者に発送すると共に、事務局においてこれを保管する。

2　議事録には、次の事項を記載する。

⑴　会議の日時及び場所

⑵　出席資格者の現在数

⑶　出席者数及び氏名（書面表決者及び表決の委任者を含む）

⑷　議決事項

⑸　議事の経過の概要及び結果

⑹　議事録署名人の選任に関する事項

第6章　委員会及び専門部

（委員会及び専門部）

第24条　この連盟は、事業推進のため、各種の委員会及び専門部を置くことができる。

2　委員会委員及び専門部部員、並びに委員長及び部長は、会長が理事会に諮ってこれを委嘱する。

3　委員会及び専門部の運用については、会長が理事会に諮って決定する。

第7章　表　　彰

（表　　彰）

第25条　この連盟の表彰は、会長が理事会に諮って決定する。これに係る細則は理事会に諮って別に定める。

第８章　資産及び会計

（資産の範囲）

第26条　この連盟の資産は、次のとおりとする。

⑴　会費及び入会金

⑵　北海道、道体協、日馬連及びその他各種団体等からの助成金または補助金

⑶　この連盟の所有する資産から生ずる果実

⑷　賛助会員、名誉会員及び有志者から寄付された金品

⑸　この連盟設立当初から継承した資産及び別に定める基金

⑹　その他の収入

（資産の管理）

第27条　この連盟の資産は、理事長が管理し、その方法は、理事会の決議により定める。

２　資産のうち、現金は確実な金融機関に預け入れ、保管しなければならない。

（会計の区分）

第28条　この連盟は、次に掲げる会計ごとに明確に区分して経理するものとする。

⑴　一般会計

⑵　国体人馬派遣特別会計

⑶　基金会計

ア　北海道乗馬連盟運営基金

イ　北海道乗馬連盟乗馬振興基金

ウ　北海道乗馬連盟国体派遣基金

（基　　金）

第29条　この連盟は、特別の事業推進のため、その財源を基金として積み立てることができる。

２　この基金の積み立て及び運用等に関する細則は、会長が理事会に諮って別に定める。

（物品等の貸与）

第30条　この連盟は、その所有する物品等を、この連盟に所属する会員に貸与することができる。この細則は、会長が理事会に諮って別に定める。

（会 計 年 度）

第31条　この連盟の会計年度は、毎年４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる。

（監　　査）

第32条　この連盟の会長は、毎事業年度終了後、次の各号に掲げる書類を作成し、総会開催前に監事に提出して、その監査を受けなければならない。

⑴　事業報告書

⑵　収支決算書

⑶　経理簿及び経費明細書

⑷　出金伝票及び入金伝票

⑸　預金通帳類

⑹　備品台帳その他求められた書類等

第９章　補　　則

（施 行 細 則）

第33条　この連盟の会則の施行についての細則は、理事会の議決を経て、別に定める。

２　別に定める細則は次のとおり。

⑴　北海道乗馬連盟会則施行規程

⑵　北海道乗馬連盟理事会規程

⑶　北海道乗馬連盟審判部規程

⑷　北海道乗馬連盟競技部規程

⑸　北海道乗馬連盟強化部規程

⑹　北海道乗馬連盟国体馬術競技参加人馬選考委員会規程

⑺　北海道乗馬連盟物品等貸与規程

⑻　北海道乗馬連盟事務処理規程

⑼　北海道乗馬連盟旅費及び手当支給規程

⑽　北海道乗馬連盟表彰規程

⑾　北海道乗馬連盟基金運用規程

⑿　北海道乗馬連盟事業本部規程

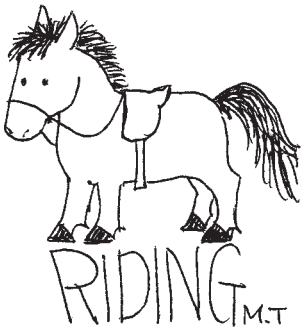
附則１　昭和29（1954）年５月15日の設立総会において、北海道乗馬連盟規約として制定する。

附則２　この連盟の規約は、昭和51年４月１日に改定し、名称を北海道乗馬連盟会則に変更して、施行する。

附則３　この会則は、昭和57年４月４日に全面改正し、この日より施行する。

附則４　この会則は、平成12年４月23日に一部改正し、この日より施行する。

附則５　この会則は、平成14年４月21日に一部改正し、この日より施行する。



編集後記

「北海道乗馬連盟60年史」の編集は、平成23年６月30日に行われた北海道乗馬連盟第２回理事会において、「北海道乗馬連盟創立60周年記念事業準備委員会」が設置され、記念事業として、１）記念式典・祝賀会、２）記念誌の発刊、３）記念競技会の３事業を実施することが決まったことにより始まった。

編集委員会は、「北海道乗馬連盟60年史」の編集方針として、基本的には「北海道乗馬連盟40年史」のスタイルを踏襲することとした。異なる点は、「40年史」のＢ５判をＡ４判に変えて大きくしたことであり、もう一つは「40年史」にはなかった「座談会」が二つ組まれたことである。

「座談会」は、小野忠氏ご自身が依頼原稿を執筆する代わりとして提案され、道馬連の創立の頃をふり返って若い世代の人が知らない貴重なお話を伺うことを目的とした〈ベテラン座談会：創立の頃をふり返って（昭和世代が語る）〉。この道馬連の大先輩諸氏による座談は大いに盛り上がり、勢い話題は広範囲に及び、時間と空間を行きつ戻りつ飛翔する結果となった。いずれも貴重な話ではあったが、さすがにボリュームが大きすぎると判断し、それを縮小せざるを得ないこととなった。この長さの縮小・重複箇所の合体の作業は、荷の重い仕事であった。“なんでこの話を削ったのか”と、お叱りの声が聞こえてくるような気がしたものである。なるべく雰囲気は壊さないようにしながらも、やむなく、役目柄内容を１/３に縮小させていただいた。どうかご了承をお願いしたい。

この座談会を終えた後で、“大先輩が道馬連を振り返る”のも意義があるが、“若手が道馬連の将来を語る”ことも必要だという声があがり、もう一つの座談会〈若手座談会：これからの道馬連（平成世代が語る）〉が企画され、実施された。この若手座談会の進行や整理には、ベテラン座談会での経験が役に立った（これら二つの座談会の長時間の録音の書き起こし・整理は舘谷委員による）。

ここ20年間の道馬連活動の写真は、数、年代及び地域的バランスなどまだ十分なものではないと思われるが、時間的な制約もあり、やむを得ないものと判断した。今後の機会に補充することが望まれる。

寄稿依頼に快く応じていただいた日馬連会長、北海道知事、北海道体育協会会長をはじめとする皆様方には心から篤くお礼申し上げます。また、座談会の準備や写真提供にご協力いただいた皆さんにもお礼申し上げます。カットは田伏美穂さんにお願いしました。

（市川　瑞彦）

編集委員：秋田　政司、丑谷　理砂、久保田　学、菅原　末治、舘谷美智子、松下　敏昭、
宮浦　　実、宮竹　智明、山田　　亨　　（50音順）

北海道乗馬連盟60年史

平成26年４月17日発行

編　著　北海道乗馬連盟60年史編集委員会

発行者　吉　田　勝　巳

発行所　北海道乗馬連盟
〒062-0905
札幌市豊平区豊平５条11丁目1-1
北海道立総合体育センター内
TEL•FAX：011-833-2252
E-mail:hef@royal.ocn.ne.jp